

青武町埋蔵文化財調査報告書 第13集

HAKKANO

白ヶ野第1・第4遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2004

青武町教育委員会

序

本書は、県営農地保全整備事業（船引地区）に伴い、平成7年度及び8年度事業地で実施した白ヶ野第1・第4遺跡の調査報告書です。

白ヶ野第1遺跡では、約1万年も続いた縄文時代の資料が数多く確認され、なかでも幾何学的な文様が特徴の曾畑式土器は、県内ではあまり出土しない貴重な土器です。また、白ヶ野第4遺跡では、縄文時代早期の資料が確認され、特に石製の腕輪は当時の人々の精神文化や暮らしの様子を知る大きな手がかりとなるでしょう。

今後、これらの成果が、考古学研究の学術資料や社会教育及び学校教育の資料として広く活用され、埋蔵文化財保護への理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なご協力を頂きました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

清武町教育委員会

教育長 湯地敏郎

例 言

1. 本書は、県営農地保全整備事業（船引地区）に伴う、白ヶ野第1・第4遺跡の発掘調査報告書である。
2. 図面の作成は伊東但、井田篤、
が行った。
3. 遺物・図面の整理は清武町埋蔵文化財センターにて、伊東、井田、秋成雅博、富田卓見、
若杉知和（宮崎大学学生）、
が行った。
4. 植物珪酸体及びテフラ検出分析、放射性炭素年代測定等の自然科学分析は(株)古環境研究所に委託した。尚、分析結果の詳細については、当報告書本文後に掲載している。
5. 本書に使用した写真は伊東・井田が撮影を行い、空中写真については(株)スカイサーベイに委託した。
6. 本書に使用した記号は次のとおりである。SI：集石遺構 SC：土坑
7. 本書に使用した方位は第1図・第2図が磁北で、その他は真北である。尚、レベルは海拔絶対高である。
8. 基本土層や遺構埋土等の色調は『新版 標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。
9. 本書の作成にあたって以下の方々から貴重なご指導とご助言をいただきました。記して感謝申し上げます。
森田浩史、金丸武司（田野町教育委員会） 白岩修（木城町教育委員会）
(敬称略)
10. 本書の執筆・編集は伊東の協力を得て、井田が行った。

目 次

第1章 はじめに	
第1節 調査に到る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第2章 調査の概要	
第1節 遺跡の位置と環境	2
第2節 周辺遺跡について	2
第3章 白ヶ野第1遺跡	
第1節 調査過程について	6
第2節 基本土層について	6
第3節 遺構について	
(1) 集石遺構	9
(2) 土坑	14
第4節 包含層出土の遺物について	
(1) 縄文土器	21
(2) 弥生時代以降の土器	39
(3) 石器	41
第5節 まとめ	47
第4章 白ヶ野第4遺跡	
第1節 調査過程について	54
第2節 遺構について	
(1) 土坑	56
(2) 集石遺構	56
第3節 包含層出土の遺物について	
(1) 縄文土器	61
(2) 石器	69
第4節 まとめ	71
自然科学分析調査報告書(株)古環境研究所	75～89
調査抄録	90

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (1/50000)	3
第2図	遺跡周辺地形図 (1/3000)	5
第3図	白ヶ野第1遺跡基本土層図-谷地形- (1/30)	6
第4図	白ヶ野第1遺跡基本土層図-平坦部- (1/30)	6
第5図	白ヶ野第1遺跡遺物及び遺構分布図 (1/800)	7・8
第6図	SI-1,2,3,4,5,6実測図 (1/30)	10
第7図	SI-7,8,9,10,11,12,13実測図 (1/30)	11
第8図	SC-40出土遺物 (1/3)	14
第9図	SC-71,106,40,45,77・78,28・29,27実測図 (1/40)	15
第10図	SC-58,48,59・60,107,24・25,43,51,46実測図 (1/40)	16
第11図	包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3)	23
第12図	包含層出土縄文土器実測図 (2) (1/3)	24
第13図	包含層出土縄文土器実測図 (3) (1/3)	25
第14図	包含層出土縄文土器実測図 (4) (1/3)	26
第15図	包含層出土縄文土器実測図 (5) (1/3)	27
第16図	包含層出土縄文土器実測図 (6) (1/3)	28
第17図	包含層出土縄文土器実測図 (7) (1/3)	29
第18図	包含層出土縄文土器実測図 (8) (1/3)	30
第19図	包含層出土縄文土器実測図 (9) (1/3)	31
第20図	包含層出土縄文土器実測図 (10) (1/3)	32
第21図	包含層出土縄文土器実測図 (11) (1/3)	33
第22図	包含層出土弥生時代以降遺物実測図 (1) (1/3)	40
第23図	包含層出土弥生時代以降遺物実測図 (2) (1/3)	41
第24図	包含層出土石器実測図 (1) (2/3)	42
第25図	包含層出土石器実測図 (2) (2/3)	43
第26図	包含層出土石器実測図 (3) (2/3)	44
第27図	包含層出土石器実測図 (4) (2/3)	45
第28図	白ヶ野第4遺跡基本土層図 (1/30)	54
第29図	白ヶ野第4遺跡遺物及び遺構分布図 (1/400)	55
第30図	SC-1・2実測図 (1/30)	56
第31図	SI-1,2,3,4,5実測図 (1/30)	57
第32図	SI-6,8,9実測図 (1/30)	58
第33図	包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3)	62
第34図	包含層出土縄文土器実測図 (2) (1/3)	63
第35図	包含層出土縄文土器実測図 (3) (1/3)	64

第36図	包含層出土縄文土器実測図 (4) (1/3)	65
第37図	包含層出土縄文土器実測図 (5) (1/3)	66
第38図	包含層出土石器実測図 (1) (2/3)	70
第39図	包含層出土石器実測図 (2) (2/3)	71

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表 (既調査)	4
第2表	白ヶ野第1遺跡集石遺構観察表	9
第3表	白ヶ野第1遺跡土坑観察表 (1)	17
第4表	白ヶ野第1遺跡土坑観察表 (2)	18
第5表	白ヶ野第1遺跡土坑観察表 (3)	19
第6表	包含層出土縄文土器観察表 (1)	34
第7表	包含層出土縄文土器観察表 (2)	35
第8表	包含層出土縄文土器観察表 (3)	36
第9表	包含層出土縄文土器観察表 (4)	37
第10表	包含層出土縄文土器観察表 (5)	38
第11表	包含層出土弥生時代以降遺物観察表	39
第12表	包含層出土石器計測表	46
第13表	白ヶ野第4遺跡集石遺構観察表	58
第14表	包含層出土縄文土器観察表 (1)	67
第15表	包含層出土縄文土器観察表 (2)	68
第16表	包含層出土石器計測表	69

図 版 目 次

図版 1	白ヶ野第 1 遺跡 (平成 7 年度調査区)	12	図版36	包含層出土縄文土器 (11)	51
図版 2	白ヶ野第 1 遺跡 (平成 8 年度調査区)	12	図版37	包含層出土弥生時代以降遺物 (1)	52
図版 3	白ヶ野第 1 遺跡基本土層	12	図版38	包含層出土弥生時代以降遺物 (2)	52
図版 4	SI- 1	12	図版39	包含層出土弥生時代以降遺物 (3)	52
図版 5	SI- 2	12	図版40	包含層出土弥生時代以降遺物 (4)	52
図版 6	SI- 3	12	図版41	包含層出土石器 (1)	53
図版 7	SI- 4	12	図版42	包含層出土石器 (2)	53
図版 8	SI- 5	12	図版43	包含層出土石器 (3)	53
図版 9	SI- 6	13	図版44	白ヶ野第 4 遺跡全景	54
図版10	SI- 7	13	図版45	SC- 1・2 検出	56
図版11	SI- 8	13	図版46	SC- 1・2	56
図版12	SI- 9	13	図版47	白ヶ野第 4 遺跡集石群	59
図版13	SI- 10	13	図版48	SI- 1 (1)・(2)	59
図版14	SI- 11	13	図版49	SI- 3	59
図版15	SI- 12	13	図版50	SI- 2 ①	59
図版16	SI- 13	13	図版51	SI- 2 ②	59
図版17	SC- 40出土遺物	14	図版52	SI- 2 ③	59
図版18	SC- 40	20	図版53	SI- 4	60
図版19	SC- 28・29	20	図版54	SI- 5	60
図版20	SC- 45	20	図版55	SI- 6	60
図版21	SC- 43	20	図版56	SI- 8	60
図版22	SC- 27	20	図版57	SI- 9	60
図版23	SC- 51	20	図版58	石製腕輪出土状況	60
図版24	SC- 106	20	図版59	包含層出土縄文土器 (1)	72
図版25	SC- 59・60	20	図版60	包含層出土縄文土器 (2)	72
図版26	包含層出土縄文土器 (1)	48	図版61	包含層出土縄文土器 (3)	72
図版27	包含層出土縄文土器 (2)	48	図版62	包含層出土縄文土器 (4)	73
図版28	包含層出土縄文土器 (3)	49	図版63	包含層出土縄文土器 (5)	73
図版29	包含層出土縄文土器 (4)	49	図版64	包含層出土縄文土器 (6)	73
図版30	包含層出土縄文土器 (5)	50	図版65	包含層出土石器 (1)	73
図版31	包含層出土縄文土器 (6)	50			
図版32	包含層出土縄文土器 (7)	50			
図版33	包含層出土縄文土器 (8)	51			
図版34	包含層出土縄文土器 (9)	51			
図版35	包含層出土縄文土器 (10)	51			

第1章 はじめに

第1節 調査に到る経緯

平成7年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に白ヶ野第1・第4遺跡の一部が含まれることが明らかになった。遺跡の取り扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議したところ、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区については、宮崎県中部農林振興局の委託を受け清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査期間は、白ヶ野第1遺跡が平成7年11月22日から平成8年3月14日、及び平成8年7月22日から平成8年12月28日、白ヶ野第4遺跡が平成8年7月22日から平成8年11月10日である。また、調査面積は白ヶ野第1遺跡が17,200㎡、白ヶ野第4遺跡が1,900㎡である。

第2節 調査の組織

調査の組織は、次のとおりである。

調査主体 清武町教育委員会

発掘調査

《平成7年度》

事務局

教 育 長	黒 崎 改 司
教 育 次 長	岩 切 哲
社会教育課長	谷 口 忠 誓
社会教育兼文化係長	長 友 真 一
社会教育課主事	伊 東 但

調 査 員

社会教育課主事	伊 東 但
---------	-------

《平成8年度》

事務局

教 育 長	黒 崎 改 司（～平成8年9月）
	湯 地 敏 郎（平成8年10月～）
教 育 次 長	谷 口 忠 誓
社会教育課長	戸 高 輝 利
同課長補佐兼文化係長	落 合 兼 雄
社会教育課主任	川 越 健

調 査 員

社会教育課主任	伊 東 但
社会教育課嘱託	井 田 篤

整理作業 *整理作業は清武町埋蔵文化財センターで実施した。

《平成15年度》

教 育 長	湯 地 敏 郎
教 育 次 長	古 城 員 久
社会教育課長	川 越 繁 美 (～平成15年 6 月)
	松 元 一 夫 (平成15年 7 月～)
社会教育課文化係長	伊 東 但
社会教育課主任	井 田 篤
社会教育課主事	秋 成 雅 博

第 2 章 調査の概要

第 1 節 遺跡の位置と環境

清武町が位置する宮崎平野南西部は、鰐塚山系から連なる丘陵と侵食の進行したシラス台地が展開し、その間を大淀川、清武川、加江田川などが東流し日向灘へ注いでいる。台地縁辺の崖面や侵食小谷には数多くの湧水地が見られ、遺跡が立地するための好条件が備わっている。

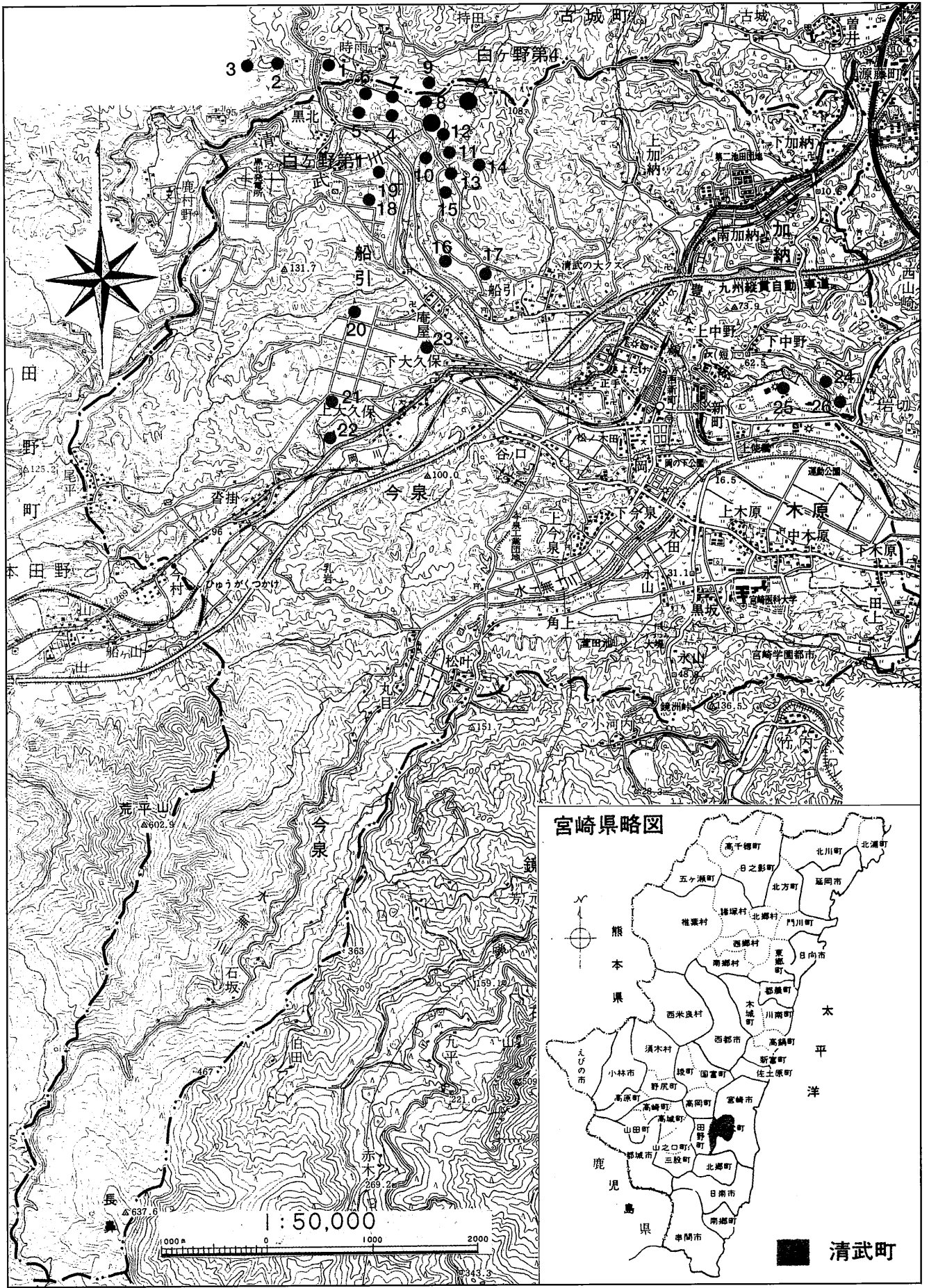
白ヶ野第 1 遺跡は、町内を流れる清武川の左岸標高約 90m のシラス台地上に位置し、白ヶ野第 4 遺跡はその白ヶ野第 1 遺跡を見下ろす標高約 100m の丘陵上に位置する。また、白ヶ野第 1・第 4 両遺跡は、清武町の北西部船引地区に所在する。船引地区は、鎌倉時代初期に作成された『建久の図田帳』にもその名がみられる歴史の古い地区で、県の無形民俗文化財に指定されている“船引神楽”がいまもなお継承され、国の天然記念物である樹齢約 900 年の“清武の大クス”が地区の人々の生活を見守り続けている。

第 2 節 周辺遺跡について

白ヶ野第 1・第 4 両遺跡周辺では、昭和 60 年代以降県営農地保全整備事業（時屋地区）や東九州自動車建設などの大規模公共事業が幾つか実施され、それらの事業に伴う発掘調査も毎年のように行われている。

これらの発掘調査においては、旧石器時代から近世にいたるまで幅広い時期の遺構や遺物が確認されているが、特に縄文時代早期の資料については質・量ともに充実した内容となっている。

現在は各遺跡での整理作業・報告書作成作業が進行中であるが、このように同一台地上で多数の発掘調査が実施されるケースは県内でも稀であり、今後は台地全体を視野に入れた資料の総合的な整理が必要であろう。



第1図 遺跡位置図 (1/50000)

第1表 周辺遺跡一覧表（既調査）

	遺跡名	調査主体	調査原因	所在地	主な時代・時期	主な遺構	主な遺物
1	ウエノハル (生目)上の原遺跡	県 宮崎市	農地整備 関係	宮崎市大字細江字時雨柳迫	旧石器 縄文(早)	集石遺構	旧石器・縄文(早)土器
2	シイヤカタ 椎屋形第1遺跡	県 宮崎市	農地整備 関係	宮崎市大字細江字椎屋形	縄文(早) 弥生	掘建柱建物・竪穴式住居 集石遺構	縄文(早)土器 弥生土器
3	シイヤカタ 椎屋形第2遺跡	県 宮崎市	農地整備 関係	宮崎市大字細江字椎屋形	縄文(早)	集石遺構 炉穴	縄文(早)土器
4	ウエノハル 上の原第1遺跡	県	農地整備 関係	清武町大字船引字上の原	縄文・弥生 古墳	竪穴式住居 土器埋納土坑	縄文(早)土器 弥生土器
5	ウエノハル 上の原第2遺跡	県	農地整備 関係	清武町大字船引字上の原	旧石器・縄文(早) 近世	土坑・掘建柱建物 竪穴式住居・集石遺構	旧石器・縄文(早)土器 縄文土器
6	ウエノハル 上の原第3遺跡	県	農地整備 関係	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳迫	旧石器・縄文(早) 古墳	竪穴式住居 集石遺構	縄文(早)土器・須恵器 土師器・鉄鏃
7	ウエノハル 上の原第4遺跡	県	農地整備 関係	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳迫	弥生 古墳		弥生土器
8	ハツカノ 白ヶ野第2遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳迫	縄文 古代	土坑・竪穴式住居(竈付き) 集石遺構	縄文(早)土器・縄文土器 土師器
9	ハツカノ 白ヶ野第3遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字船引字上の原 宮崎市大字細江字時雨柳迫	縄文	土坑 集石遺構	縄文(早)土器・縄文土器
10	スメリカワ 滑川第1遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字滑川	縄文(早) 古代	土坑 集石遺構	縄文(早)土器
11	スメリカワ 滑川第2遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字滑川	旧石器 縄文(早)	礫群・集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
12	スメリカワ 滑川第3遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字滑川	旧石器 縄文(早)	落とし穴 集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
13	ヤマダ 山田第1遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字山田	縄文(早)	集石遺構	縄文(早)土器
14	ヤマダ 山田第2遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字山田	縄文(早)	炉穴・落とし穴 集石遺構	縄文(早)土器
15	サカモト 坂元遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字坂元	縄文(早)	炉穴 集石遺構	縄文(早)土器
16	カミイノハル 上猪ノ原遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字上猪ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	掘建柱建物・炉穴 集石遺構・道路状遺構	旧石器・縄文(早)土器 土師器
17	シモイノハル 下猪ノ原遺跡	清武町	農地整備 関係	清武町大字船引字下猪ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	道路状遺構・土坑墓 集石遺構・礫群	旧石器・縄文(早)土器 鉄鏃
18	ゴンゲンバル 権現原第1遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字船引字権現原	縄文・弥生 古墳・古代	竪穴式住居 集石遺構	縄文土器・弥生土器 土師器・陶器
19	ゴンゲンバル 権現原第2遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字船引字安ヶ野	縄文(早)	集石遺構	縄文(早)土器 縄文(早)石器
20	スギノキバル 杉木原遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字今泉字杉木原	旧石器 縄文(早)	土坑 集石遺構	旧石器 縄文(早)土器
21	シモキリノ 下星野遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字今泉字星野原	旧石器・縄文・弥生 古墳・古代・中世	溝状遺構・竪穴式住居 集石遺構	石器・縄文土器 弥生土器・土師器
22	ナガノハル 永ノ原遺跡	県	高速道路 建設	清武町大字今泉字永ノ原	旧石器・縄文(早) 古代	土坑・掘建柱建物 竪穴式住居・集石遺構	細石器・縄文土器 弥生土器
23	タケノウチ 竹ノ内遺跡	県	高速道路 建設関連	清武町大字今泉字竹ノ内	旧石器・縄文 古代・中世・近世	溝状遺構・掘建柱建物 竪穴式住居・集石遺構	旧石器・縄文土器 土師器・陶磁器・岩偶
24	スゲキ 須田木遺跡	県 清武町	工場建設 関連	清武町大字加納字須田木	縄文(早)・弥生 古墳・古代	竪穴式住居・土坑 集石遺構	縄文(早)土器・弥生土器 土師器
25	ツジ 辻遺跡	清武町	工業団地 造成	清武町大字木原字辻	縄文 弥生・古墳	集石遺構	縄文土器・土師器 須恵器
26	ワカミヤデン 若宮田遺跡	清武町	農協施設 建設関連	清武町大字木原字若宮田	縄文		縄文土器 土師器



第2図 遺跡周辺地形図 (1/3000)

第3章 白ヶ野第1遺跡

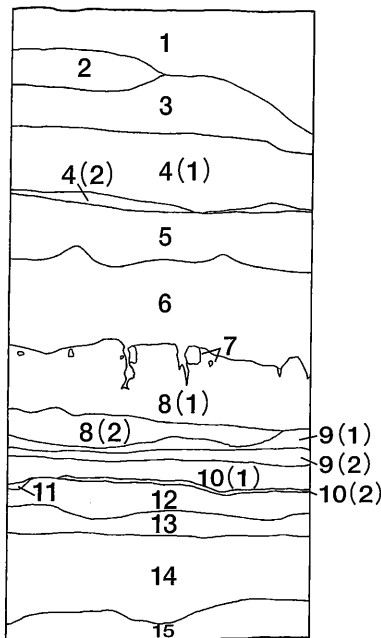
第1節 調査過程について

調査前の協議において、開発側に対しできるだけ遺跡に影響の少ない工法での工事を打診したところ、大別して3つある文化層のうち最下位と中位の文化層の一部は工事の影響を受けずにすむこととなった。調査は基本的には文化層ごとに進行したが、調査区が現代の耕作による削平を受け(1)層から(8)層まで様々な層が既に露出する状況であったため、長時間調査が必要な遺構については、他の文化層と同時に調査を実施した。

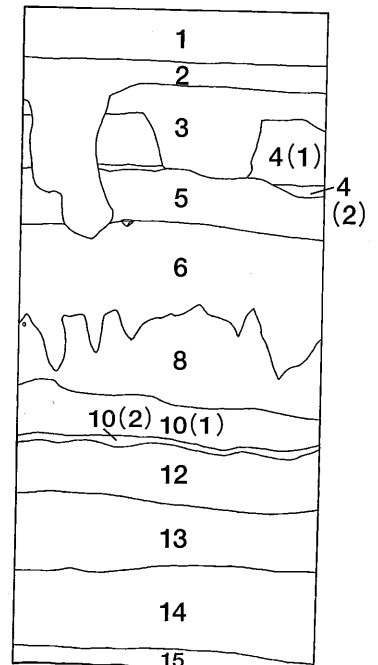
第2節 基本土層について

まず遺跡の旧地形の復元を試みた結果、調査区は中央部の小規模な谷地形とそれを囲む平坦部とに大別できた。そこで平坦部・谷部の数箇所です土層の確認を行ったところ、谷部では第3図、平坦部では第4図という堆積状況が確認された。この両堆積状況は(6)層まではほぼ同じ状況であるが、(7)層以下では異なった様相を呈していた。その注目すべき点としてまず挙げられるのは、(7)層すなわち“桜島薩摩テフラ”の存在である。この火山灰は平坦な地形の調査区ではほとんど確認することができず、堆積の厚い谷地形のみで明瞭な状態で確認することができる。これは近隣の遺跡でもみられる状況で、この地域に堆積したこの火山灰の厚みを物語っている。次に挙げられるのは(8)層から(12)層までの状況である。谷部で(9)層がおこし状に堆積しており、これはなんらかの原因で“霧島小林軽石層”が二次堆積したのであろうが、他ではほとんど見ることもない堆積状況である。

*この後文章及び表などで使用する土層番号は第3図の番号参照。



1	暗褐色土層	耕作土
2	茶褐色土層	霧島高原スコリアを多く含む
3	茶褐色土層	2と同質だがスコリアが少なめ
4(1)	橙色火山灰層	アカホヤ火山灰層
4(2)	橙色軽石層	米粒大の軽石層
5	黒褐色硬質土層	桜島嫁坂軽石を含む
6	黄褐色土層	褐色土がブロック状に混じる
7	黄白色火山灰	桜島薩摩テフラ
8(1)	暗褐色土層	硬質、クラックに6が入り込む
8(2)	灰褐色土層	9(1)のパミスが混じる
9(1)	灰褐色軽石層	霧島小林軽石層
9(2)	黒褐色土層	9(1)・10(1)より粒が細かい
10(1)	灰褐色軽石層	霧島小林軽石層
10(2)	黒褐色土層	9(1)・10(1)より粒が細かい
11	赤褐色土層	9(2)・10(2)と同質、鉄分を含んだように赤化
12	暗灰色土層	シルト質で少し粘性を帯びる
13	白灰色土層	シルト質で粘性を帯びる
14	黒灰色土層	シルト質で粘性を帯びる腐植土層
15	白色シルト質層	始良入戸火砕流堆積物



第3図 白ヶ野第1遺跡基本土層図
—谷地形— (1/30)



第4図 白ヶ野第1遺跡基本土層図
—平坦部— (1/30)

■ ...集石遺構

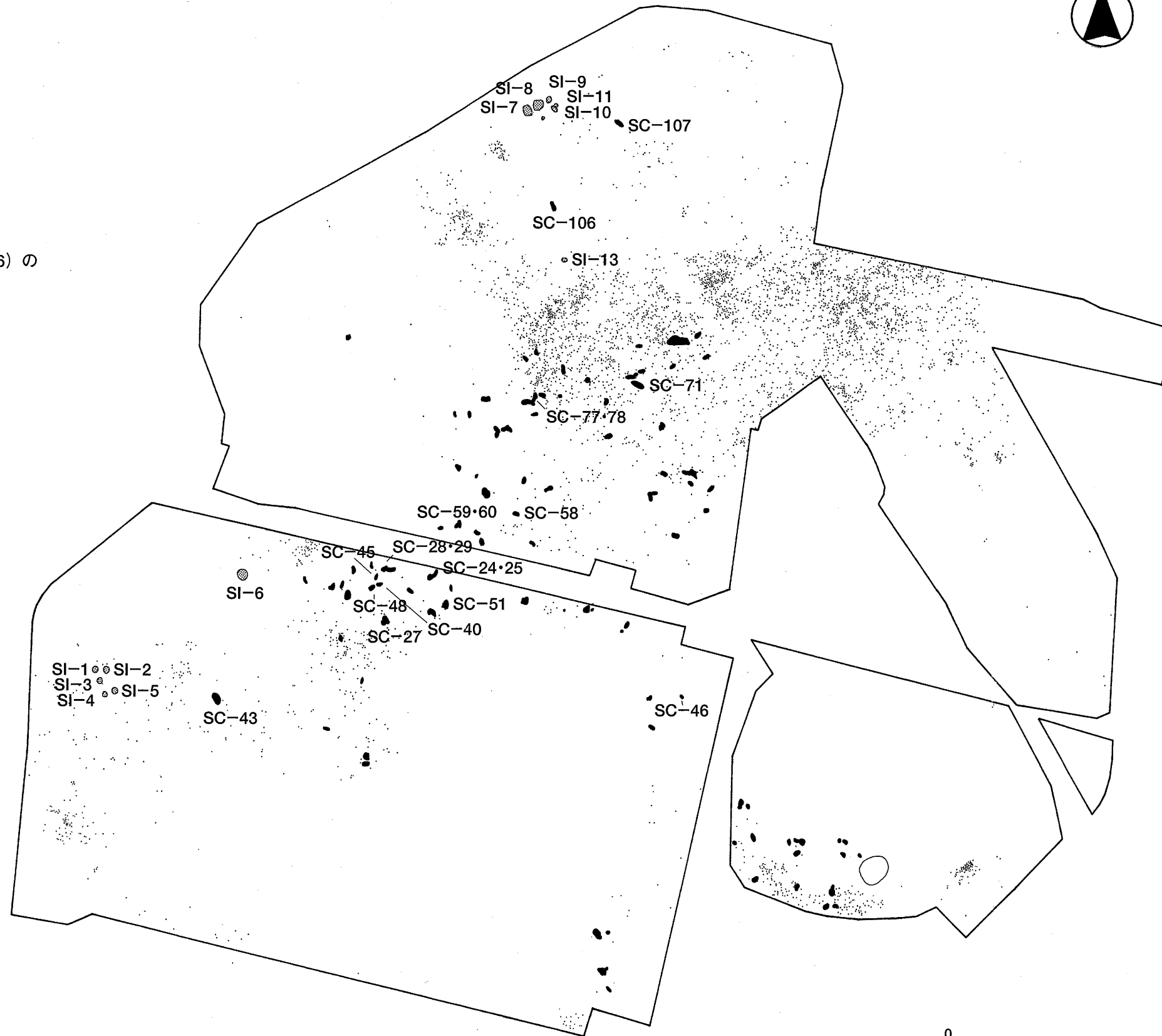
■ ...土 坑

● ...3層出土遺物

● ...5・6層出土遺物

● ...8層出土遺物

※出土層位については、第3図 (P6) の
層位番号を参照



第5図 白ヶ野第1遺跡遺物及び遺構分布図 (1/800)



第3節 遺構について

(1) 集石遺構

集石遺構は、似かよった特徴を持った集石遺構が5基まとまっているグループ {Aグループ (SI-1～SI-5)} と、大型の集石遺構2基の周りを小型の集石遺構4基が囲むグループ {Bグループ (SI-7～SI-12)}、そして単独で2基 (SI-6・13)、計13基確認されており、すべてが縄文時代早期のものである。

Aグループの5基は、礫の充填状況が密で掘り込みの形状がボール状である点はよく似ているが、配石の有無については“持つもの”“持たないもの”いずれのケースも確認されている。

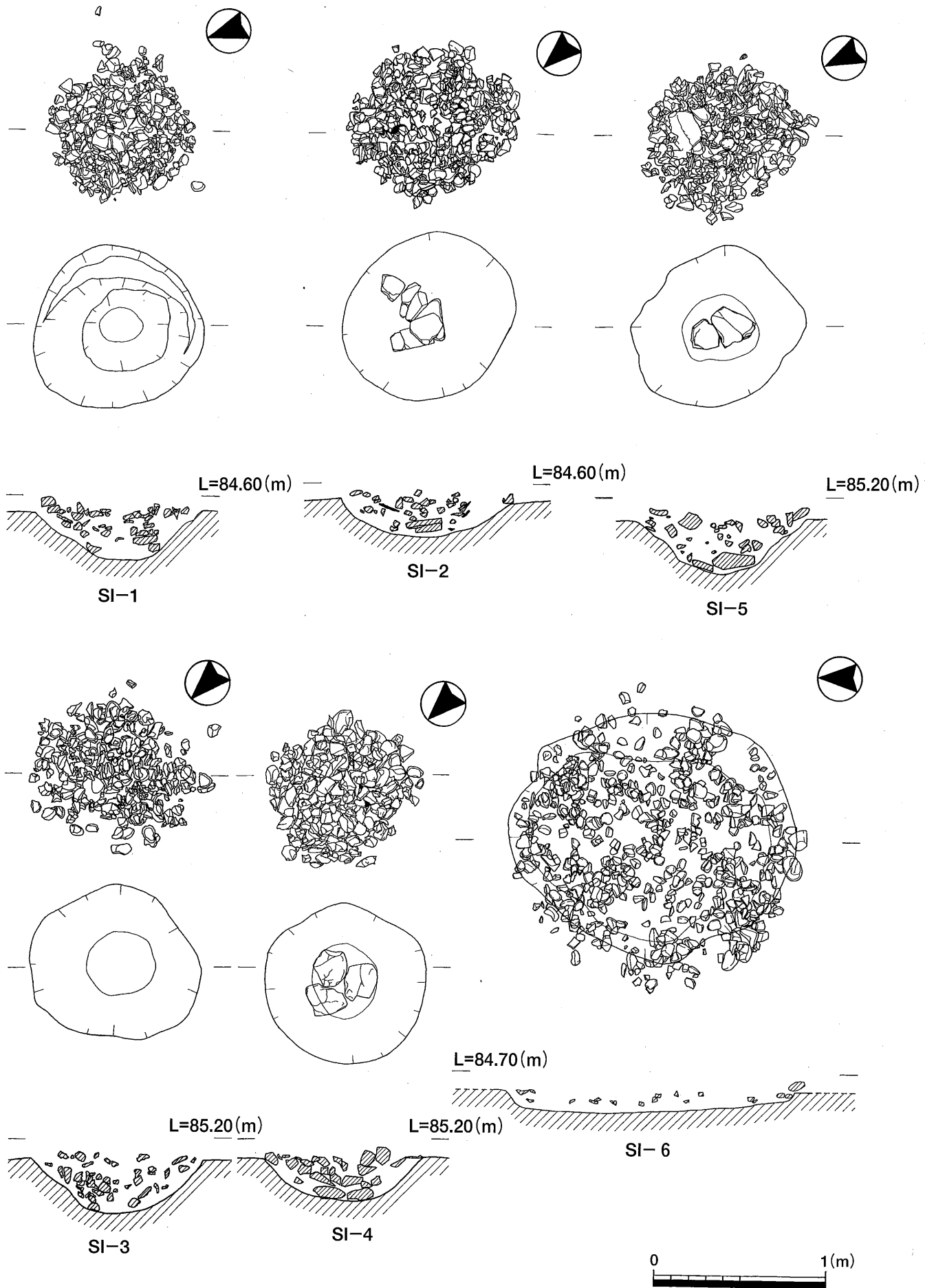
また、Bグループについては、大型の2基の集石遺構が礫の充填状況が密でV字型の深い掘り込みを持つもので、小型の4基の集石遺構は礫が極めて疎らで浅皿状の掘り込みを持つものであった。ただし、Bグループについては、現代耕作による削平及び攪乱を受けていたため、残存状態は良好とは言えない状況であった。

SI-6については、浅皿状の掘り込みを持ち礫が疎らのものであったが、放射性炭素年代測定の結果、使用時期がA・Bグループよりも500～600年程下ることが明らかとなった。またSI-13については、縄文時代早期の文化層を部分的に調査した範囲で検出されたため、周囲の状況を含めて検証することができなかった。

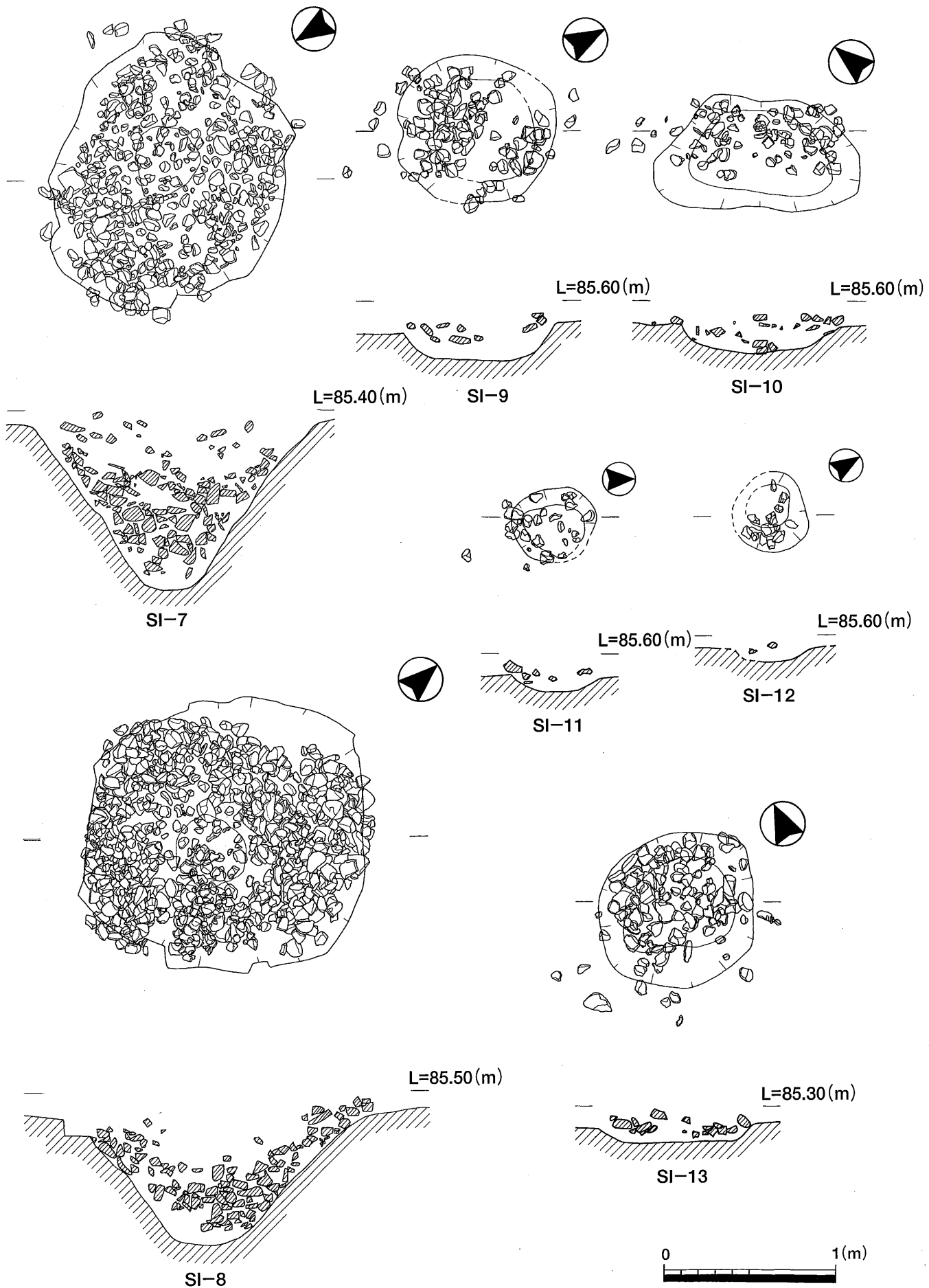
第2表 白ヶ野第1遺跡集石遺構観察表

NO	検出面	時期	C14年代	礫範囲の直径(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫1個重量(kg)	掘込有無	上端直径(m)	掘込みの深さ(m)	礫分布状況	底石有無	炭化物有無
SI-1	⑥	早期	8310	0.94	-	57	-	有	1	0.36	極密	無	有
SI-2	⑥	早期	8330	1	-	52	-	有	1	0.27	極密	有	有
SI-3	⑥	早期		1	-	41	-	有	1	0.31	極密	無	炭化粒のみ
SI-4	⑥	早期	8230	0.9	-	80	-	有	0.95	0.32	極密	有	有
SI-5	⑥	早期		1	-	73	-	有	1.05	0.4	極密	有	炭化粒のみ
SI-6	⑥	早期	7750	1.72	-	59.6	-	有	1.68	0.18	密	無	有
SI-7	⑧	早期	8210	1.8	2095	404	0.19	有	1.7	1.05	極密	無	有
SI-8	⑧	早期		1.75	1521	266.5	0.18	有	1.8	0.87	極密	無	炭化粒のみ
SI-9	⑧	早期		0.8	-	-	-	有	0.9	0.28	極疎	無	炭化粒のみ
SI-10	⑧	早期		1	80	8	0.10	有	1.2	0.23	極疎	無	炭化粒のみ
SI-11	⑧	早期		0.55	-	-	-	有	0.5	0.18	極疎	無	炭化粒のみ
SI-12	⑧	早期		0.4	-	-	-	有	0.46	0.12	極疎	無	炭化粒のみ
SI-13	⑥	早期		0.8	170	28	0.16	有	0.9	0.2	疎	無	炭化粒のみ

*検出面については、第3図(P6)の層位番号を参照



第6図 SI-1、2、3、4、5、6実測図 (1/30)



第7図 SI-7、8、9、10、11、12、13実測図 (1/30)



図版1 白ヶ野第1遺跡(平成7年度調査区)



図版2 白ヶ野第1遺跡(平成8年度調査区)



図版3 白ヶ野第1遺跡基本土層



図版4 SI-1



図版5 SI-2



図版6 SI-3



図版7 SI-4



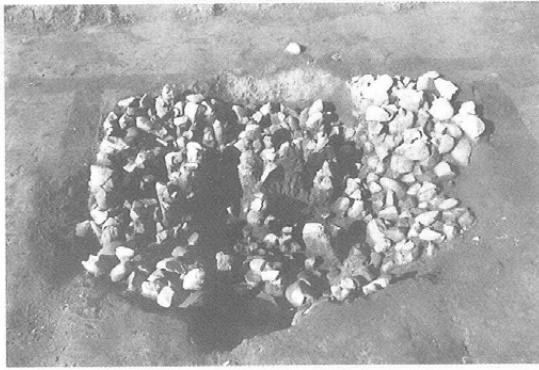
図版8 SI-5



图版9 SI-6



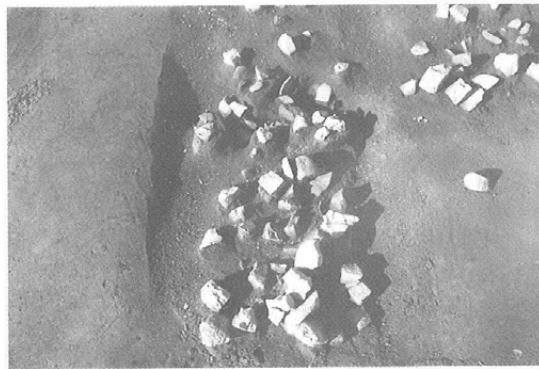
图版10 SI-7



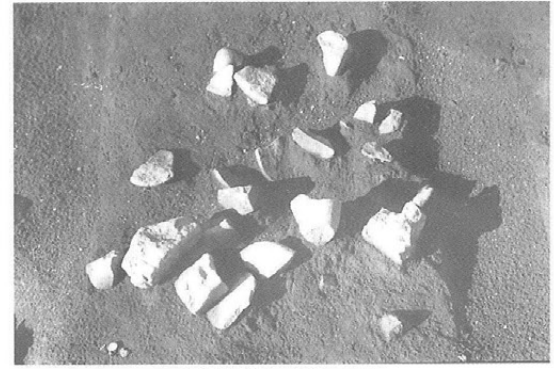
图版11 SI-8



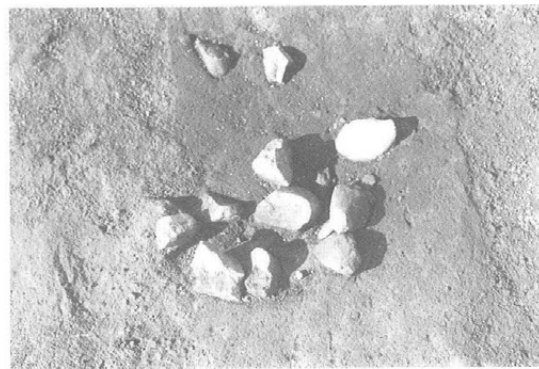
图版12 SI-9



图版13 SI-10



图版14 SI-11



图版15 SI-12



图版16 SI-13

(2) 土 坑

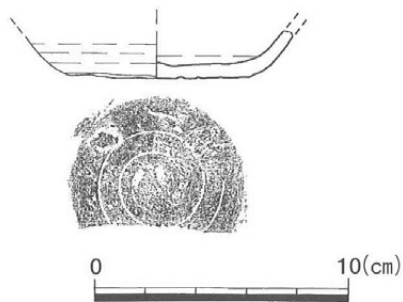
アカホヤ層上面において総数102基の土坑が検出された。遺構が集中しているのは調査区の中央付近、すなわち(2)・(3)層が厚めに堆積している谷地形の範囲で、これは近隣遺跡でも見られる傾向である。また、構築時期については、ほとんどの土坑の埋土から検出される高原スコリアの堆積状況からみて、10世紀から13世紀あたりではないかと考えられる。

形状は、大別して以下の5つのタイプに分類できる。

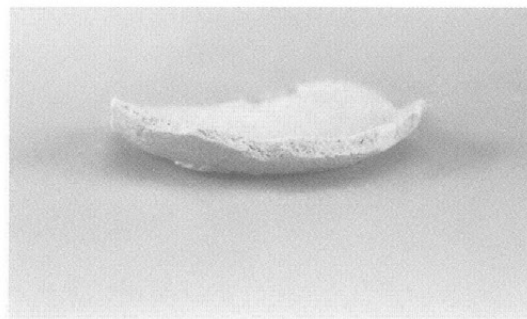
- (Ⅰ類) 楕円形か長楕円形を呈し、その規模は長軸が0.6mから1.5m程、短軸が0.3mから1m程、そして深さが0.1mから0.5m程のもの。
- (Ⅱ類) (Ⅰ類)の土坑で、直径が0.2mから0.4m程で深さが0.3mから1m程のピットを有するもの
- (Ⅲ類) 隅丸長方形か長楕円形を呈し、その規模は長軸が1.5mから2m程、短軸が0.6から1m程、そして深さが0.7mから1.5m程、と(Ⅰ類)と比較すると大型で深いもの。
- (Ⅳ類) 複数の掘り込みやピットが無作為に切り合っていて不定形なもの。
- (Ⅴ類) その他

*長軸・短軸については検出面においての数値、又深さについては検出面から底面までの数値を使用している。

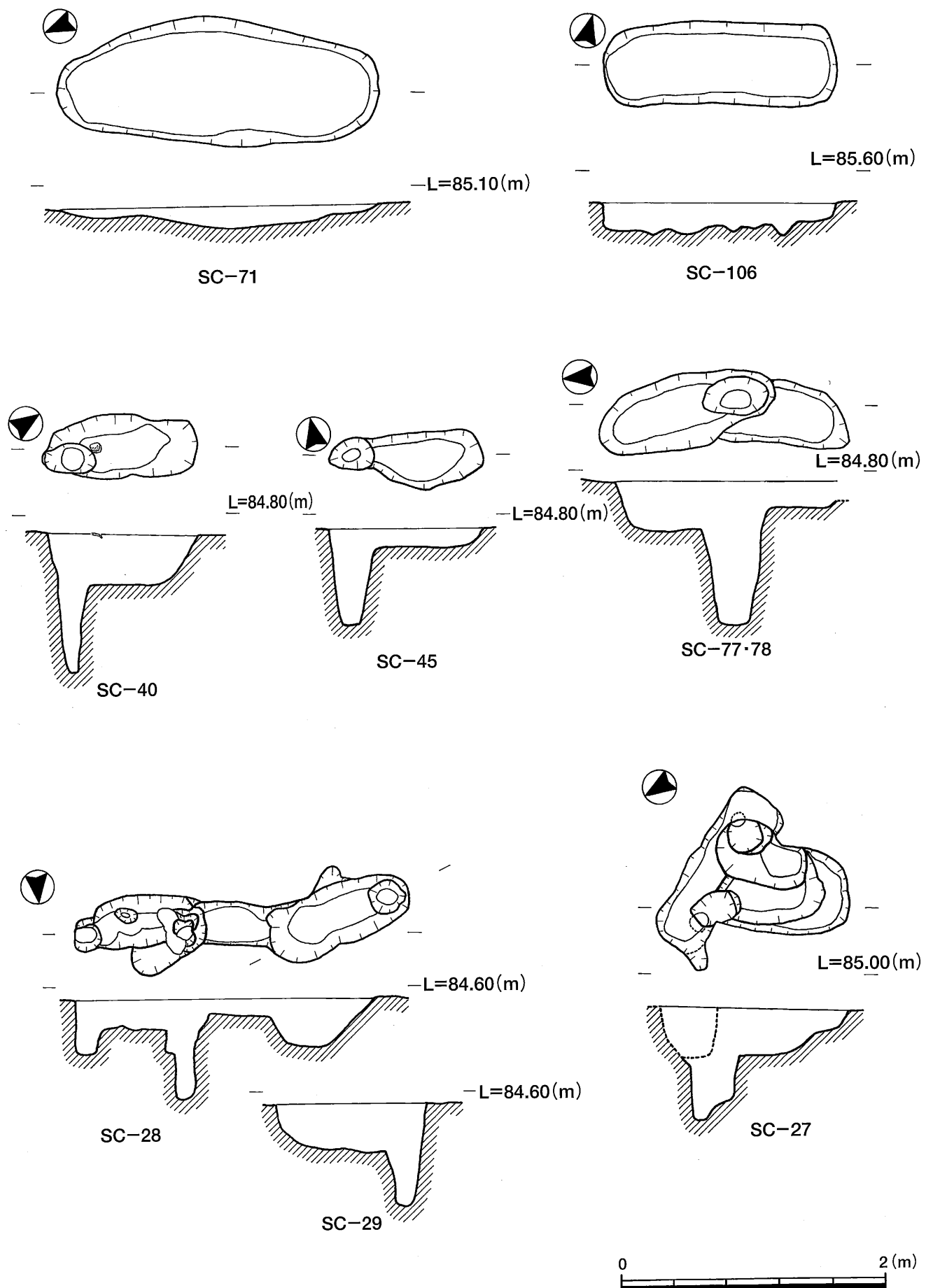
このなかで(Ⅱ類)が79基とそのほとんどを占めているが、その(Ⅱ類)の用途を考察する上で重要な意味をもつであろうピットについては、土坑との関係及び配置における規則性はいずれも確認することができなかった。また土坑からの出土遺物は、少数なうえ、そのほとんどが廃棄後流れ込んだものであるが、SC-40からはヘラ切り底の土師器の坏が出土している。



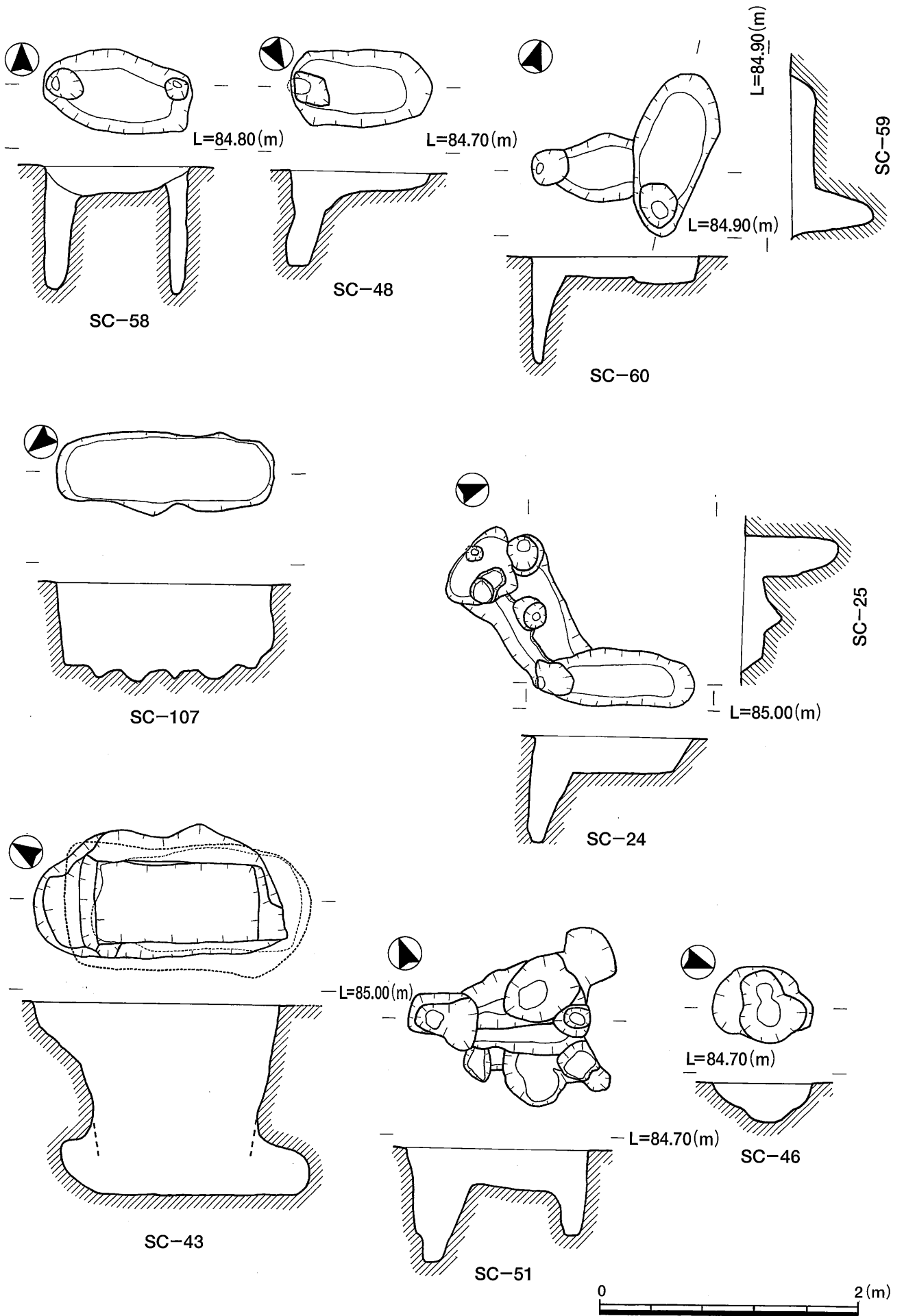
第8図 SC-40出土遺物 (1/3)



図版17 SC-40出土遺物



第9图 SC-71、106、40、45、77·78、28·29、27实测图 (1/40)



第10図 SC-58、48、59・60、107、24・25、43、51、46実測図 (1/40)

第3表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(1)

	遺構番号	形態	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考 察
1	SC-1	長楕円形	II	1.46	0.73	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.63mのピット。
2	SC-2	円形	II	1.1	0.62	0.2	-	南端にピット。
3	SC-3	長楕円形	II	1.05	0.45	0.15	-	西端に直径約0.3m・深さ0.45mのピット。
4	SC-4	楕円形	II	1.1	0.75	0.4	○ 弥生	西端にピット。
5	SC-5	長楕円形	II	1.15	0.6	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ0.65mのピット。 (他に浅いピットが2本)
6	SC-6	不定形	IV	0.9	0.5	0.15	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
7	SC-7	長楕円形	II	1.2	0.55	0.5	○ 弥生	東端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。
8	SC-8	不定形	IV	1.1	0.6	0.08~0.3	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
9	SC-9	長楕円形	II	1.05	0.6	0.15	-	東端に直径約0.2m・深さ0.8mのピット。
10	SC-10	長楕円形	II	1.1	0.6	0.15	○ 縄文・弥生	東端に直径約0.2m・深さ0.8mのピット。
11	SC-11	円形	V	0.55	0.47	0.23	-	
12	SC-13	長楕円形	V	1	0.45	0.45	-	南端に斜め下への掘り込み。
13	SC-14	長楕円形	II	0.8	0.42	0.18	-	南端に直径約0.3m・深さ0.47mのピット。
14	SC-15	長楕円形	II	1+a	0.5	0.25	-	北端に直径約0.3m・深さ0.45mのピット。
15	SC-16	長楕円形	II	1.12	0.5	0.3	-	南東端に直径約0.35m・深さ0.75mのピット。
16	SC-17	長楕円形	II	1.15	0.5	0.2	○ 弥生	北東端に直径約0.25m・深さ0.7mのピット。
17	SC-18	長楕円形	II	1.4	0.68	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.78m、中央に直径約0.2m・深さ0.75mのピット。 (他浅いピットが1本)
18	SC-19	楕円形	II	1.2	0.9	0.65	-	北端に直径約0.3・深さ約0.95mのピット。
19	SC-20	長楕円形	II	1.65	0.55	0.25	-	南端に直径約0.5m、深さ0.85mのピット。
20	SC-21	長楕円形	II	1	0.5	0.15	-	南端に直径約0.35m・深さ0.75mのピット。
21	SC-22(1)	長楕円形	II	1.22	0.55	0.45	-	北端に直径約0.25m・深さ約1.0mのピット。
	(2)	長楕円形	I	0.85	0.35	0.8	-	* (1)と(2)が切り合っている可能性有り。
22	SC-23	不定形	IV	1.6	1	0.5	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
23	SC-24	長楕円形	II	1.2	0.4	0.3	-	南端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。 *SC-25と切り合い。新旧は不明。
24	SC-25	長楕円形	II	1.05+a	0.35	0.15	-	西端に直径約0.3m・深さ0.7mのピット。 (中央付近に浅めのピットがもう1本)
25	SC-26	長楕円形	II	1.25	0.45	0.35	-	南端に直径約0.25m・深さ0.95mのピット。
26	SC-27	楕円	II	0.95+a	0.65	0.35	-	北端に直径約0.35m・深さ約0.85mのピット。 東端に直径約0.3m・深さ約0.8mのピット(他1本)。
27	SC-28(1)	長楕円形	II	0.9+a	0.4	0.2	-	東端に直径約0.2m・深さ約0.4mのピット。
	(2)	長楕円形	II	0.9+a	0.3	0.15	-	東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。 * (1)と(2)の切り合いの可能性有り。
28	SC-29	長楕円形	II	1.1	0.5	0.35	-	西端に直径約0.25m・深さ0.8mのピット。 *SC-28と切り合い。新旧は不明。
29	SC-30	長楕円形	II	1.1	0.45	0.15	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。
30	SC-31	長楕円形	II	1.2	0.5	0.55	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.95mのピット。
31	SC-32	不定形	IV	0.9	0.7	0.25	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
32	SC-33	長楕円形	II	0.95	0.5	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
33	SC-34	楕円形	II	1.47	0.9	0.4	○ 弥生	北端に斜下に向け0.7m程掘り込んだピット。

第4表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(2)

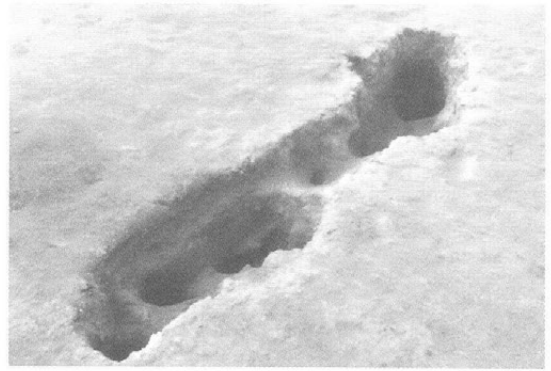
	遺構番号	形態	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考 察
34	SC-35	長楕円形	II	1.35	0.35	0.17	○ 弥生	北端に直径約0.25m・深さ約0.55mのピット。
35	SC-36	不定形	IV	1.2	0.55	0.15	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
36	SC-37	長楕円形	II	1.2	0.3	0.15	-	北側に直径約0.15m・深さ約0.3mのピット。
37	SC-38	不定形	IV	0.8	0.45	0.2~ 0.3	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
38	SC-39	長楕円形	II	1.1	0.38	0.2	-	北東端に直径約0.25m・深さ約0.5mのピット。
39	SC-40	長楕円形	II	1.15	0.45	0.4	○ 土師器など	南西端に直径約0.25m・深さ約1.05mのピット。
40	SC-42	長楕円形	II	1.1	0.55	0.2~ 0.45	-	西端に直径約0.25m・深さ約0.8mのピット。 浅い土坑が2段。
41	SC-43	隅丸長方形	III	1.9	1	1.5	○ 縄文など	2段の掘り込みで、床面付近は袋状を呈する。
42	SC-44	長楕円形	II	1.15	0.5	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
43	SC-45	長楕円形	II	1.15	0.45	0.15	-	北西端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。
44	SC-46	円形	V	0.75	0.6	0.3	-	
45	SC-47	円形	V	0.65	0.55	1	-	
46	SC-48	長楕円形	II	1.1	0.6	0.15	-	南東端に直径約0.25m・深さ約0.75mのピット。
47	SC-49	円形	II	0.75	0.7	0.2	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。
48	SC-50	不定形	IV	1.6	1	0.3	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
49	SC-51	不定形	IV	1.4	1.5	0.3~ 0.9	-	複数の掘り込みとピットの切り合い。
50	SC-52	長楕円形	II	1.05	0.6	0.1	-	南端に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。
51	SC-53	長楕円形	II	1.45	0.55	0.35	-	南西端に直径約0.2m・深さ約0.8mのピット。
52	SC-54	長楕円形	II	1.2	0.5	0.25	-	南東端に直径約0.35m・深さ約0.75mのピット。
53	SC-55	長楕円形	II	0.8+a	0.65	0.2	-	北東端に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。 一部攪乱により崩壊。
54	SC-56	長楕円形	II	1.1	0.5	0.25	-	北東端に直径約0.35m・深さ約0.95mのピット。 (ピットは斜下方向に掘り込んである。)
55	SC-57	長楕円形	II	1	0.55	0.2	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.95mのピット。 西端に直径約0.25m・深さ約0.95mのピット。
56	SC-58	長楕円形	II	1.15	0.65	0.2	-	東端に直径約0.2m・深さ約0.95mのピット。 西端に直径約0.25m・深さ約0.95mのピット。
57	SC-59	長楕円形	II	1.25	0.6	0.2	-	南端に直径約0.35m・深さ約0.6mのピット。
58	SC-60	長楕円形	II	0.8+a	0.5	0.15	-	西端に直径約0.25m・深さ約0.8mのピット。 *SC-59と切り合い。SC-59が新。
59	SC-61	長楕円形	II	0.9	0.45	0.12	-	東端に直径約0.33m・深さ約0.65mのピット。
60	SC-62	長楕円形	II	1.15	0.65	0.2	-	北端に直径約0.2m・深さ約0.4mのピット。
61	SC-63	楕円形	II	0.7	0.45	0.2	-	中央部に直径約0.25m・深さ約0.6mのピット。
62	SC-64	長楕円形	II	1.1	0.45	0.2	-	南端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
63	SC-65	長楕円形	II	1.3	0.7	0.3	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.5mのピット。 東端に直径約0.3m・深さ約0.55mのピット。
64	SC-67	長楕円形	II	1.4	0.6	0.35	-	北端に直径約0.2m・深さ約0.95mのピット。
65	SC-72	長楕円形	I	0.9+a	0.55	0.1	-	*SC-67と切り合い。新旧関係は不明。
66	SC-68	長楕円形	II	0.9	0.4	0.1	-	北端に直径約0.15m・深さ約0.25mのピット。 南西端に直径約0.25m・深さ約0.4mのピット。
67	SC-69	楕円形	II	0.95	0.75	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.4mのピット。
68	SC-70	長楕円形	II	1.1	0.5	0.3	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.65mのピット。 *SC-69と切り合い。新旧関係は不明。

第5表 白ヶ野第1遺跡土坑観察表(3)

	遺構番号	形態	分類	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	考 察
69	SC-71	長楕円形	I	2.4	0.95	0.2	-	
70	SC-73	長楕円形	II	1.3+a	0.6	0.2	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。 (他浅めのピットが3本)
71	SC-74	長楕円形	II	1.2	0.5	0.25	-	北端に直径約0.25m・深さ約0.55mのピット。
72	SC-75	長楕円形	II	1	0.55	0.3	-	南端に直径約0.3m・深さ約0.55mのピット。
73	SC-77	長楕円形	I	0.65+a	0.45	0.2	-	*SC-78と切り合い。新旧関係は不明。
74	SC-78	長楕円形	II	1.35	0.55	0.4	-	南端に直径約0.45m・深さ約1.1mのピット。
75	SC-79	長楕円形	II	0.75+a	0.5	0.3	-	南西端に直径約0.5m・深さ約0.65mのピット。 *SC-80と切り合い。SC-79が新。
76	SC-80	長楕円形	II	1.5	0.5	0.3	-	中央から南端にかけて、直径約0.3m、深さ約0.6 ~0.8mのピットが3本。
77	SC-81	長楕円形	II	0.75+a	0.5	0.4	-	北東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。 *SC-82と切り合い。SC-81が新。
78	SC-82	長楕円形	II	1.35	0.5	0.4	-	東端に直径約0.4m・深さ約0.95mのピット。
79	SC-83	長楕円形	II	1.2	0.55	0.1	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.15mのピット。
80	SC-84	長楕円形	II	1.1	0.5	0.15	-	東端に直径約0.35m・深さ約0.45mのピット。 (ピットは斜下方向に掘り込んである。)
81	SC-85	長楕円形	II	1.4	0.55	0.35	-	西端に直径約0.5m・深さ約0.7mのピット。
82	SC-86	長楕円形	II	1.05	0.3	0.15	-	西端に直径約0.35m・深さ約0.6mのピット。
83	SC-87	長楕円形	II	0.8	0.45	0.2	-	北東端に直径約0.35m・深さ約0.75mのピット。
84	SC-88	長楕円形	I	1.25+a	0.5	0.4	-	*SC-89と切り合い。SC-89が新。
85	SC-89	長楕円形	II	1.4	0.6	0.3~ 0.6	-	西端に直径約0.2m・深さ約0.75mのピット。
86	SC-90	長楕円形	II	1.2	0.6	0.25	-	南西端に直径約0.4m・深さ約0.9mのピット。
87	SC-91	長楕円形	II	1	0.55	0.25	-	北端に直径約0.35m・深さ約0.6mのピット。
88	SC-92	長楕円形	II	1.85	1.15	0.35	-	北東端に直径約0.4m・深さ約0.65mのピット。
89	SC-93	円形	II	0.85	0.8	0.3	-	東端に直径約0.25m・深さ約0.9mのピット。
90	SC-94	楕円形	V	0.65	0.4	0.2	-	
91	SC-95	楕円形	V	0.55	0.3	0.3	-	
92	SC-96	長楕円形	I	1.3	0.55	0.3	-	
93	SC-97	長楕円形	I	0.7+a	0.5	0.2	-	*SC-96と切り合い。新旧関係は不明。
94	SC-98	長楕円形	II	1.05	0.6	0.2	-	北端に直径約0.3m・深さ約0.7mのピット。 (ピットは斜下方向に掘り込んである。)
95	SC-99	長楕円形	II	1.2	0.55	0.2	-	南東端に直径約0.25m・深さ約0.7mのピット。
96	SC-100	長楕円形	II	1.2	0.6	0.2	-	北西端に直径約0.3m・深さ約0.6mのピット。
97	SC-101	長楕円形	II	1.3	0.65	0.25	-	南東端に直径約0.35m・深さ約0.7mのピット。
98	SC-102	長楕円形	I	3.5	1.6	0.4	-	浅めのピットが2本。
99	SC-103	楕円形	II	1	0.65	0.2	-	北端に直径約0.15m・深さ約0.25mのピット。
100	SC-104	長楕円形	I	1.6	0.7	0.25	-	
101	SC-105	長楕円形	II	1	0.5	0.15	-	南東端に直径約0.3m・深さ約0.75mのピット。
102	SC-106	隅丸長方形	I	1.75	0.6	0.2	-	
103	SC-107	隅丸長方形	III	1.65	0.6	0.7	-	



图版18 SC-40



图版19 SC-28·29



图版20 SC-45



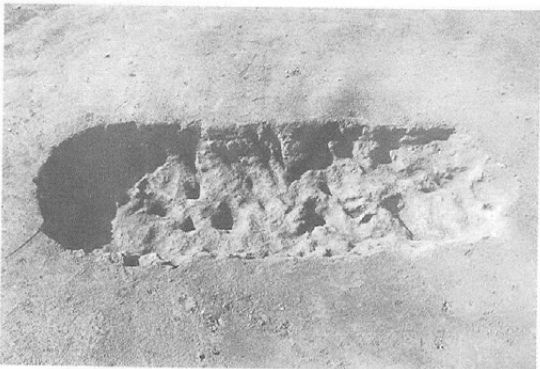
图版21 SC-43



图版22 SC-27



图版23 SC-51



图版24 SC-106



图版25 SC-59·60

第4節 包含層出土の遺物について

(1) 縄文土器

縄文土器については、早期が5層上位から6層下位、前期から晩期が3層から出土している。ここではこれらを時期ごとに5類に分類し、なおかつそれを細分化している。それぞれの特徴は以下のとおりである。

A類 (1～39)

A類は縄文時代早期の土器で、ここではA(1)類からA(4)類に細分化している。

A(1)類 (1～3)

A(1)類は、外面に貝殻条痕文を施し円筒形を呈する土器である。

A(2)類 (4～12)

A(2)類は押型文土器である。4～8は楕円押型文を施しており、器形については胴部の小破片のみの出土のため不明である。また9～12については、山形押型文を施し、その器形からみて手向山式土器の胴部の可能性が高いと思われる。

A(3)類 (13～35)

A(3)は平椀式土器である。13～16は口縁部の口唇下に小型の三角形の突帯を巡らすもので、その突帯には刻目状の沈線を、外面には沈線及び刺突連点文を施している。17～35は沈線と刺突連点文を施しているが、17～19についてはそれに加え弧状の突帯を貼り付けており、その突帯には刻目を施している。

A(4)類 (36～39)

A(4)類は貝殻腹縁で文様が施された土器で、36は貝殻腹縁による刺突文を施した塞ノ神式土器である。また33～35は貝殻腹縁による圧痕文を施したものであるが、器形など詳細は不明である。

B類 (40～121)

B類は縄文時代前期の土器で、ここではB(1)類とB(2)類に細分化している。

B(1)類 (40)

B(1)類は轟式土器で、口縁部が1点のみ出土している。指先でつまんだようなミミズバレ状の突帯を口唇部直下から横方向に貼り付けている。

B(2)類 (41～121)

B(2)類は曾畑式土器である。本遺跡で出土する曾畑式土器全体の特徴として挙げられるのは、近隣の滑川遺跡で出土したものでは確認することのできた滑石の混入が見られないことである。

次に個々の遺物を見ていくと、41～102は外面に縦・横方向の沈線かもしくはその沈線に加え刺突文を施しており、内面には横方向の沈線かもしくはその沈線に加え刺突文を施している。103～105は外面に斜め方向の沈線を施し、内面は103・104が斜め方向、105は横方向の沈線を施している。106～111は、外面に縦・横方向の沈線に加え弧状の沈線を施し、内面は横方向の沈線を施している。112～115はすべて胴部であるが穿孔が確認されている。ここまで挙げた土器片の沈線については、いずれも細い棒状工具が使用されたと推測されるが、116・117についてはより先端の

尖った棒状工具を使用して外面に斜め方向の沈線を施している。その他118については波状口縁が確認され、119には口縁部の口唇下に連続刻目を施している。また120には瘤状の突帯がみられ、121では沈線を施す前の貝殻条痕文が一部残存している。

なおこのB(2)類の口唇部については、連続刻目・連続刺突文いずれも確認することができる。以上が施文的特徴であるが、器形についてはそれを断定できるだけの残存度を有する遺物が出土していないため詳細は不明である。

C類 (122～152)

C類は縄文時代中期から後期にかけての土器で、そのほとんどは突帯を貼り付けている。ここではC(1)類からC(4)類に細分化している。

C(1)類 (122～128)

C(1)類は、地文に縄文を施した後低めの突帯を貼り付け、その後細い棒状工具により沈線を施した土器である。また125についてはそれに加え貝殻条痕文を施している。器形については出土遺物すべてが小破片のため不明である。

C(2)類 (129～135)

C(2)類は、内・外面ともに貝殻条痕文を施した後、外面に断面三角形の突帯を貼り付けた土器で、突帯は波状・弧状・直線状などの組み合わせである。器形については出土遺物すべてが小破片のため不明である。

C(3)類 (136～147)

C(3)類はナデ調整を施した後突帯を貼り付けた土器である。136～139は口縁部すべてがやや内湾しており、突帯は口縁に直行するように貼り付けているが、さながらその形状は熊手を連想させるものである。140～147は胴部であるが、突帯は波状・弧状・直線状などを組み合わせて貼り付けている。

C(4)類 (148～152)

C(4)類は突帯を貼り付けた後、その突帯間に貝殻腹縁による押引き文を施した土器である。

D類 (153～199)

D類は縄文時代後期から晩期にかけての土器で、ここではD(1)類からD(4)類に細分化している。

D(1)類 (153～164)

網目圧痕がみられる土器である。ほとんどが丸底もしくは丸底ぎみの浅鉢と思われる。

D(2)類 (165～180)

口縁部外面に貫通または未貫通の連続刺突を施した土器で、孔列土器と呼ばれるものである。これらは竹管状工具で刺突しており、そのほとんどが未貫通のもので、未貫通のものには内面裏側に瘤状のふくらみがみられた。165～173は口縁部に薄手の肥厚帯を巡らせ、貝殻条痕による調整を行った後その肥厚帯直下に連続刺突を施したものである。174～179は断面が三角形状の幅の狭い突帯を貼り付け、貝殻条痕による調整を行った後突帯直下に連続刺突を施したものである。また180は唯一孔

が貫通しているものであり、貝殻条痕による調整は確認できない。

D(3)類 (181~192)

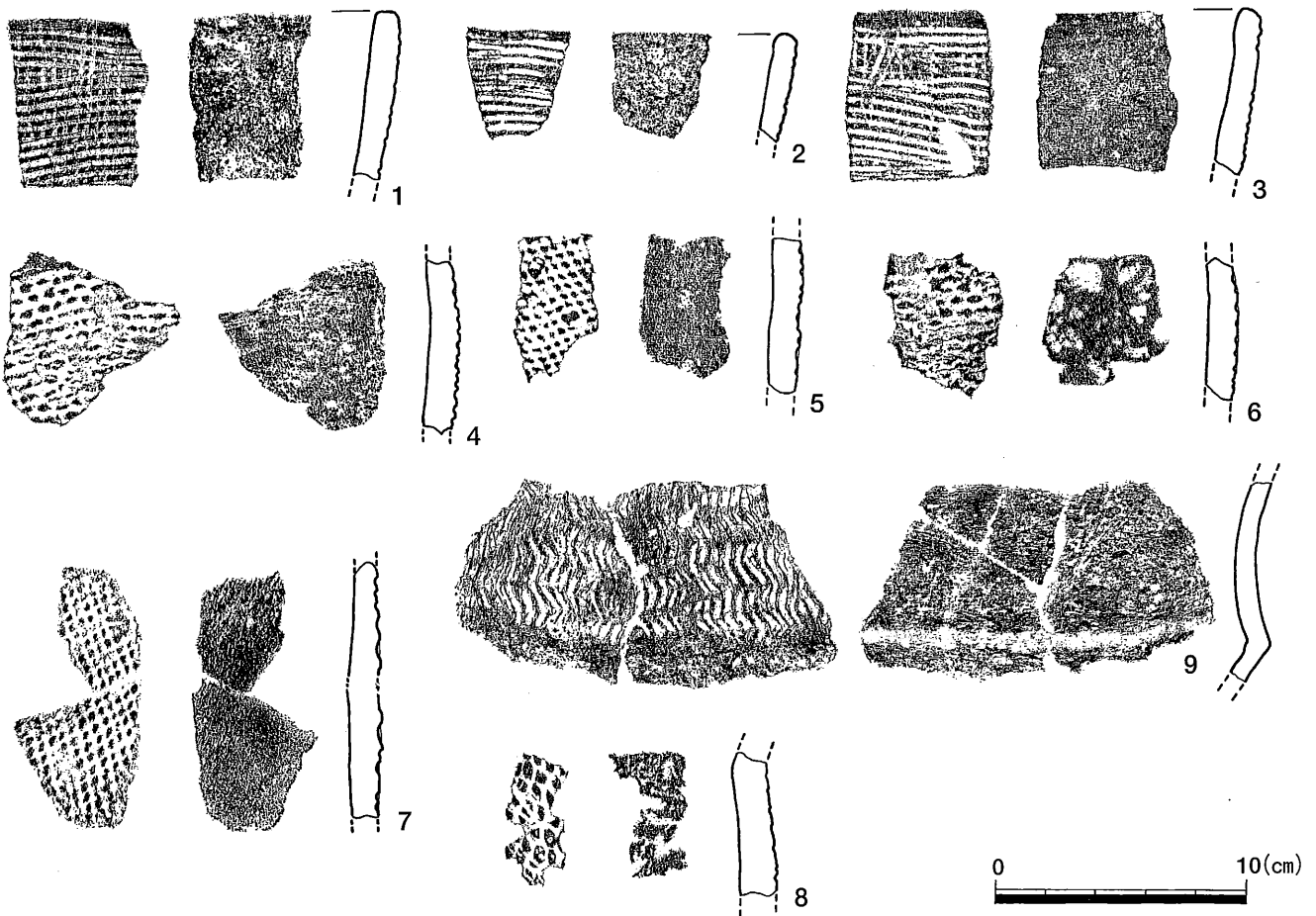
D(3)類は口縁部に肥厚帯を巡らせた土器である。181~189は肥厚帯を巡らせた後、貝殻条痕による調整を行っている。190~192は、181~189同様肥厚帯を巡らせたものにも見えるが、一方では口縁部に沈線を施すことによりあたかも薄手の肥厚帯を巡らせた様に見えるものである可能性も考えられる。

D(4)類 (193~199)

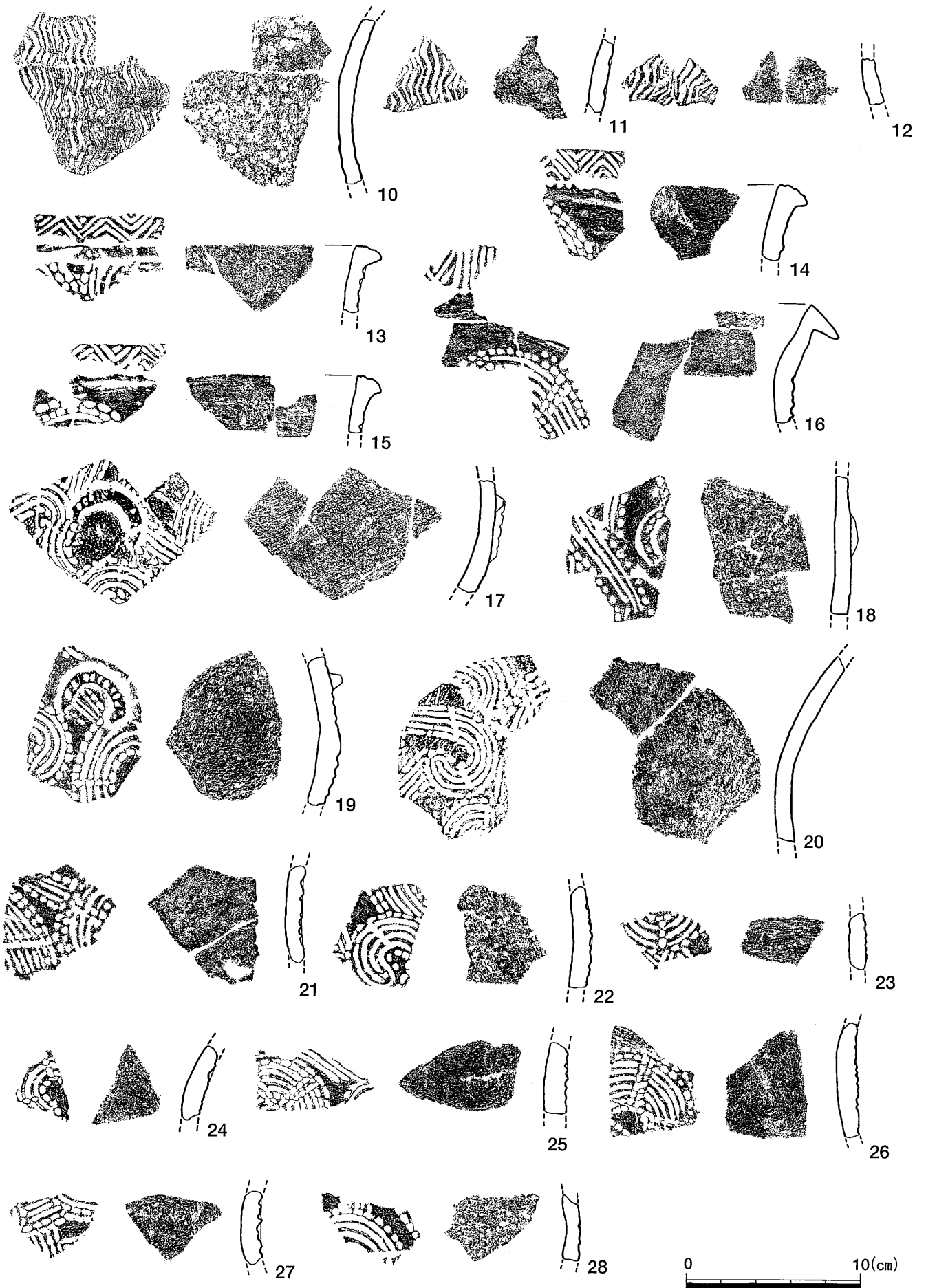
D(4)類は胴部が屈曲する浅鉢の一部と思われる。なお、調整は外面がミガキ、内面がミガキとナデの併用である。

E類 (200~206)

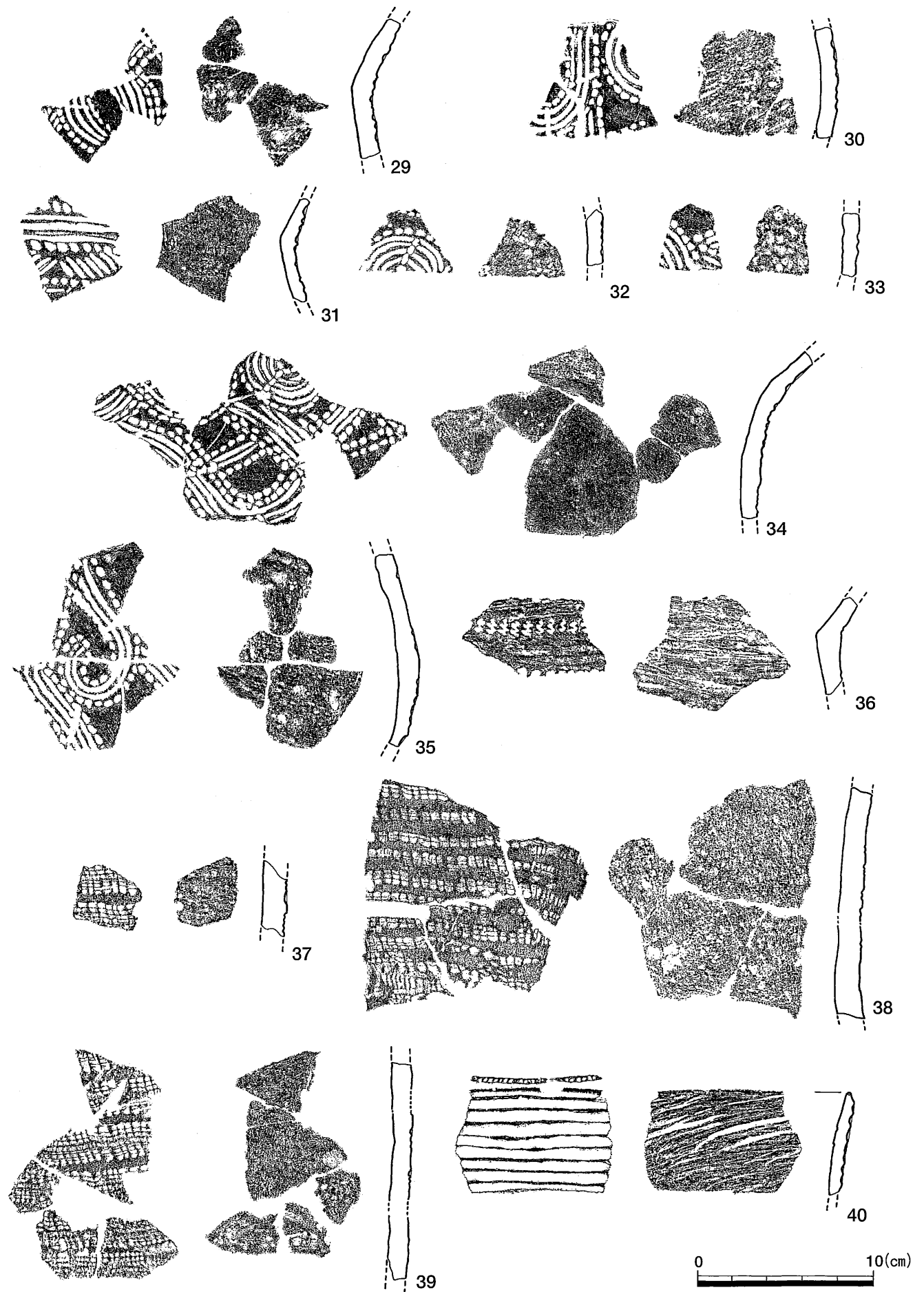
E類は、出土層位など不明な点は幾つかあるが注目すべき特徴を有する、と判断した遺物を一括して挙げています。



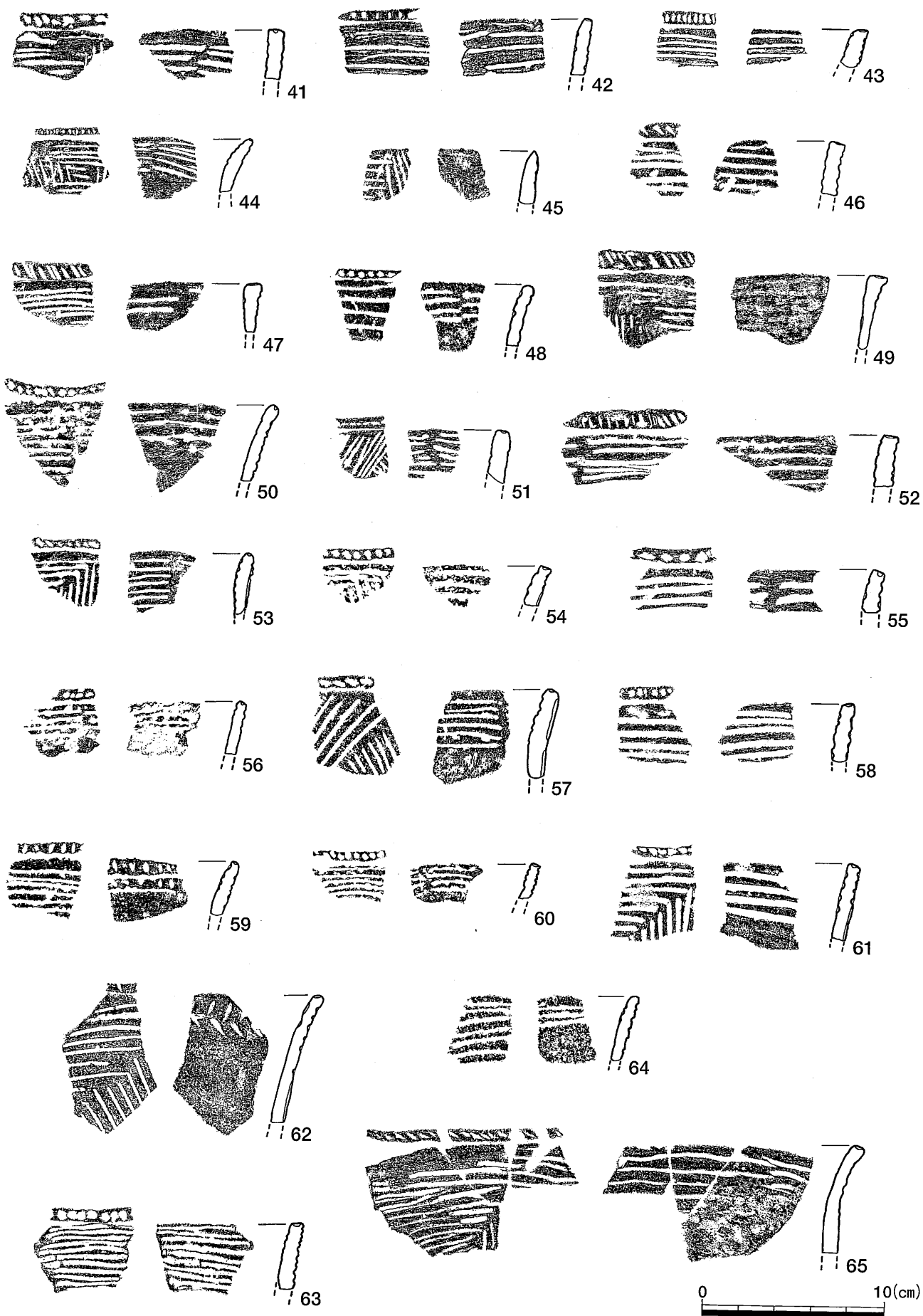
第11図 包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3)



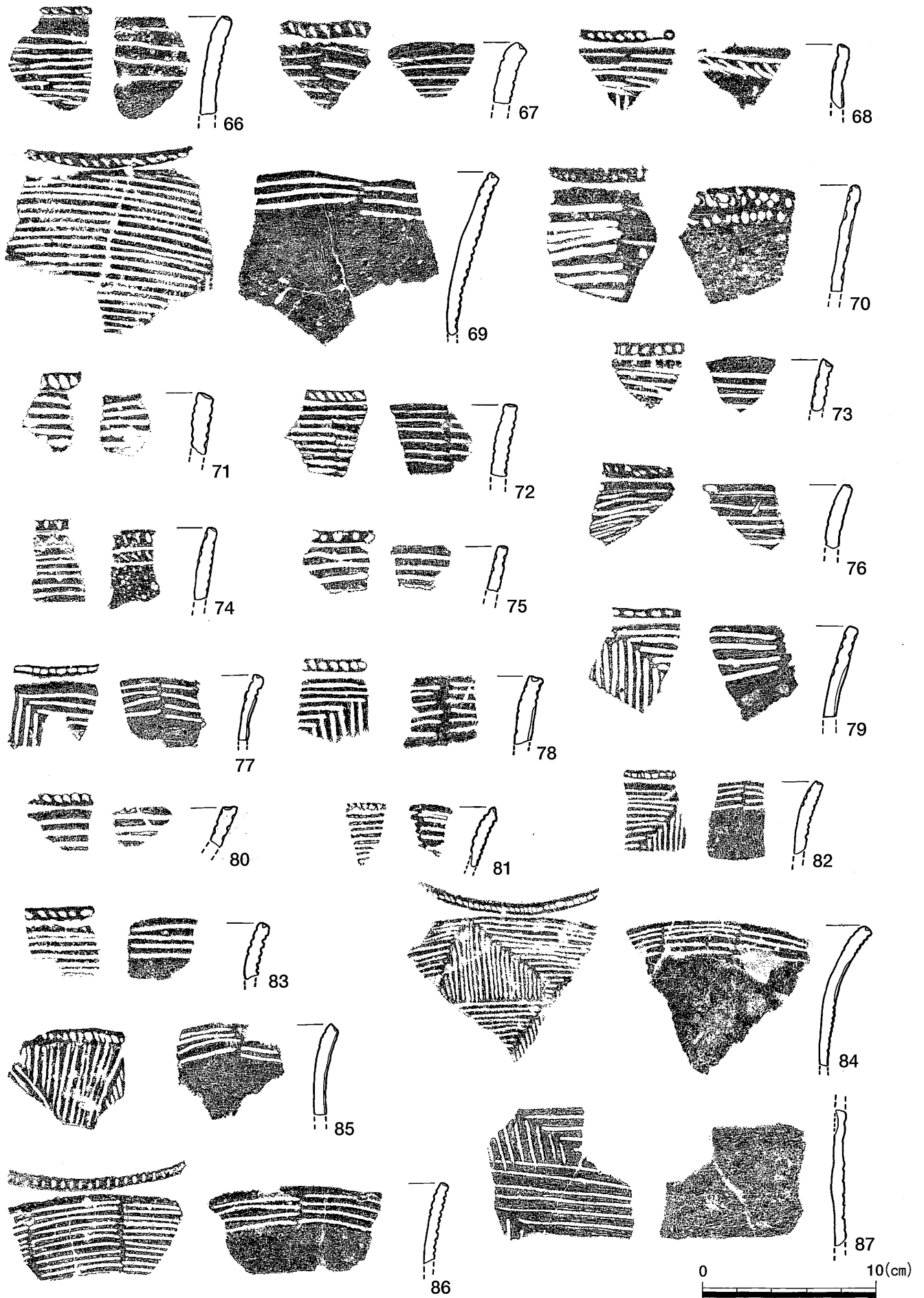
第12图 包含層出土繩文土器実測図(2)(1/3)



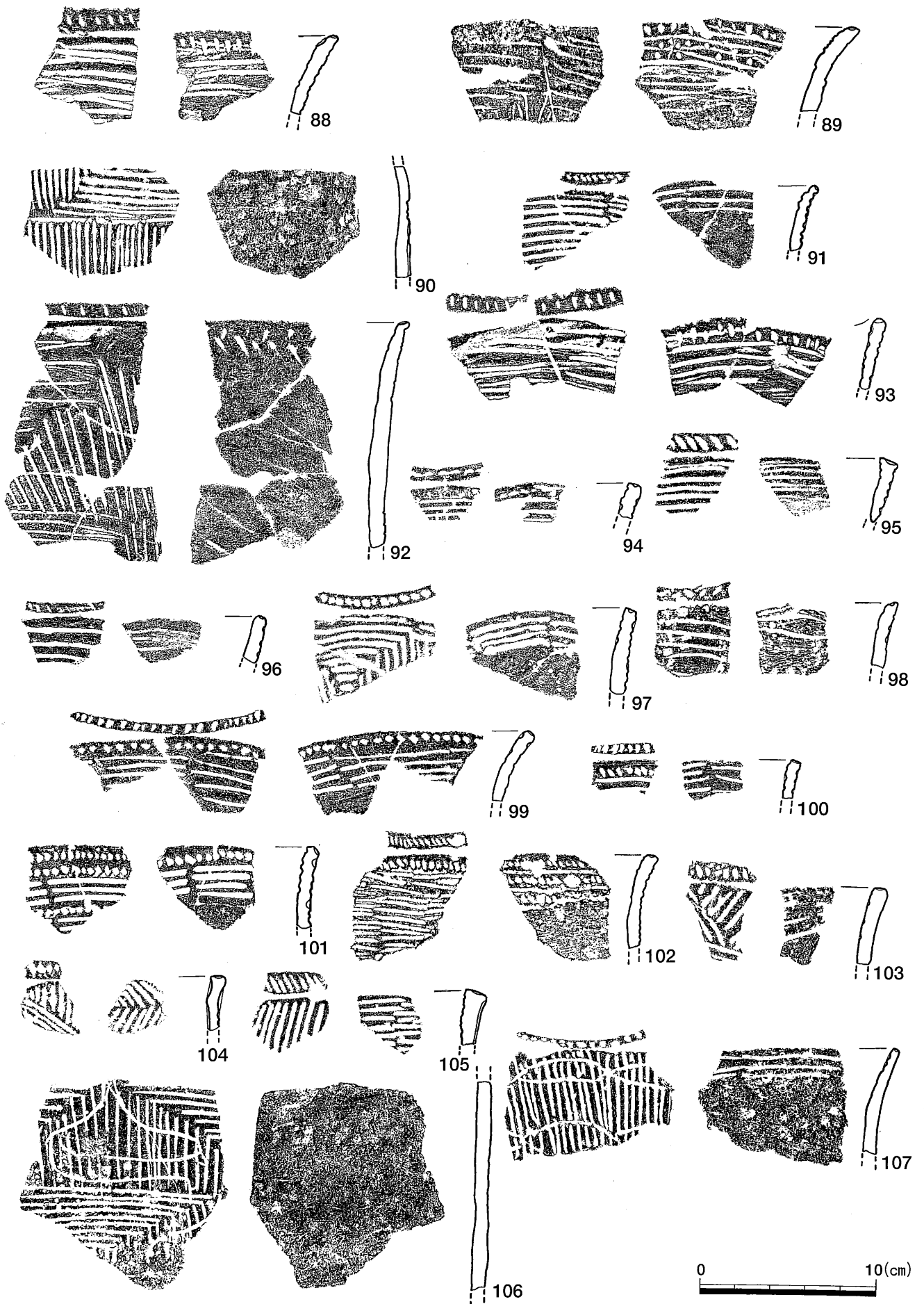
第13図 包含層出土縄文土器実測図(3)(1/3)



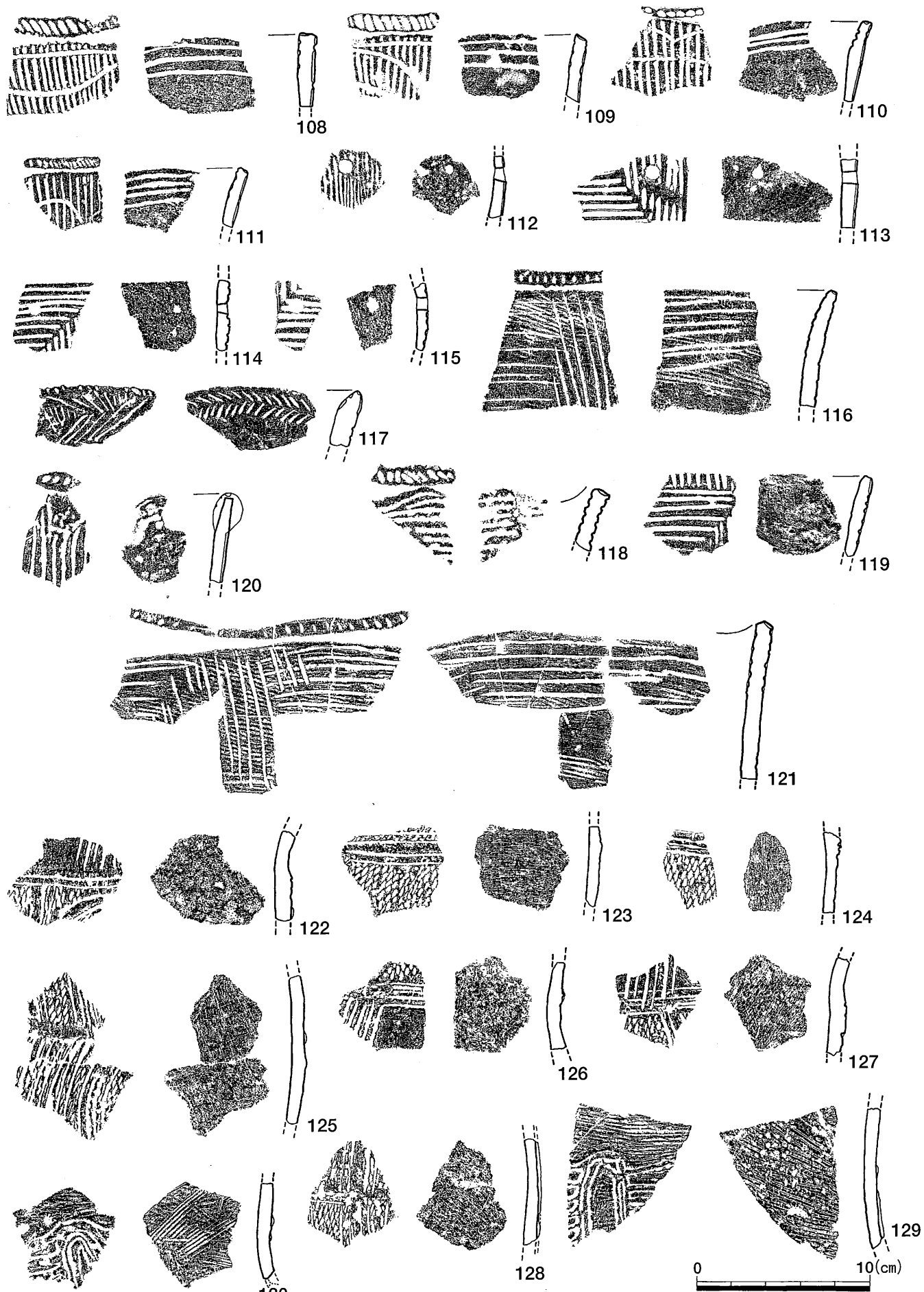
第14图 包含層出土繩文土器実測图 (4) (1/3)



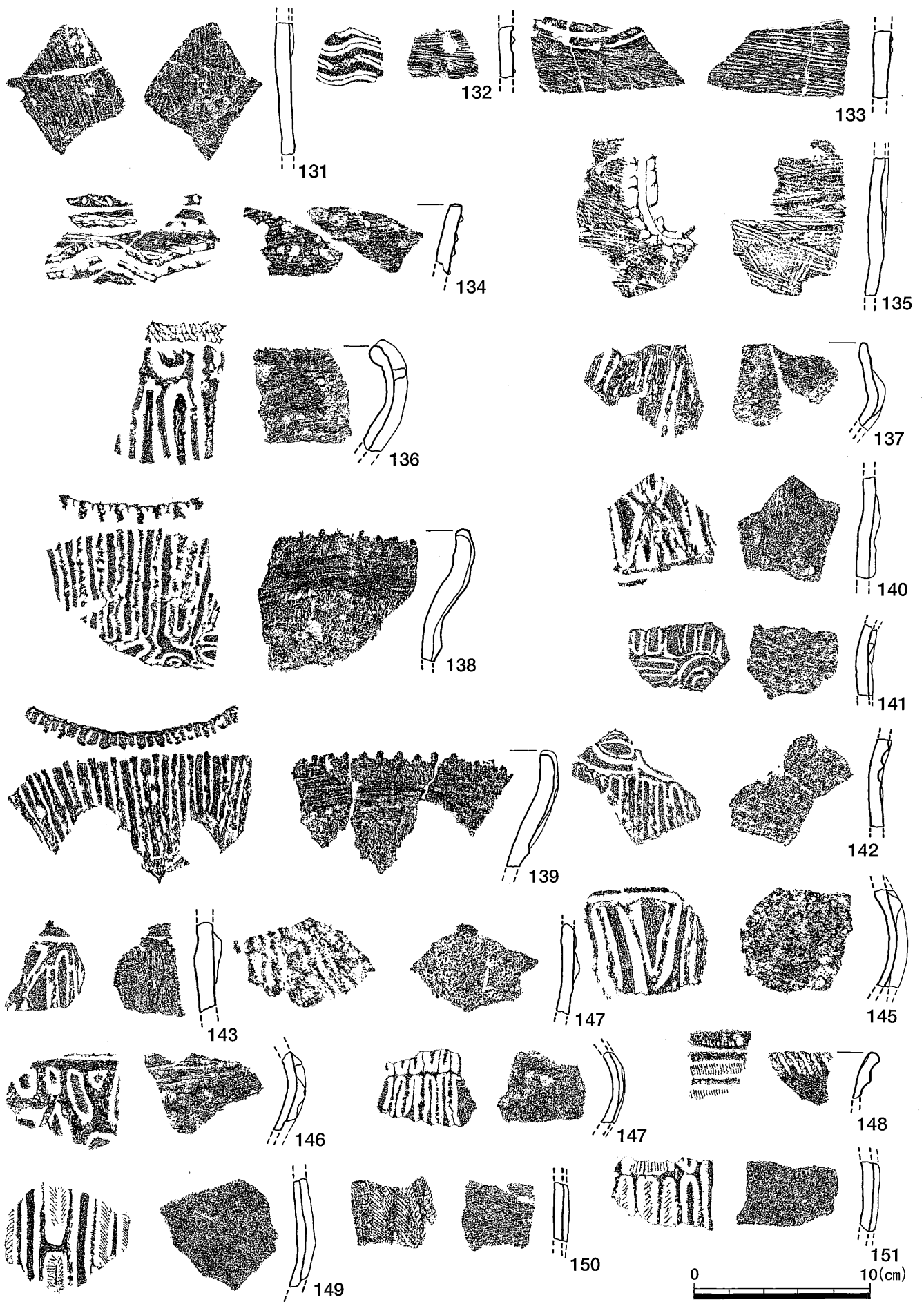
第15図 包含層出土縄文土器実測図 (5) (1/3)



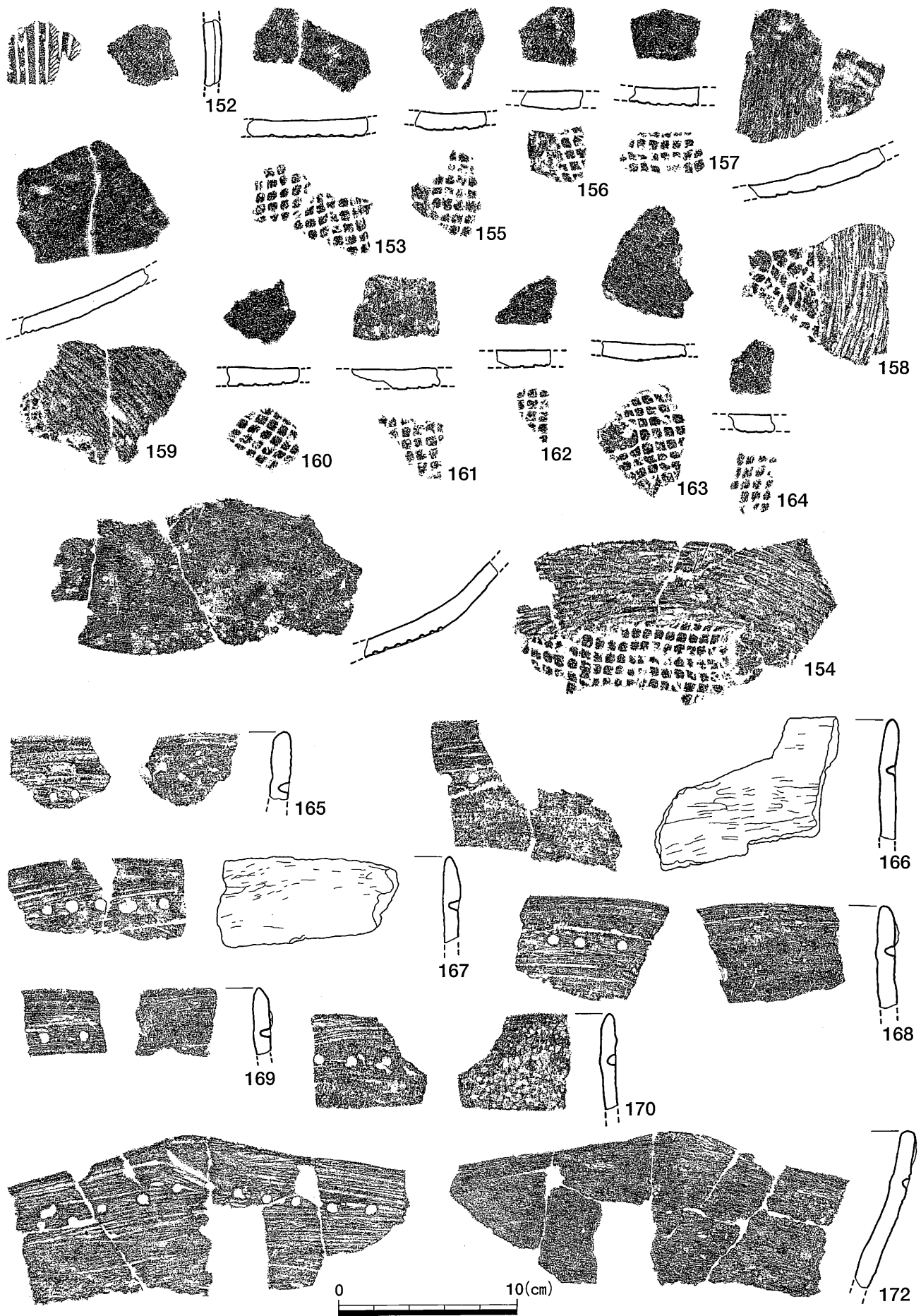
第16圖 包含層出土繩文土器実測圖 (6) (1/3)



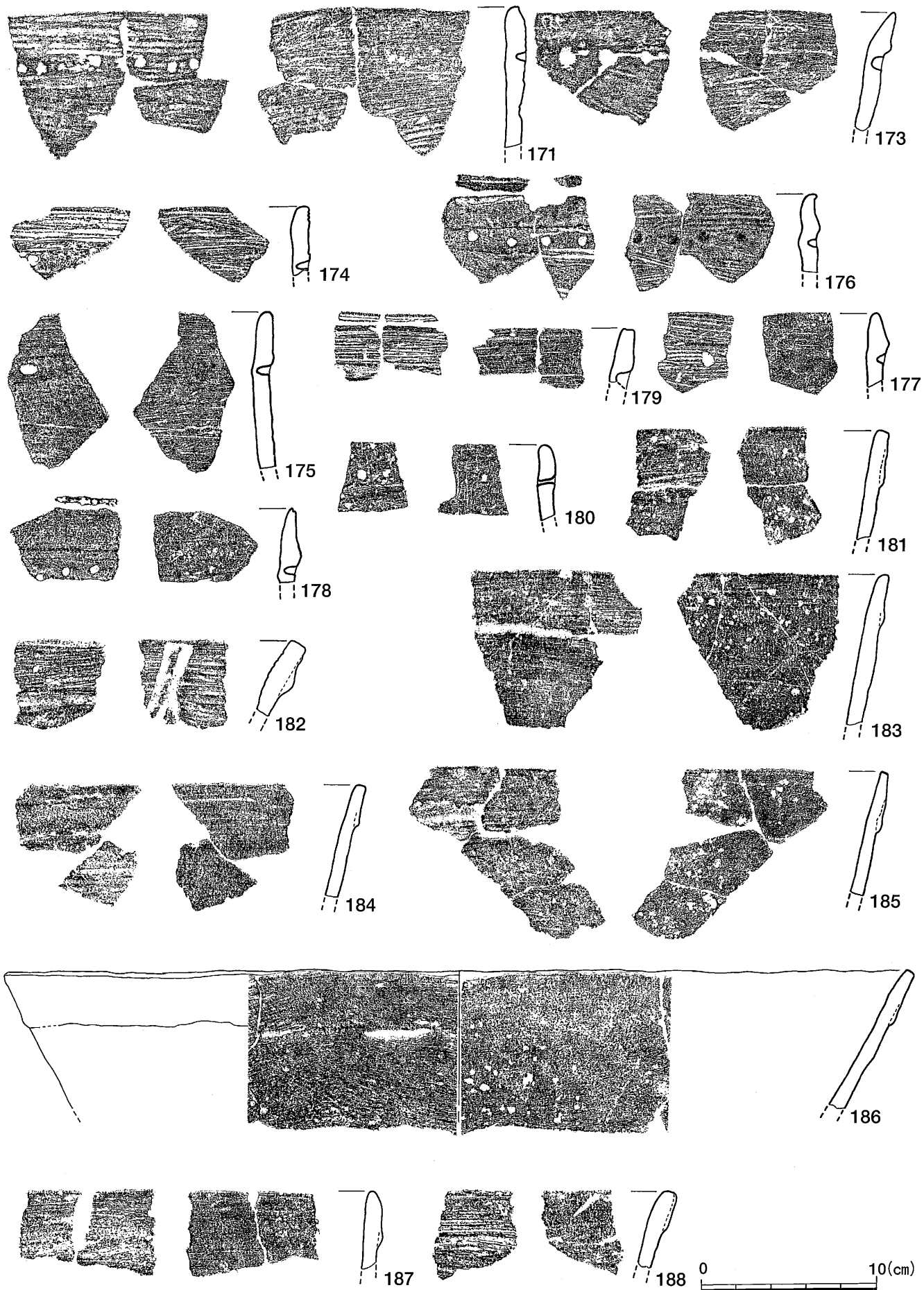
第17图 包含層出土縄文土器実測図 (7) (1/3)



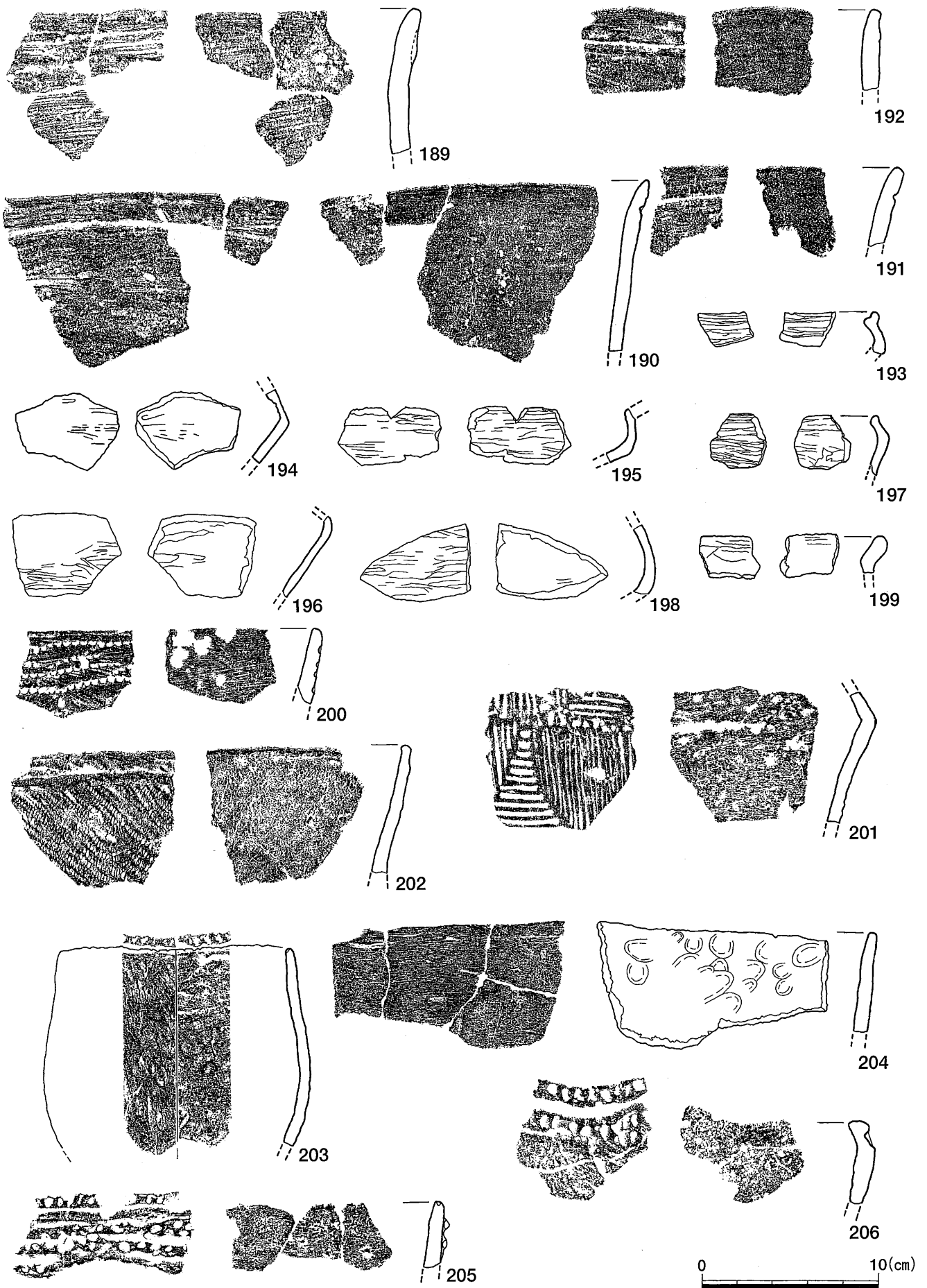
第18図 包含層出土縄文土器実測図(8)(1/3)



第19図 包含層出土縄文土器実測図(9)(1/3)



第20図 包含層出土縄文土器実測図 (10) (1/3)



第21図 包含層出土縄文土器実測図 (11) (1/3)

第6表 包含層出土縄文土器観察表(1)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒	
1	38	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR7/2 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下	円筒
2	39	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	円筒
3	40	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 3mm以下	円筒
4	44	⑥	A(2)	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 2mm以下	
5	45	⑥	A(2)	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	
6	46	⑥	A(2)	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	
7	47	⑥	A(2)	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	
8	48	⑥	A(2)	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	
9	339	⑥	A(2)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下	手向山式土器
10	340	⑥	A(2)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下	手向山式土器(?)
11	42	⑥	A(2)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○			○ 2mm以下	手向山式土器(?)
12	51	⑥	A(2)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	手向山式土器(?)
13	20	⑥	A(3)	口縁	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
14	30	⑥	A(3)	口縁	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
15	35	⑥	A(3)	口縁	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/2 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
16	36	⑥	A(3)	口縁	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器 口唇部に刺突文・波状沈線文
17	14	⑥	A(3)	胴部	沈線文・貼付突帯 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	平橋式土器
18	28	⑥	A(3)	胴部	沈線文・貼付突帯 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	平橋式土器
19	31	⑥	A(3)	胴部	沈線文・貼付突帯 刺突連点文	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 3mm以下	平橋式土器
20	11	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	平橋式土器
21	17	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
22	18	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
23	19	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器
24	21	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
25	22	⑥	A(3)	胴部	沈線文・ 刺突連点文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
26	23	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
27	24	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
28	25	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器
29	26	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器
30	27	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器
31	29	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
32	32	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	平橋式土器
33	33	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
34	34	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 5mm以下	平橋式土器
35	37	⑥	A(3)	胴部	沈線文 刺突連点文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	平橋式土器
36	53	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁に よる刺突文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	○			○ 3mm以下	壺ノ神式土器(貝殻文系)
37	43	⑤	A(4)	胴部	貝殻腹縁に よる圧痕文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	
38	49	⑤	A(4)	胴部	貝殻腹縁に よる圧痕文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	
39	52	⑤	A(4)	胴部	貝殻腹縁に よる圧痕文	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○	○			○ 2mm以下	
40	256	③	B(1)	口縁	ミミズ/レ状 の貼付突帯	ナデ	7.5YR4/1 褐灰	7.5YR5/4 にぶい褐	○				○ 2mm以下	轟式土器 口唇部に連続刻目
41	56	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 1mm以下	口唇部に連続刺突文
42	57	③	B(2)	口縁	沈線	沈線	10YR5/2 灰黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

第7表 包含層出土縄文土器観察表(2)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒	
43	60	③	B(2)	口縁	沈線	沈線	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR4/2 灰褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
44	62	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
45	63	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
46	68	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
47	69	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
48	70	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/3 にぶい褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
49	73	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
50	74	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
51	77	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
52	78	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
53	79	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/1 灰褐	○			○	○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有
54	103	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
55	109	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○		○	○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
56	106	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・刺突文	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離が著しい
57	121	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○	○		○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
58	122	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
59	123	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・刺突文	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
60	126	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
61	127	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	2.5Y4/1 黄灰	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
62	129	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 刺突文	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
63	130	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 4mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
64	134	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 4mm以下	曾畑式土器
65	55	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 4mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
66	65	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○	○			○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
67	72	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y4/1 黄灰	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
68	81	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○			○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有り
69	86	④	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
70	91	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 連続刺突文	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
71	108	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
72	110	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
73	111	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
74	112	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
75	115	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
76	118	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
77	120	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR4/3 褐	○				○ 1mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
78	125	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○			○ 3mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
79	58	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/3 にぶい黄褐	2.5Y3/2 灰褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
80	59	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/2 灰褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
81	61	⑤	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	10YR4/2 灰黄褐	○				○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有り
82	76	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
83	80	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR3/1 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○ 2mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目
84	89	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR3/1 黒褐	○			○	○ 8mm以下	曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有り

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

第8表 包含層出土縄文土器観察表(3)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒	
85	90	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	2.5Y4/2 暗灰黄	○			○	3mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文・剥離有り
86	92	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	○			○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
87	93	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 暗褐	○	○		○	4mm以下	○ 曾畑式土器 剥離有り
88	94	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	4mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
89	96	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
90	97	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 剥離有り
91	99	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
92	100	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 連続刺突文	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
93	101	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	10YR3/2 黒褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
94	102	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	7.5YR4/3 褐	5YR4/2 灰褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
95	107	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
96	116	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
97	117	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
98	119	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	4mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
99	66	③	B(2)	口縁	連続刺突文 沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○			○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
100	67	③	B(2)	口縁	連続刺突文 沈線	ナデ 沈線	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR6/3 にぶい黄褐	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
101	82	③	B(2)	口縁	連続刺突文 沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	7.5YR4/2 灰褐	2.5Y4/1 黄灰	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
102	95	③	B(2)	口縁	連続刺突文 沈線	ナデ 沈線・連続刺突文	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
103	64	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
104	114	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	5YR4/4 にぶい赤褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
105	105	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
106	6	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器
107	12	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	3mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
108	83	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○			○	3mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有り
109	88	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR3/2 黒褐	10YR3/2 黒褐	○			○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目・剥離有り
110	98	⑤	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
111	84	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
112	124	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 穿孔
113	128	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器 穿孔
114	132	③	B(2)	胴部	沈線	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○	○		○	1mm以下	○ 曾畑式土器 穿孔
115	133	③	B(2)	胴部	沈線	-	10YR3/2 黒褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	1mm以下	○ 曾畑式土器 穿孔・剥離著しい
116	85	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
117	131	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線(鋸歯状)	5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	○	○		○	3mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
118	113	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	○	○		○	2mm以下	○ 曾畑式土器・波状口縁 口唇部に連続刺突文
119	75	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	2mm以下	○ 曾畑式土器 剥離有り
120	104	③	B(2)	口縁	沈線 貼付突帯(瘤状)	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	1mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刺突文
121	54	③	B(2)	口縁	沈線	ナデ 沈線	10YR4/2 灰黄褐	5YR5/1 灰褐	○			○	3mm以下	○ 曾畑式土器 口唇部に連続刻目
122	165	③	C(1)	胴部	縄文・沈線 貼付突帯	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	○	○		○	5mm以下	○ 深浦式系
123	166	③	C(1)	胴部	縄文・沈線 貼付突帯	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	3mm以下	○ 深浦式系
124	167	③	C(1)	胴部	縄文・沈線	ナデ	7.5YR5/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	3mm以下	○ 深浦式系
125	168	③	C(1)	胴部	縄文・貝殻条痕 貼付突帯	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	4mm以下	○ 深浦式系
126	169	③	C(1)	胴部	縄文・沈線	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	4mm以下	○ 深浦式系

*出土層位については、第3図 (P6) の層位番号を参照

第9表 包含層出土縄文土器観察表(4)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考		
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒			
127	170	③	C(1)	胴部	縄文・沈線貼付突帯	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/3 におい黄褐	○	○				○	4mm以下	深浦式系
128	172	③	C(1)	胴部	縄文・沈線貼付突帯	ナデ	10YR5/3 におい黄褐	10YR5/3 におい黄褐	○	○				○	3mm以下	深浦式系
129	174	③	C(2)	胴部	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○				○	3mm以下	
130	175	③	C(2)	胴部	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○	2mm以下	
131	257	③	C(2)	胴部	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 におい褐	○	○				○	2mm以下	
132	258	③	C(2)	胴部	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 におい褐	○	○				○	1mm以下	
133	259	③	C(2)	胴部	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐	○					○	1mm以下	
134	260	③	C(2)	口縁	貝殻条痕貼付突帯	ナデ	5YR5/4 におい赤褐	5YR4/4 におい赤褐	○	○				○	2mm以下	
135	266	③	C(2)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	5YR4/3 におい赤褐	○	○				○	2mm以下	
136	264	③	C(3)	口縁	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR4/2 灰黄褐						○	3mm以下	口唇部に連続刻目
137	275	③	C(3)	口縁	ナデ貼付突帯	ナデ	2.5YR3/1 黒褐	10YR3/2 黒褐	○					○	2mm以下	焼成不良 剥離著しい
138	276	③	C(3)	口縁	ナデ貼付突帯	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR3/2 黒褐	○	○				○	6mm以下	焼成不良 剥離著しい
139	277	③	C(3)	口縁	ナデ貼付突帯	ナデ	10YR4/3 におい黄褐	10YR3/2 黒褐	○	○				○	3mm以下	焼成不良
140	261	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○		○	2mm以下	
141	265	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	10YR3/2 黒褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○	2mm以下	
142	268	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○	2mm以下	
143	271	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 におい黄褐	○	○				○	2mm以下	
144	262	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	10YR5/3 におい黄褐	7.5YR5/4 におい褐		○				○	5mm以下	
145	267	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 におい褐						○	3mm以下	
146	270	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 におい褐						○	6mm以下	
147	274	③	C(3)	胴部	ナデ貼付突帯	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y5/2 暗灰黄						○	2mm以下	
148	263	③	C(4)	口縁	貼付突帯 貝殻腹線(押し)	貝殻腹線(刺突文)	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/3 褐		○				○	2mm以下	口唇部に貝殻腹線による押し
149	269	③	C(4)	胴部	貼付突帯 貝殻腹線(押し)	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 におい褐		○				○	2mm以下	
150	272	③	C(4)	胴部	貼付突帯 貝殻腹線(押し)	ナデ	10YR4/3 におい黄褐	7.5YR5/3 におい褐	○	○				○	3mm以下	
151	273	③	C(4)	胴部	貼付突帯 貝殻腹線(押し)	ナデ	10YR3/2 黒褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○				○	2mm以下	
152	278	③	C(4)	胴部	貼付突帯 貝殻腹線(押し)	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○				○	2mm以下	
153	227	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○		○		○	2mm以下	
154	228	③	D(1)	底部	貝殻条痕 網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	2mm以下	
155	229	③	D(1)	底部	貝殻条痕 網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	3mm以下	
156	230	③	D(1)	底部	貝殻条痕 網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	3mm以下	
157	231	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	2mm以下	
158	232	③	D(1)	底部	貝殻条痕 網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	2mm以下	
159	233	③	D(1)	底部	貝殻条痕 網目圧痕	ナデ	7.5YR6/4 におい橙	7.5YR5/4 におい褐	○	○		○		○	2mm以下	
160	234	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	10YR5/4 におい黄褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○		○		○	2mm以下	
161	235	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐		○		○		○	2mm以下	
162	236	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐				○		○	2mm以下	
163	237	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐				○		○	2mm以下	
164	238	③	D(1)	底部	網目圧痕	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○		○		○	2mm以下	
165	178	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕 孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	7.5YR3/1 黒褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○				○	3mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸
166	180	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕 孔列文(未貫通)	ミガキ	7.5YR5/4 におい褐	10YR5/3 におい黄褐	○	○				○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸
167	182	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕 孔列文(未貫通)	ミガキ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 におい褐	○	○		○		○	3mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸
168	186	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕 孔列文(未貫通)	ナデ	7.5YR5/4 におい褐	7.5YR5/4 におい褐	○	○		○		○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

第10表 包含層出土縄文土器観察表(5)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土				備 考		
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クローンモ		砂 粒	
169	187	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
170	188	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	ナデ	10YR3/2 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
171	189	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
172	190	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	2mm以下	口唇部がナデ・外面にスス・波状口縁 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
173	13	③	D(2)	口縁	肥厚帯 孔列文(未貫通)	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	○	○		○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
174	176	③	D(2)	口縁	肥厚帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	10YR3/1 黒褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○		○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
175	177	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y4/1 黄灰	○	○		○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
176	179	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
177	183	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	2mm以下	口唇部がミガキ・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
178	184	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○		○	2mm以下	口唇部が連続刺突文・外面にスス 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
179	208	③	D(2)	口縁	貼付突帯・貝殻条痕孔列文(未貫通)	貝殻条痕・ナデ	2.5Y4/1 黄灰	7.5YR4/1 褐灰	○	○		○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ 内面に、外面施文の際のわずかな凸	
180	185	③	D(2)	口縁	貼付突帯 孔列文(貫通)	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙		○		○	2mm以下	口唇部がナデ	
181	137	③	D(3)	口縁	薄手の肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○	2mm以下	
182	139	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○	3mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ 外面にスス
183	144	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○	3mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ
184	145	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐					○	4mm以下	
185	146	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○	3mm以下	
186	164	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○			○	3mm以下	推定口径 52cm
187	181	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐		○			○	2mm以下	口唇部がナデ 外面にスス
188	196	③	D(3)	口縁	肥厚帯 貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y4/1 黄灰	○				○	2mm以下	口唇部が貝殻条痕のあとナデ 外面にスス
189	202	③	D(3)	口縁	肥厚帯(三角形) 貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR5/2 灰黄褐	○				○	2mm以下	口唇部がナデ
190	16	③	D(3)	口縁	薄手の肥厚帯・沈線 貝殻条痕・ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○			○	2mm以下	
191	248	③	D(3)	口縁	薄手の肥厚帯・沈線 貝殻条痕・ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○				○	1mm以下	
192	249	③	D(3)	口縁	薄手の肥厚帯・沈線 貝殻条痕・ナデ	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	10YR6/4 にぶい黄橙	○				○	1mm以下	
193	157	③	D(4)	口縁	ミガキ	ミガキ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐					○	1mm以下	
194	159	③	D(4)	胴部	ミガキ	ミガキ	5YR6/3 にぶい橙	7.5YR4/2 灰褐	○				○	1mm以下	
195	160	③	D(4)	頸部	ミガキ	ミガキ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR4/3 にぶい黄褐	○				○	1mm以下	
196	161	③	D(4)	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR4/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	○				○	1mm以下	
197	162	③	D(4)	口縁	ミガキ	ミガキ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○				○	1mm以下	
198	163	③	D(4)	胴部	ミガキ	ミガキ	10YR5/3 にぶい褐黄	10YR5/2 灰黄褐	○				○	1mm以下	
199	245	③	D(4)	口縁	ミガキ	ミガキ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○				○	1mm以下	剥離有り
200	41	-	E	口縁	貝殻腹縁による刺突文	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい褐黄		○		○	○	1mm以下	剥離有り
201	9	-	E	胴部	沈線	ナデ	7.5YR4/3 褐	10YR5/3 にぶい褐黄	○				○	2mm以下	
202	8	-	E	口縁	縄文 微隆帯	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○	2mm以下	
203	153	-	E	口縁	-	ナデ	7.5YR4/1 褐灰	10YR4/2 灰黄褐	○				○	5mm以下	
204	240	-	E	口縁	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/2 灰褐	○			○	○	4mm以下	外面にスス
205	244	-	E	口縁	貼付突帯(刻目)	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐	○				○	2mm以下	口唇部に連続刻目
206	251	-	E	口縁	押し引き	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	2.5Y5/3 黄褐	○				○	3mm以下	口唇部に連続刺突文

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

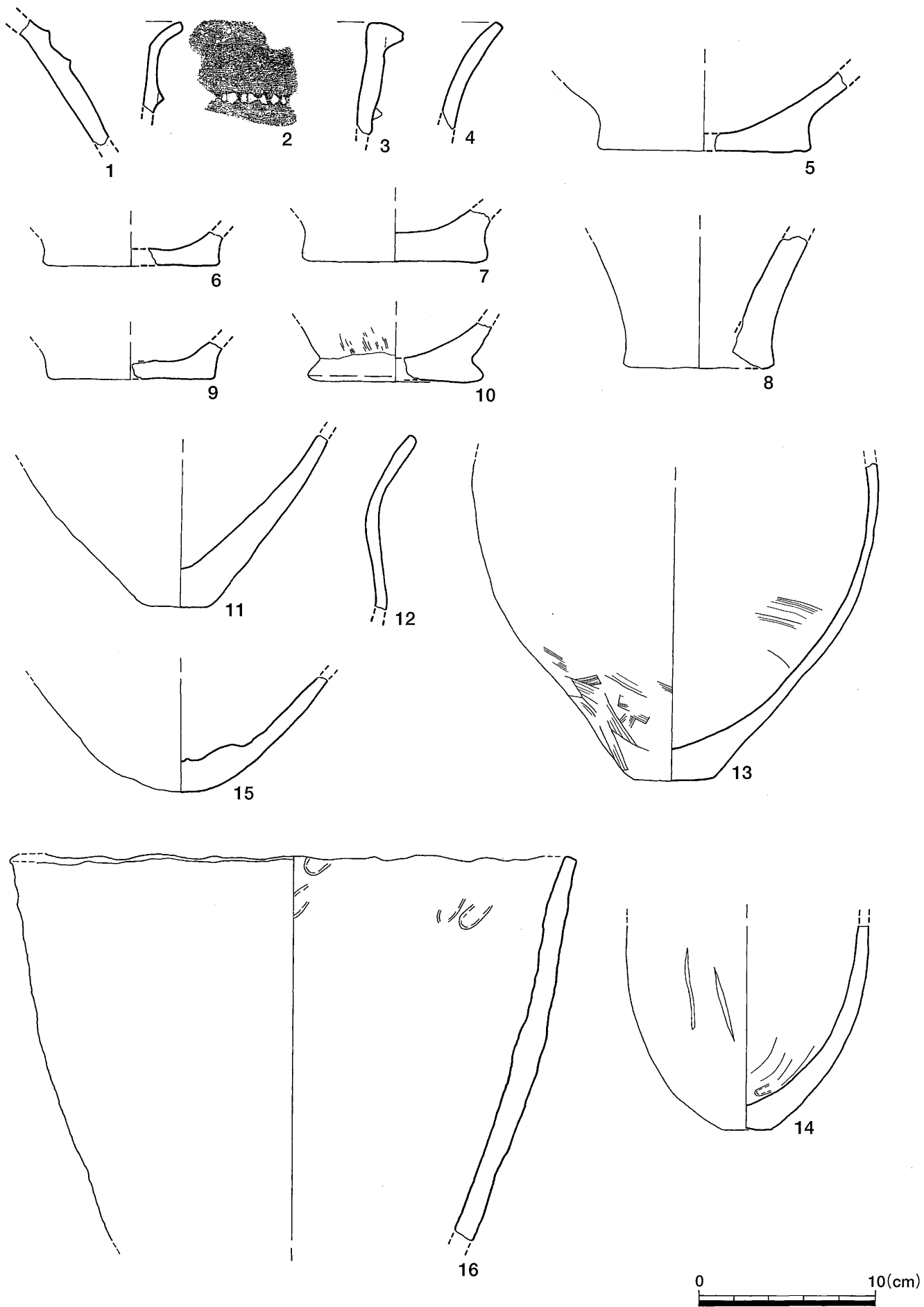
(2) 弥生時代以降の土器

弥生時代以降の土器については3層から出土しているが、出土量はごく少量である。また小破片が多く、時期・器形など詳細を掴みにくい状況であるが、その大半は弥生時代中期末から後期初頭にかけてのものと思われる。

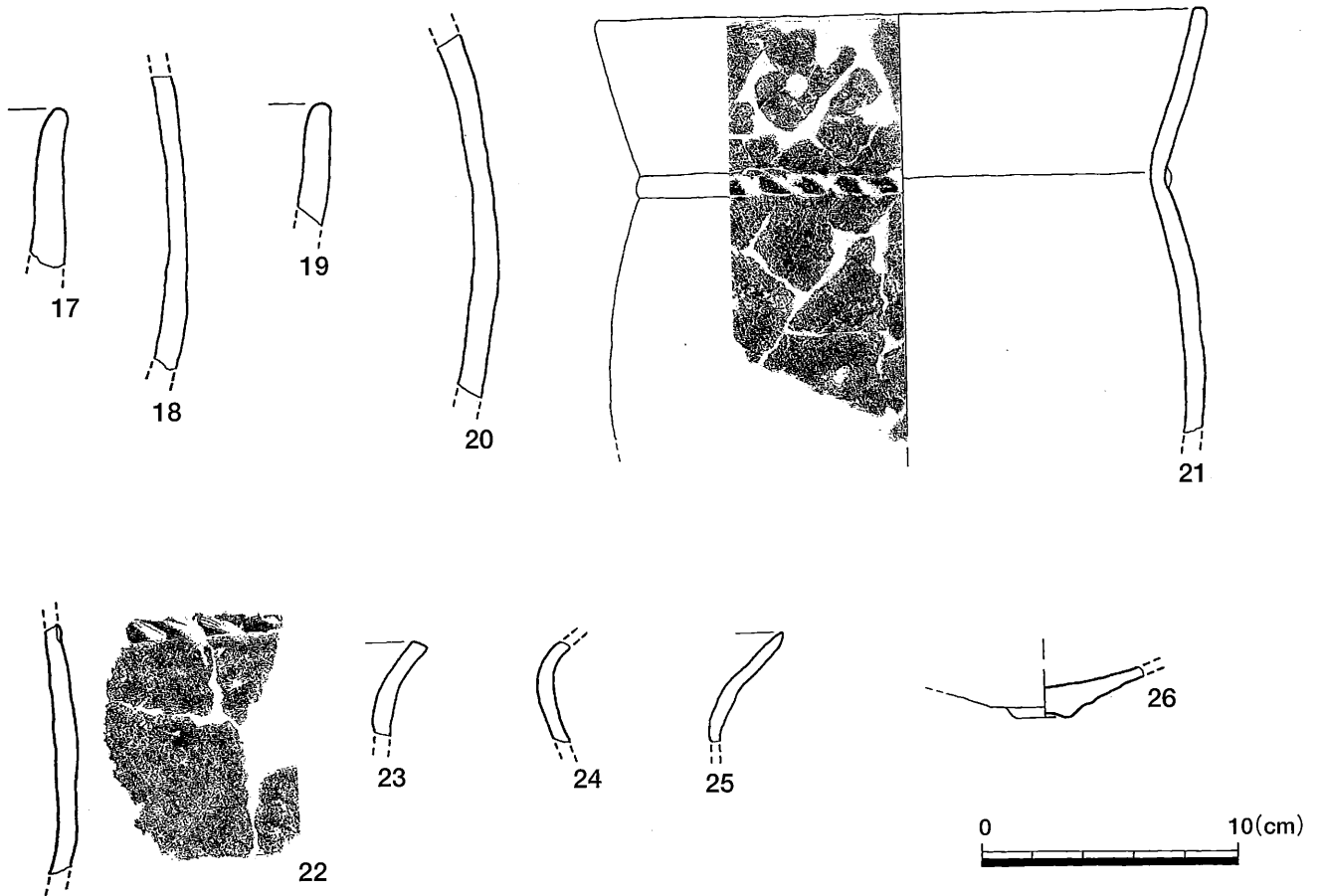
第11表 包含層出土弥生時代以降遺物観察表

NO	整理番号	出土層位	種別	器種部位	法量 (cm)		調 整		色 調		胎 土	備 考
					口径	底径	外面	内面	外面	内面		
1	295	③	弥生	甕胴部			ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	石英・黒雲母及び2mm以下の 透色・黒色粒を含む	
2	296	③	弥生	甕口縁部			ナデ 貼付突帯	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	黒雲母及び2mm以下の 茶色・白色・黄色・黒色粒を含む	スス付着
3	299	③	弥生	甕口縁部			ナデ 貼付突帯	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	石英及び2mm以下の茶色・灰色・ 褐色・黒色粒を含む	
4	294	③	弥生	甕口縁部			ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	10YR6/3 にぶい黄褐	石英・黒雲母及び3mm以下の 灰色・黄色・褐色・茶色・黒色粒を含む	
5	319	③	弥生	底部	12.1cm		ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	石英・長石及び3mm以下の白色・灰色・ 茶色・褐色・黒色粒を含む	
6	320	③	弥生	底部	10cm		ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石英・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 褐色粒を含む	
7	321	③	弥生	底部	10.5cm		ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/4 にぶい黄橙	石英・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 黒色・褐色粒を含む	
8	322	③	弥生	胴部～ 底部	8.6cm		ハケの後 ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	N3/0 暗灰	石英・長石及び3mm以下の白色・灰色・ 黒色・褐色粒を含む	
9	323	③	弥生	底部	9.6cm		ナデ	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石英・長石及び3mm以下の白色・灰色・ 褐色粒を含む	
10	325	③	弥生	底部	10cm		ハケ ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/2 灰黄褐	石英・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 黒色・茶色・褐色粒を含む	
11	280	③	弥生	胴部～ 底部	3.2cm		ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR5/4 にぶい褐	長石・黒雲母及び2.5mm以下の白色・ 灰色・褐色・茶色・黒色粒を含む	
12	326	③	弥生	甕口縁部			ナデ	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/4 にぶい褐	長石及び2.5mm以下の白色・灰色・ 黒色・茶色・褐色粒を含む	
13	281	③	弥生	甕胴部～ 底部	3cm		ハケの後 ナデ	ハケの後 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	黒雲母・長石及び4mm以下の白色・灰色・ 黒色・茶色・褐色粒を含む	
14	303	③	弥生	胴部～ 底部	2.8cm		ナデ	指圧痕・ハケ ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	長石及び3mm以下の白色・灰色・黒色・ 茶色・褐色粒を含む	外面に記号(?)
15	324	③	弥生	底部			ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	石英・長石及び3mm以下の白色・灰色・ 黒色・褐色粒を含む	
16	282	③	弥生	甕口縁～ 胴部	32cm		ナデ	ナデ 指圧痕	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	黒雲母・長石・石英及び4mm以下の灰色・ 黒色・茶色・褐色粒を含む	不明遺構より出土
17	283	③	弥生	甕口縁			ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/2 灰黄褐	黒雲母・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 茶色・黒色・褐色粒を含む	不明遺構より出土
18	285	③	弥生	甕口縁			ナデ	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR5/3 にぶい黄褐	黒雲母・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 茶色・黒色・褐色粒を含む	不明遺構より出土
19	286	③	弥生	甕口縁			ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	黒雲母及び2mm以下の白色・灰色・ 茶色・黒色・褐色粒を含む	不明遺構より出土
20	287	③	弥生	甕胴部			ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR6/3 にぶい黄橙	黒雲母・長石・石英及び3mm以下の白色・ 灰色・茶色・黒色・褐色粒を含む	不明遺構より出土
21	314	③	弥生	甕口縁～ 胴部	24cm		ナデ 貼付突帯	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	石英・長石及び2mm以下の白色・灰色・ 茶色・褐色粒を含む	
22	315	③	弥生	甕胴部			ナデ 貼付突帯	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/1 褐灰	石英・長石及び3mm以下の白色・灰色・ 茶色・褐色粒を含む	
23	306	③	弥生	甕口縁			ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	4mm以下の灰色・茶色・黒色・褐色粒を 含む	
24	307	③	弥生	甕胴部			ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長石及び灰色・茶色・黒色・褐色粒を含む	
25	309	③	弥生	甕口縁			ナデ	ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	長石及び3mm以下の白色・灰色・黒色・ 茶色・褐色粒を含む	
26	317	③	土師	杯底部	2.8cm		ナデ	ナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	石英・長石及び灰色・黒色・褐色粒を含む	

*出土層位については、第3図 (P6) の層位番号を参照



第22図 包含層出土弥生時代以降遺物実測図 (1) (1/3)



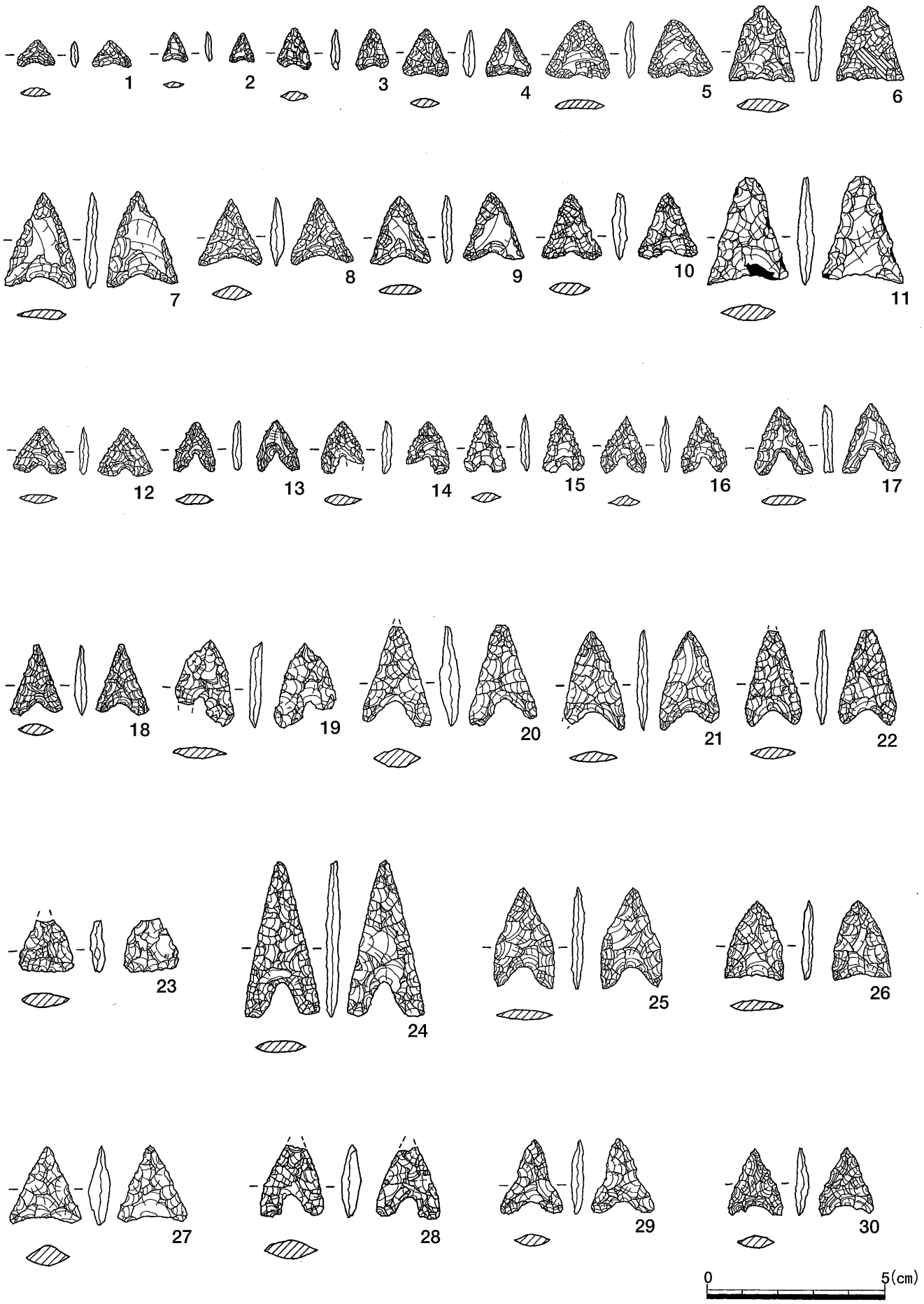
第23図 包含層出土弥生時代以降遺物実測図(2)(1/3)

(3) 石器

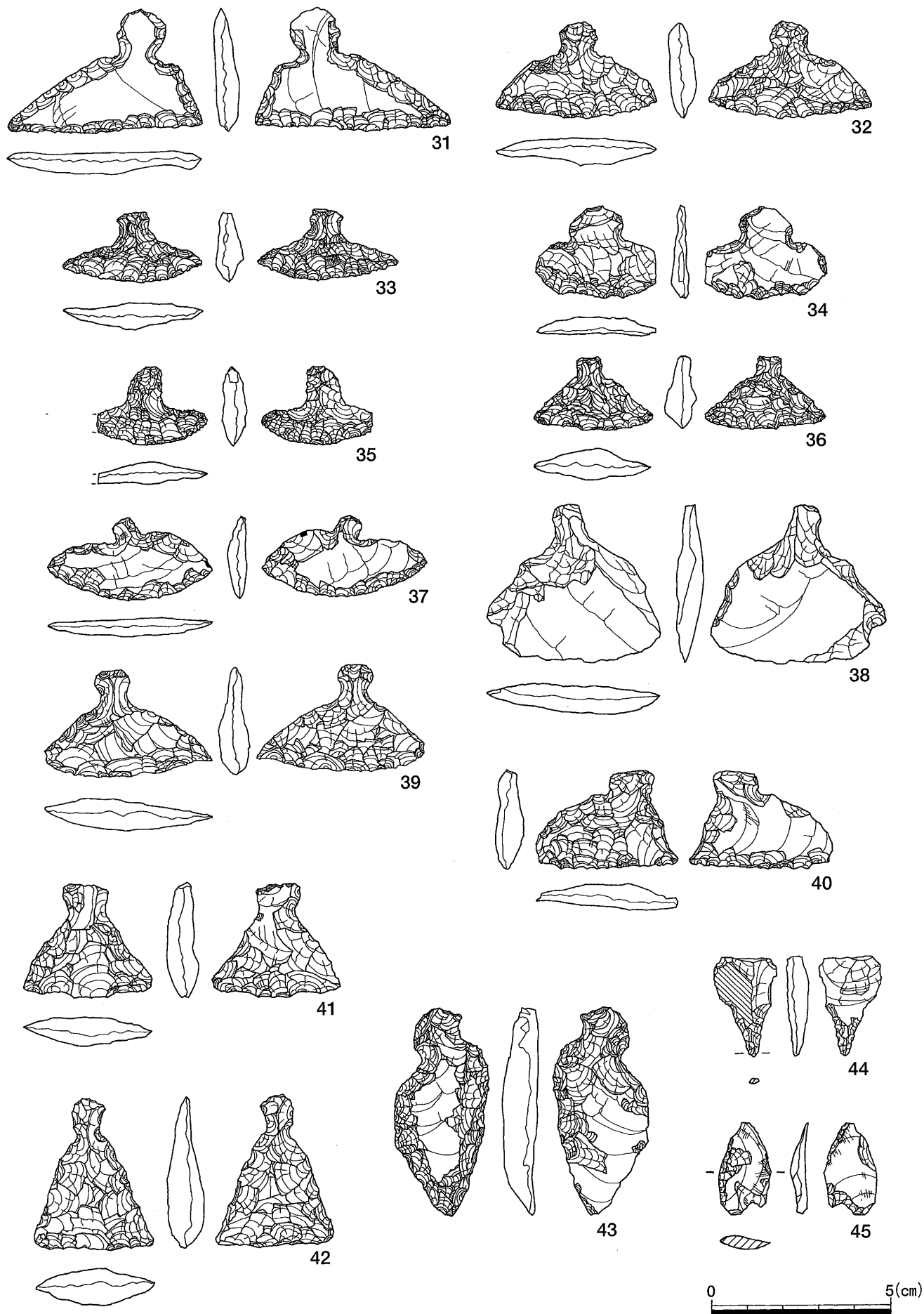
出土層位は、3層、5～6層、旧石器の遺物包含層、の大別して3層に分かれる。3層から出土した石器は、石鏃・石匙・石斧・磨石・礫器・剥片石器などで、使用されている石材は、黒曜石(姫島産、針尾産)・チャート・頁岩・砂岩が多く、なかには流紋岩・安山岩・玉髓などもみられる。石鏃についてはすべてが打製石鏃で(1～24)、平面形やえぐりの有無などには様々なバリエーションが見られ、石匙については、横匙(31など)・縦匙(43)いずれも見られるが、横匙が大多数を占めている。その他、磨石のほとんどは砂岩を石材としているが、51は尾鈴酸性砂岩を使用しており、また石斧については、49は局部磨製石斧、50は磨製石斧でいずれもホルンフェルスを使用している。48の礫器については砂岩が使用されているが、表面で確認できる滑らかな面は研磨か使用のためのものであるだろう。礫器や剥片石器については、掲載遺物の他に多数出土しているが、今回の報告書では紹介できていない。

5～6層から出土した石器は、石鏃(25～30)・異形石器(46・47)・礫器・剥片石器などで、使用されている石材は黒曜石(姫島産、針尾産)・チャート・頁岩・砂岩が多い。この層からの出土遺物についても、製品のみの紹介にとどまっており、剥片等については掲載できていない。

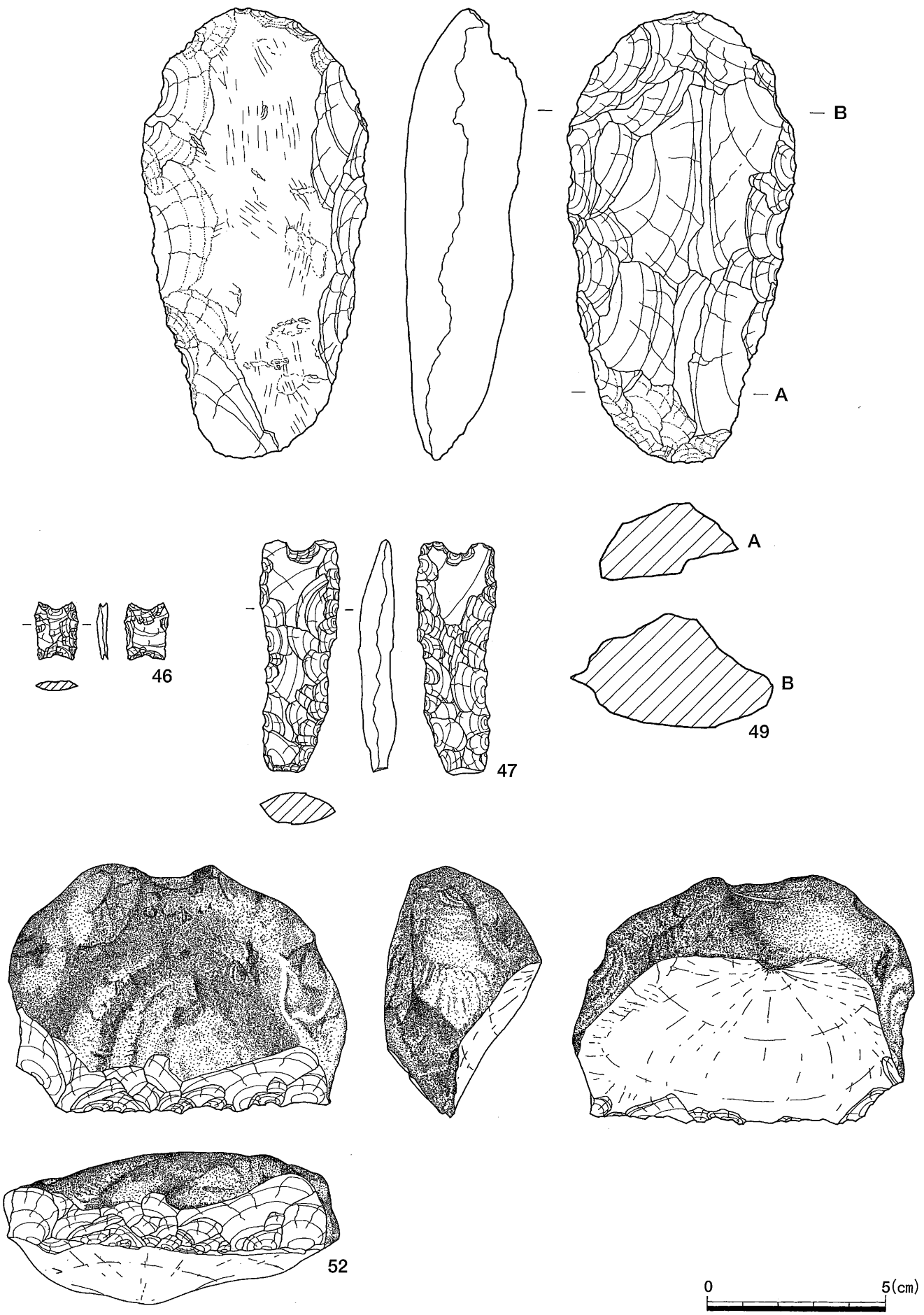
旧石器の石器については、トレンチ調査で出土したごくわずかな量であるが、52のスクレーパーは注目に値する。



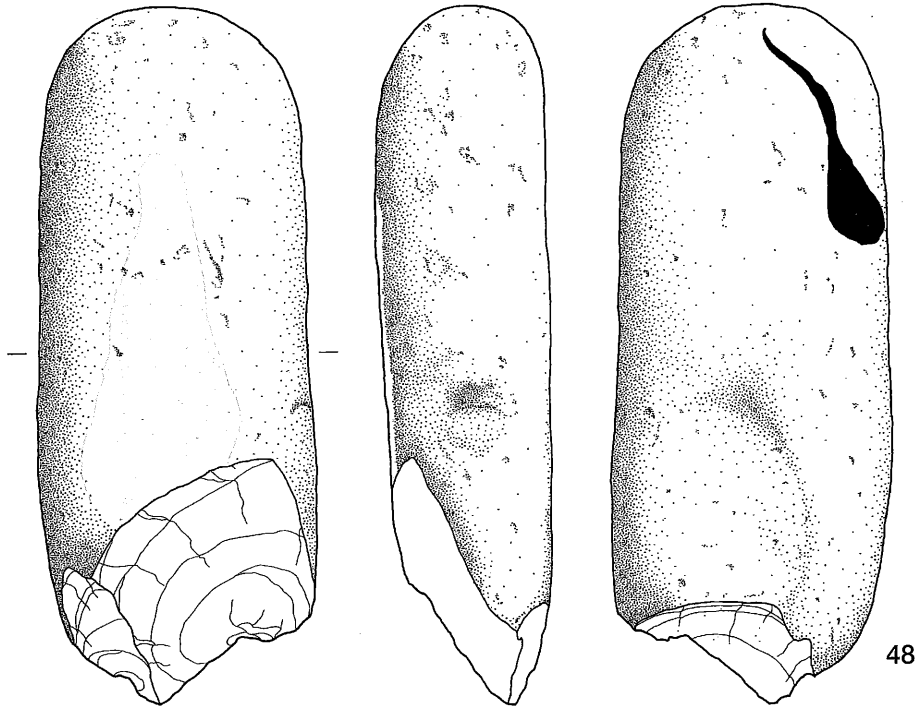
第24图 包含層出土石器実測图 (1) (2/3)



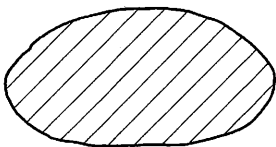
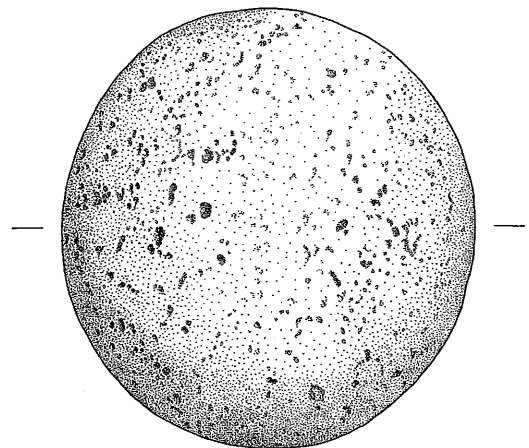
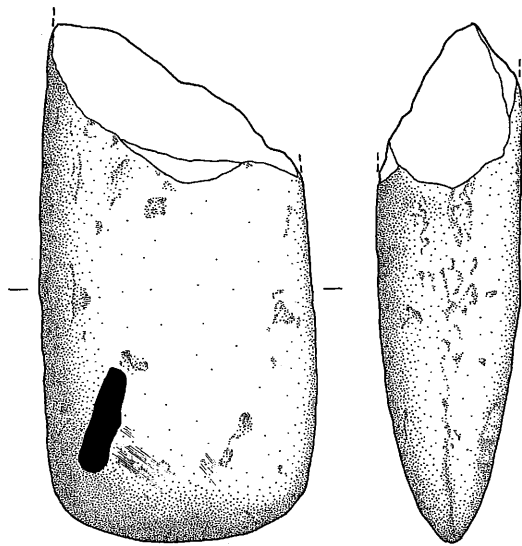
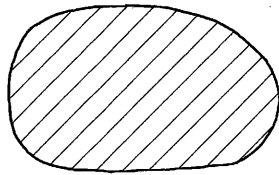
第25图 包含層出土石器实测图 (2) (2/3)



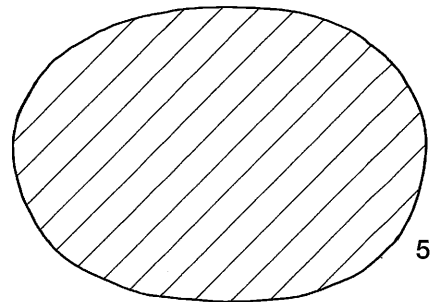
第26图 包含層出土石器实测图 (3) (2/3)



* トーン部分は、研磨面か？



50



51



第27図 包含層出土石器実測図 (4) (2/3)

第12表 包含層出土石器計測表

NO	整理番号	器種	出土層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	353	石鏃	③	チャート	0.8	1.1	0.2	0.1	
2	357	石鏃	③	黒曜石	0.9	0.7	0.2	0.1以下	
3	359	石鏃	③	黒曜石	1.2	1.0	0.3	0.1以下	
4	349	石鏃	(③)	チャート	1.4	1.3	0.2	0.4	
5	336	石鏃	(③)	チャート	1.7	1.8	0.3	0.7	
6	334	石鏃	③	チャート	2.2	1.9	0.4	1.3	
7	338	石鏃	③	チャート	2.7	2.0	0.4	1.5	
8	355	石鏃	③	チャート	1.9	1.7	0.4	0.7	
9	358	石鏃	③	頁岩	2.0	1.7	0.3	0.6	
10	367	石鏃	③	黒曜石	1.9	1.7	0.4	0.6	
11	372	石鏃	(③)	流紋岩	3.1	2.3	0.3	2.2	
12	348	石鏃	③	黒曜石	1.4	1.5	0.3	0.4	
13	360	石鏃	③	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.3	黒曜石の産地は長崎県針尾
14	363	石鏃	③	黒曜石	1.5	1.2	0.4	0.3	
15	374	石鏃	③	チャート	1.6	1.2	0.3	0.1	
16	375	石鏃	(③)	黒曜石	1.6	1.3	0.3	0.2	黒曜石の産地は大分県姫島
17	343	石鏃	(③)	頁岩	1.9	1.3	0.2	0.4	
18	344	石鏃	③	黒曜石	2.0	1.5	0.4	0.4	
19	352	石鏃	(③)	黒曜石	2.5	1.7	0.3	1.1	脚部欠損
20	370	石鏃	(③)	黒曜石	2.9	1.9	0.5	1.6	先端部欠損
21	345	石鏃	③	頁岩	2.8	1.7	0.3	1.0	脚部欠損
22	346	石鏃	③	頁岩	2.7	1.6	0.3	1.1	先端部欠損
23	364	石鏃	(③)	安山岩	4.5	2.1	0.3	2.4	
24	341	石鏃	(③)	玉髄	2.9	1.8	0.3	1.2	
25	335	石鏃	⑥	黒曜石	1.5	1.5	0.4	0.8	先端部欠損
26	354	石鏃	⑥	チャート	2.3	1.7	0.3	1.1	
27	373	石鏃	⑥	頁岩	2.2	2.0	0.6	1.4	
28	331	石鏃	⑥	黒曜石	2.1	1.8	0.6	1.2	先端部欠損
29	369	石鏃	⑥	チャート	2.1	1.3	0.4	0.7	
30	371	石鏃	⑥	玉髄	1.9	1.6	0.4	0.6	
31	327	石匙	③	頁岩	3.6	5.5	0.6	6.2	
32	329	石匙	③	黒曜石	2.9	4.6	0.7	5.4	黒曜石の産地は大分県姫島
33	330	石匙	③	黒曜石	2.0	4.0	0.8	3.1	黒曜石の産地は長崎県針尾
34	332	石匙	③	チャート	2.7	3.4	0.5	3.6	
35	333	石匙	-	チャート	2.3	3.2	0.7	2.9	SC-107より出土
36	361	石匙	③	玉髄	2.1	3.4	0.9	3.4	
37	342	石匙	③	安山岩	2.4	4.7	0.5	3.8	
38	350	石匙	③	ホルンフェルス	4.5	4.9	0.9	11.7	
39	362	石匙	(③)	頁岩	3.0	4.7	0.9	7.5	
40	365	石匙	③	頁岩	2.8	4.0	0.9	7.3	
41	347	石匙	③	安山岩	3.3	3.7	0.8	6.6	
42	356	石匙	-	安山岩	4.3	3.4	1.1	10.5	
43	366	石匙	(③)	チャート	6.0	2.7	1.0	15.2	
44	351	石錘	-	チャート	2.9	1.9	0.6	2.3	
45	328	石鏃(未製品)	⑥	黒曜石	2.6	1.4	0.3	1.1	
46	377	異形石器	-	チャート	1.4	1.3	2.5	0.4	
47	1	異形石器	⑥	頁岩	6.7	2.3	1.0	15.5	
48	379	礫器	③	砂岩	13.9	5.5	3.5	406.2	石核の可能性も有り
49	380	磨製石斧	(③)	ホルンフェルス	12.8	6.5	3.3	306.5	使用中に欠損の可能性有り
50	378	磨製石斧	(③)	ホルンフェルス	10.3	5.5	3.0	212.2	基部欠損、研磨による仕上げは不明瞭
51	376	磨石	③	尾鈴酸性砂岩	8.8	8.2	5.9	597.3	
52	2	スクレーパー	⑨~⑮	頁岩	7.1	9.5	4.3	318.0	

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照。尚()の層位については、確実ではないので注意。

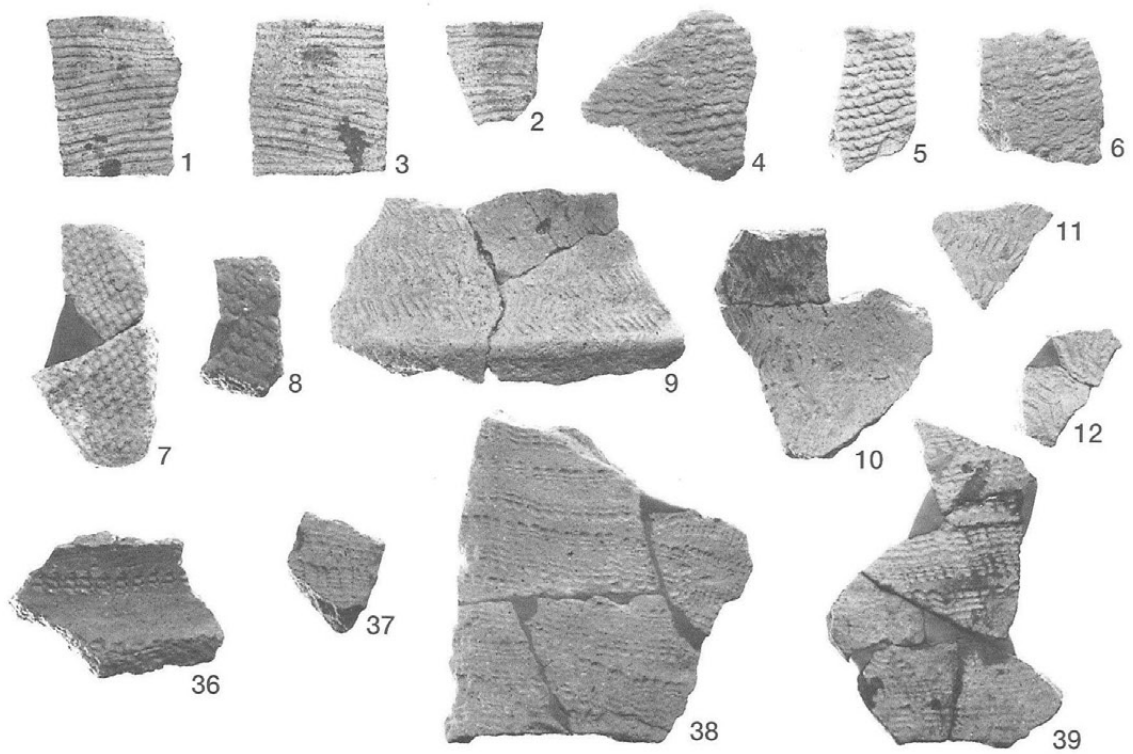
第5節 まとめ

今回の調査では、①縄文時代前期から古代②縄文時代草創期から縄文時代早期、③旧石器、と3枚確認されている文化層すべてにおいて、いわば部分的な範囲での記録作業となった。

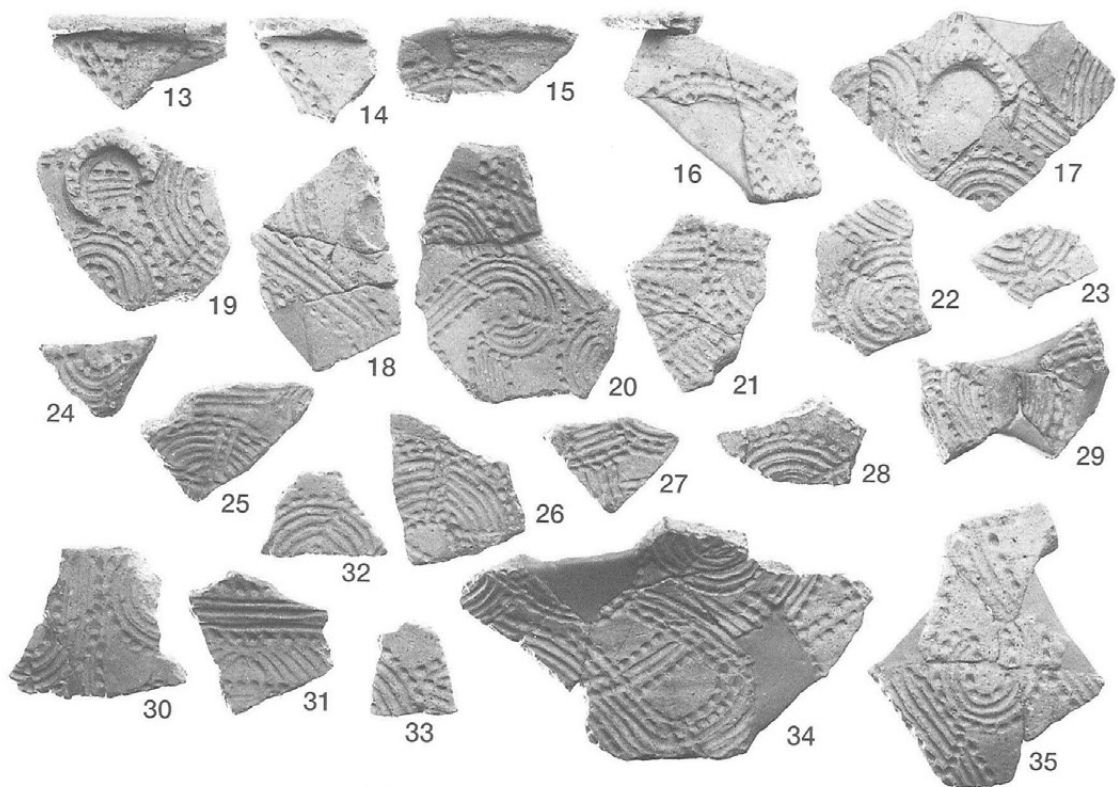
①の文化層については、現代耕作によりアカホヤ火山灰が削平されていない範囲での調査となったが、確認された遺構で注目されるのは、端部にピットを有する土坑であろう。この土坑については、近隣の滑川第1遺跡や山田第2遺跡でも確認されているが、構築されている地形はいずれもやや谷地形となり窪んだ所で、2層及び3層が厚めに堆積している場所である。用途については、棒状のものを立ててなんらかを貯蔵したのではないか、など幾つかの推測が可能であるが、地下茎植物を採掘する際の痕跡ということも充分にありえると考えられる。また、包含層より出土した遺物については、縄文時代前期から古代までの幅広い時期の遺物が確認されているが、なかでも注目されるのは密集して出土した曾畑式土器であろう。

次に②の文化層では、集石遺構が2つのグループで検出されている。似かよった集石遺構が5基まとまっているグループについては、他の状況はほとんど同じであるのにもかかわらず、配石については持つものと持たないものいずれも存在していることが確認されており、このことを整理していくと掘り込みの中に人頭大の扁平な礫を配置する目的が明確になるのではないかと思われる。また大型の集石遺構の周りを小型の集石遺構が囲むグループについては、大型の2基と小型の4基が無関係なのか、それとも互いになんらかの結びつきがあるのか定かではないけれども、現時点では“なんらかの関係がある”、もう一步踏み込んでいうと“大型の集石を使用する際に、礫の補充をするために小型の集石が使用されたのではないか”という推測が最も妥当だと思われる。また、包含層から出土した遺物については、早期中葉から後葉にかけてのものがほとんどであった。

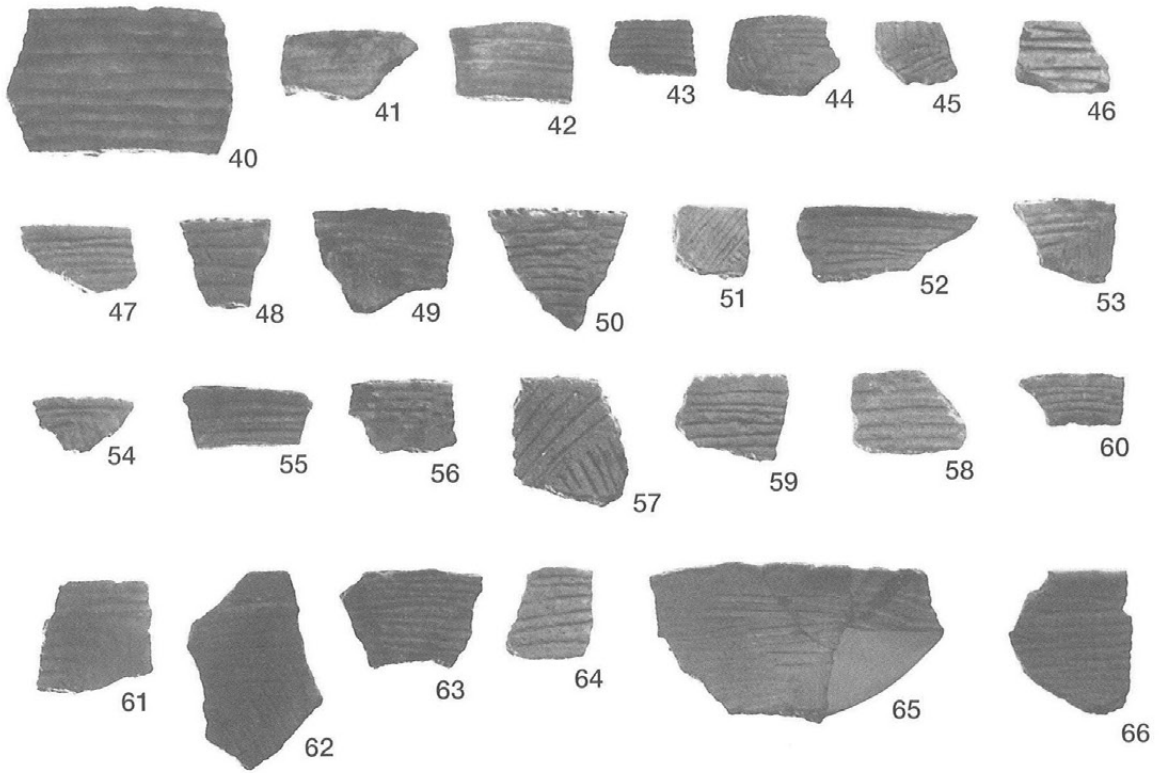
最後に③の文化層については部分的な調査を行ったが、小林軽石層の上下でわずかではあるがスクレーパーなどの遺物が確認されている。



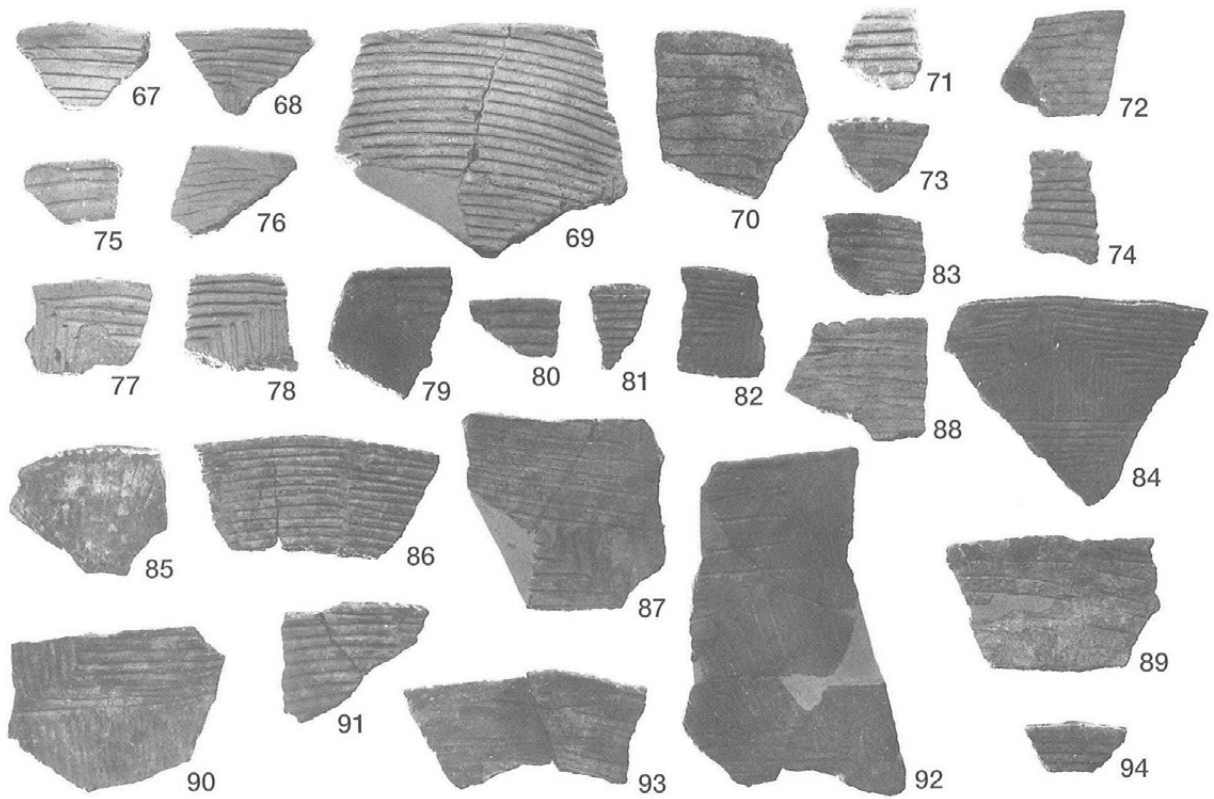
图版26 包含層出土繩文土器 (1)



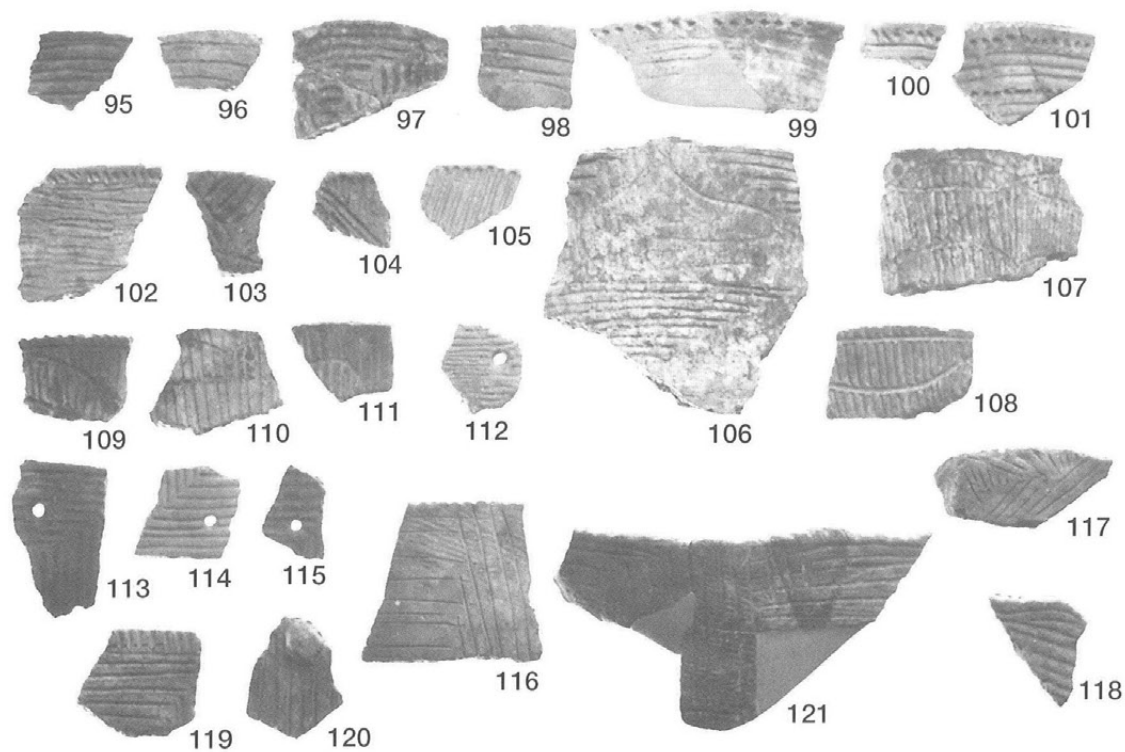
图版27 包含層出土繩文土器 (2)



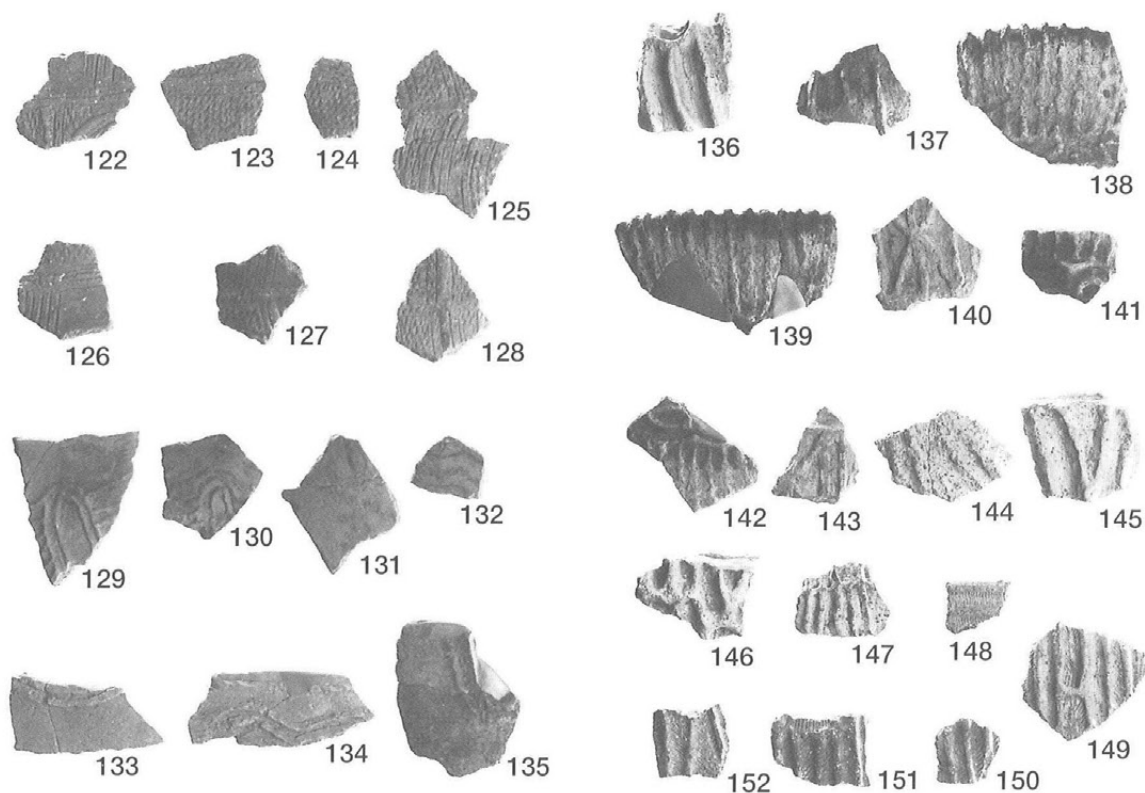
図版28 包含層出土縄文土器（3）



図版29 包含層出土縄文土器（4）

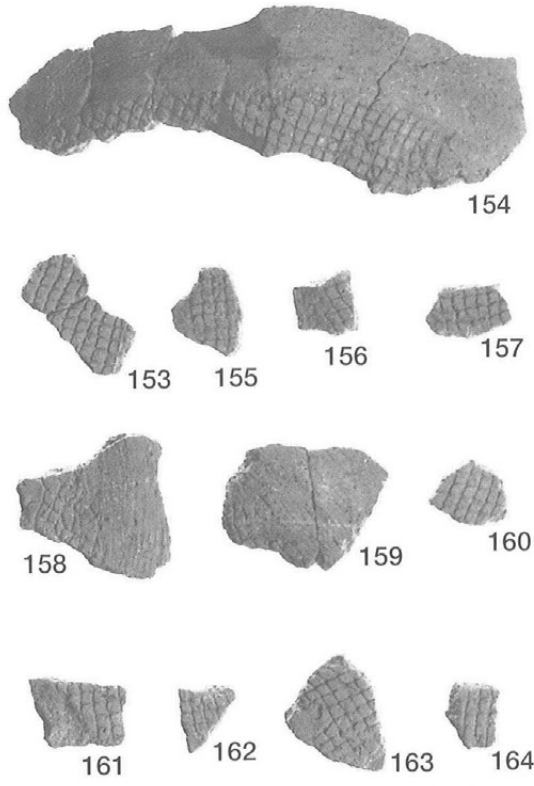


図版30 包含層出土縄文土器（5）

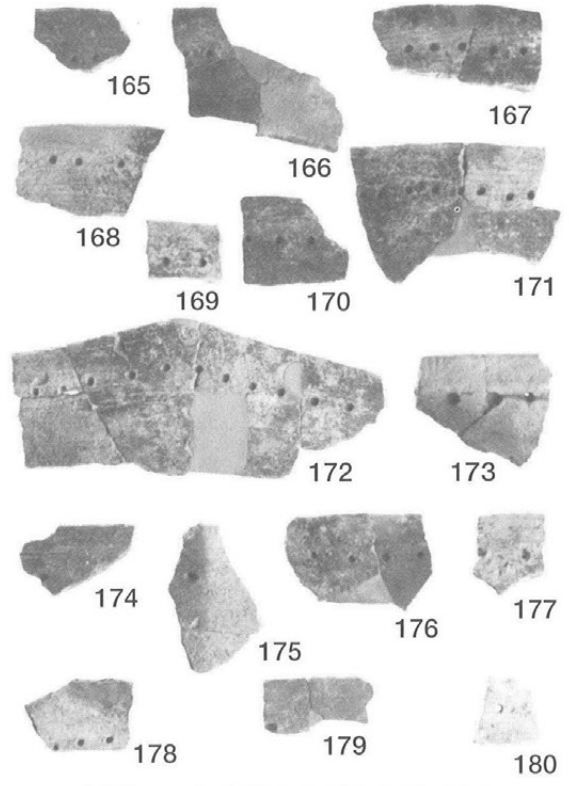


図版31 包含層出土縄文土器（6）

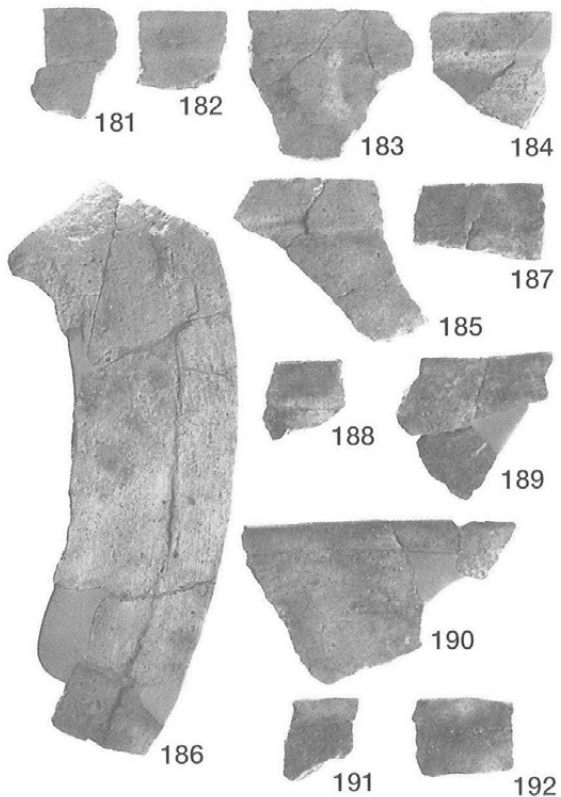
図版32 包含層出土縄文土器（7）



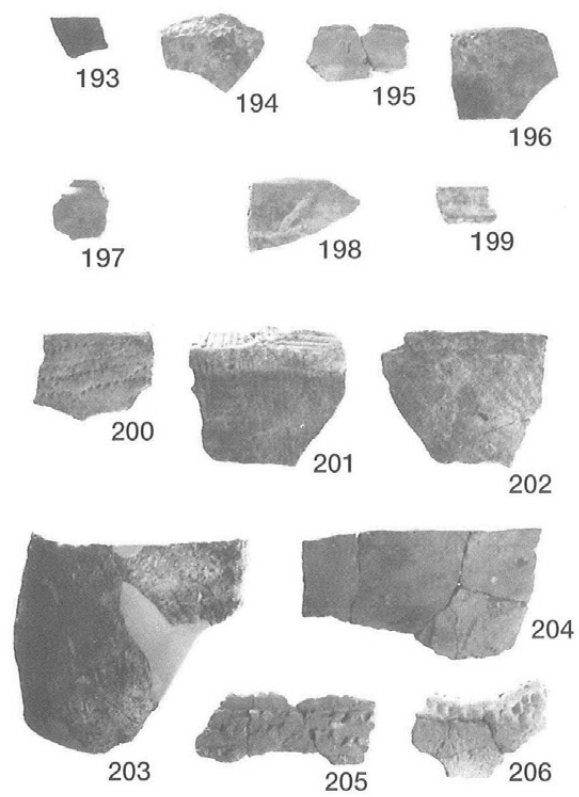
図版33 包含層出土縄文土器 (8)



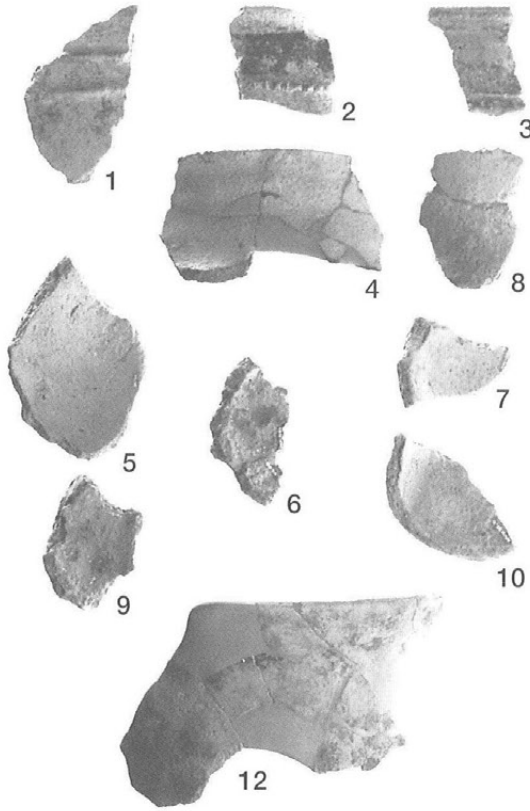
図版34 包含層出土縄文土器 (9)



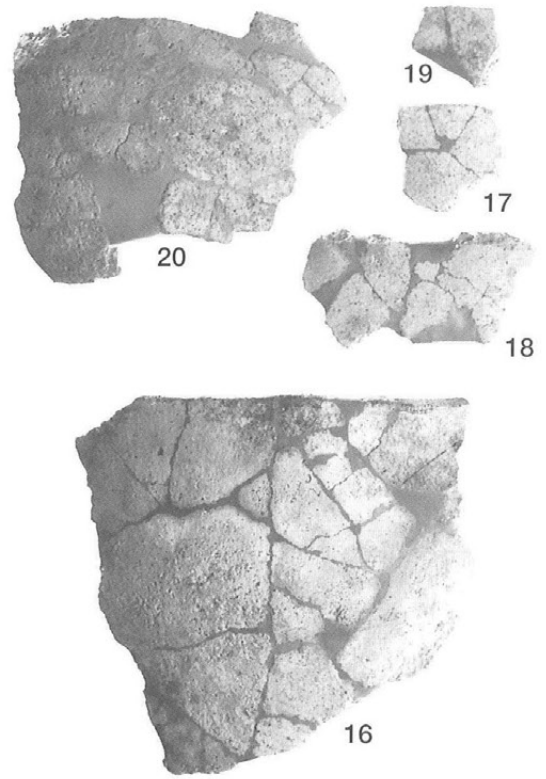
図版35 包含層出土縄文土器 (10)



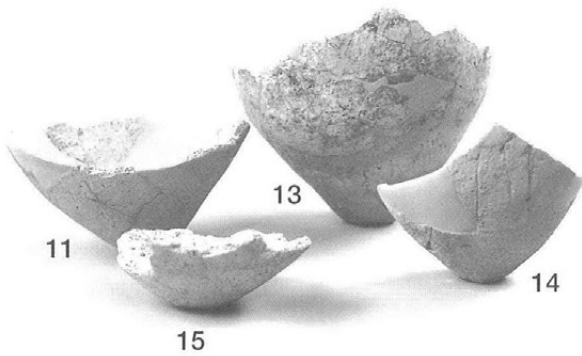
図版36 包含層出土縄文土器 (11)



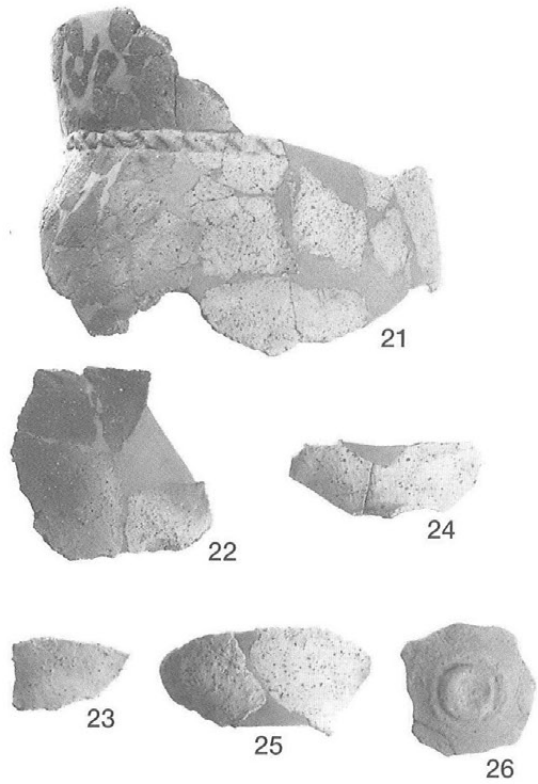
图版37 包含層出土弥生時代以降遺物 (1)



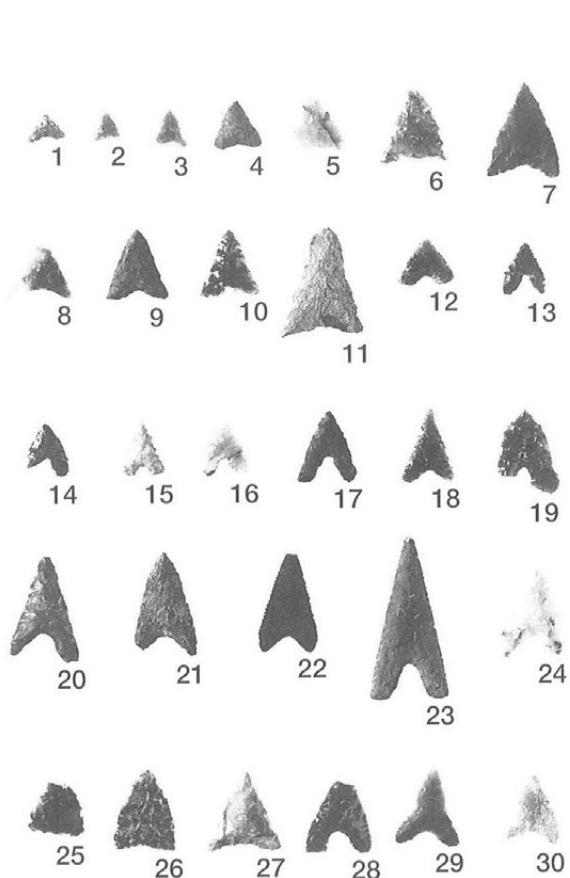
图版38 包含層出土弥生時代以降遺物 (2)



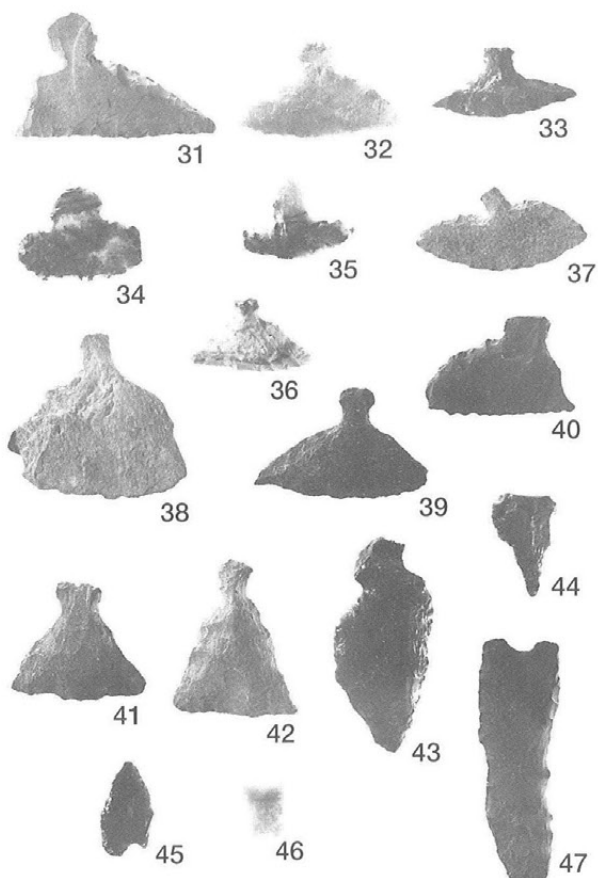
图版39 包含層出土弥生時代以降遺物 (3)



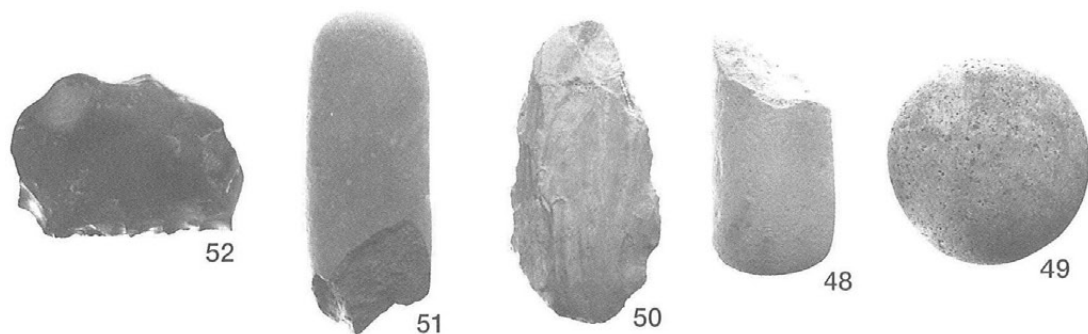
图版40 包含層出土弥生時代以降遺物 (4)



图版41 包含层出土石器 (1)



图版42 包含层出土石器 (2)



图版43 包含层出土石器 (3)

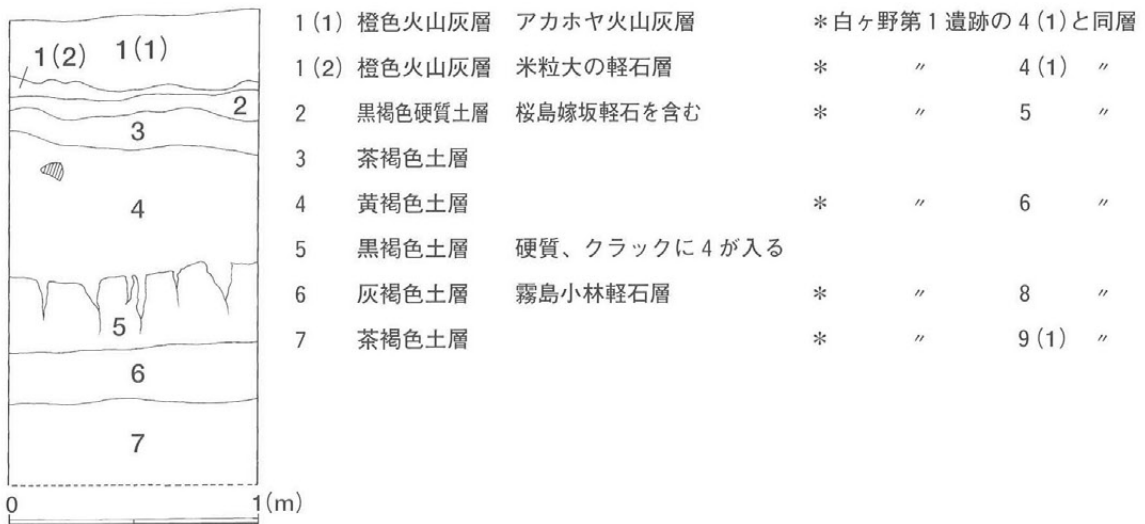
第4章 白ヶ野第4遺跡



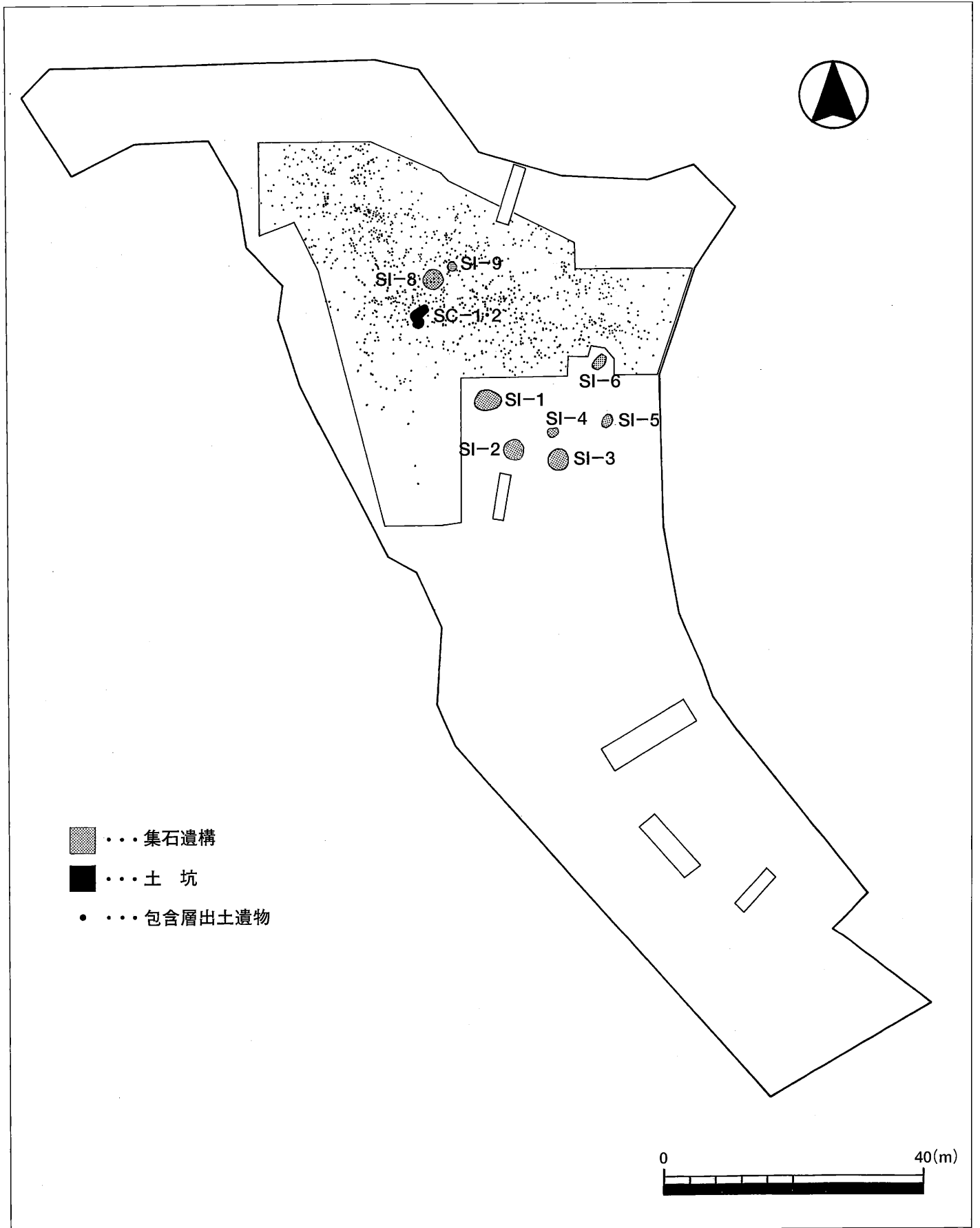
図版44 白ヶ野第4遺跡全景

第1節 調査過程について

白ヶ野第4遺跡は、現代の耕作による削平が著しく、縄文時代早期の文化層のみが残存する状況であった。遺構は削平を受けた部分に一部破壊された状態で残っているケースが多く、遺物は調査区北側中央のやや窪んだ範囲で集中して出土した。傾斜のきつい調査区東側については、トレンチによる確認作業を数箇所で行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。



第28図 白ヶ野第4遺跡基本土層図 (1/30)

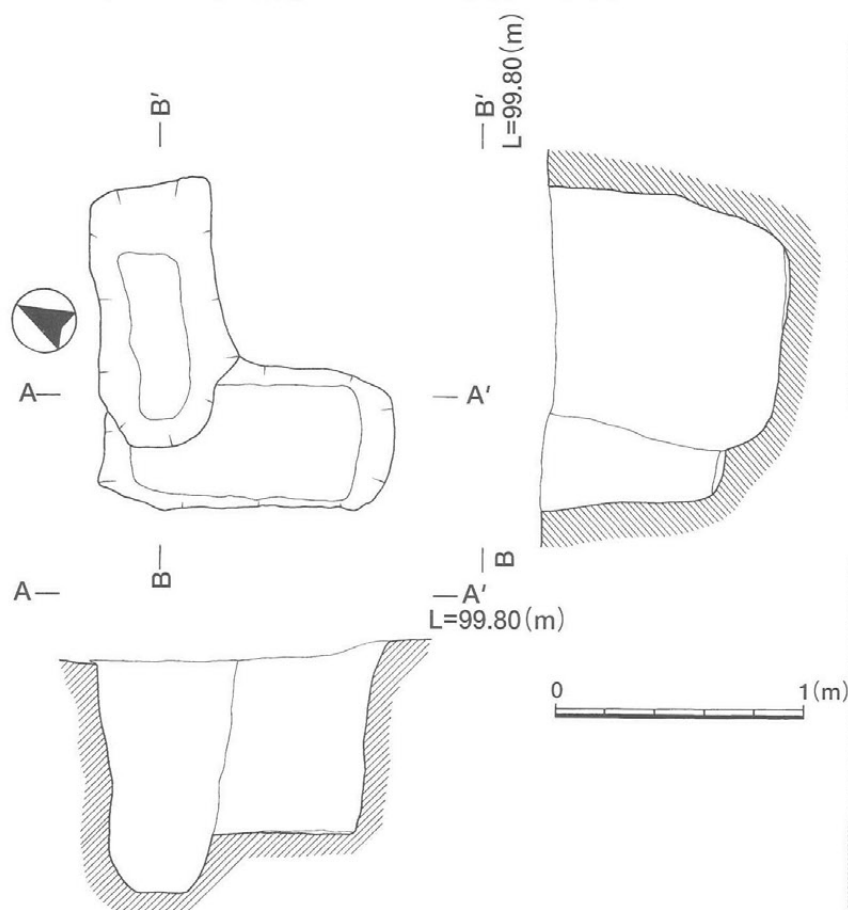


第29図 白ヶ野第4遺跡遺物及び遺構分布図 (1/400)

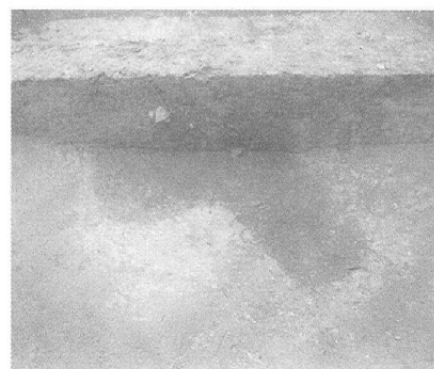
第2節 遺構について

(1) 土坑

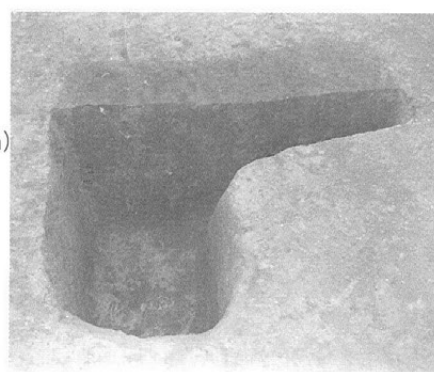
土坑は、霧島・小林軽石層上面で2基が切り合う状態で検出された。埋土はいずれの土坑も黒褐色硬質土で、互いの新旧関係は不明である。又、埋土中には貝殻状痕文土器片が数点と焼礫が数十点入り込んでいたため、構築時期については縄文時代早期が妥当と思われる。用途については不明である。



第30図 SC-1・2実測図(1/30)



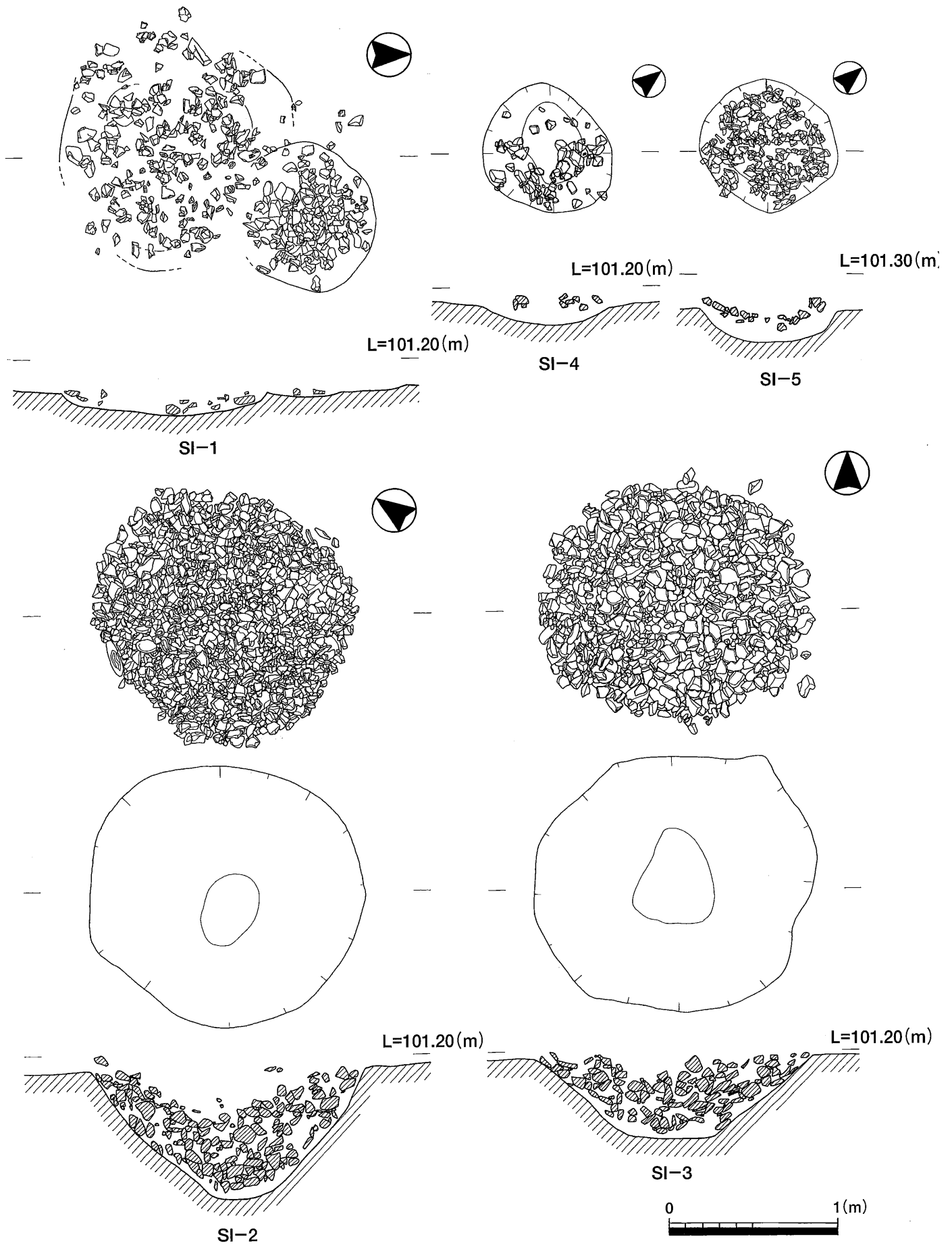
図版45 SC-1・2検出



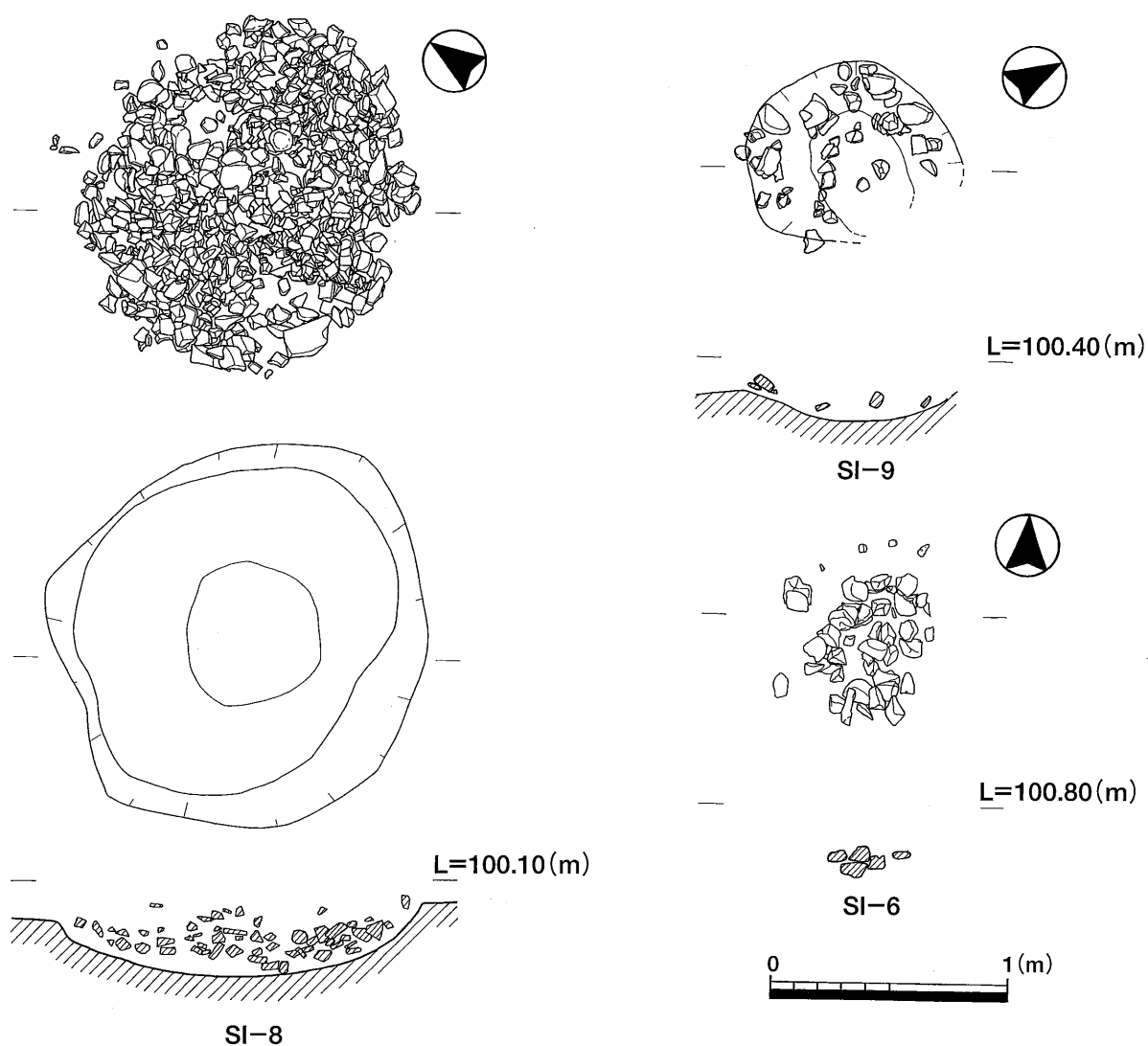
図版46 SC-1・2

(2) 集石遺構

集石遺構は計9基検出された。SI-1～4の5基については、現代耕作の削平によりシラス上面まで露出した範囲で検出されたが、遺構の残存状態は割に良好であった。これは5基が構築された地形の傾斜がきつく各層の堆積が薄いため、集石遺構が使用された際の掘り込み面からシラスまでの深さが比較的浅く、そのため遺構がシラスまで掘り込む状態で構築されたためだと推測される。又、SI-1～5については、白ヶ野第1遺跡でもみられたように、大型の集石遺構の周りに小型の集石遺構が構築されていて、これらは互いになんらかの関係をもちつつほぼ同時期に使用されたものと推測される。SI-6・SI-8については縄文時代早期のものであるが、SI-1～5との関係は不明である。



第31图 SI-1、2、3、4、5実測図 (1/30)

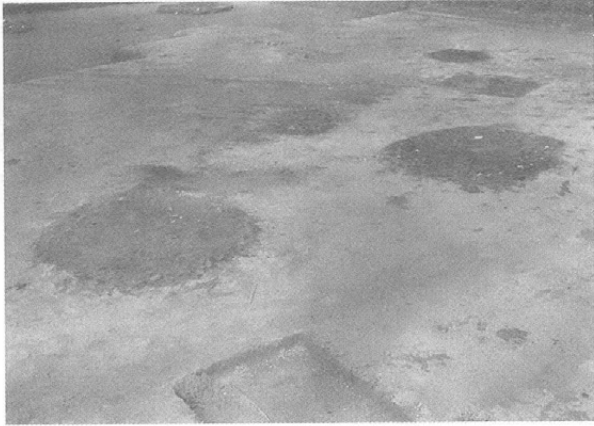


第32図 SI-6、8、9実測図 (1/30)

第13表 白ヶ野第4遺跡集石遺構観察表

NO	検出面	時期	C14年代	礫範囲の直径(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫1個重量(kg)	掘込有無	上端直径(m)	掘込みの深さ(m)	礫分布状況	底石有無	炭化物有無
SI-1(1)	⑮	早期	8220	1.16	630	60	0.10	有	1.2	0.2	極密	無	有
SI-1(2)	⑮	早期		0.76	-	-	-	有	0.76	0.1	疎	無	炭化粒のみ
SI-2	⑮	早期	8270	1.6	4870	652	0.13	有	1.66	0.83	極密	無	有
SI-3	⑮	早期		1.6	2620	337	0.13	有	1.64	0.55	極密	無	炭化粒のみ
SI-4	⑮	早期		0.7	127	6	0.05	有	0.78	0.2	極疎	無	炭化粒のみ
SI-5	⑨	早期		0.76	363	20	0.06	有	0.82	0.25	疎	無	炭化粒のみ
SI-6	⑥	早期		0.76	-	-	-	無	-	-	極疎	無	無
SI-8	⑥	早期		1.44	-	-	-	有	1.6	0.3	密	無	炭化粒のみ
SI-9	⑥	早期		0.86	62	12	0.19	有	0.9	0.17	極疎	無	炭化粒のみ

*検出面については、第3図(P6)の層位番号を参照



図版47 白ヶ野第4遺跡集石群



図版50 SI-2 ①



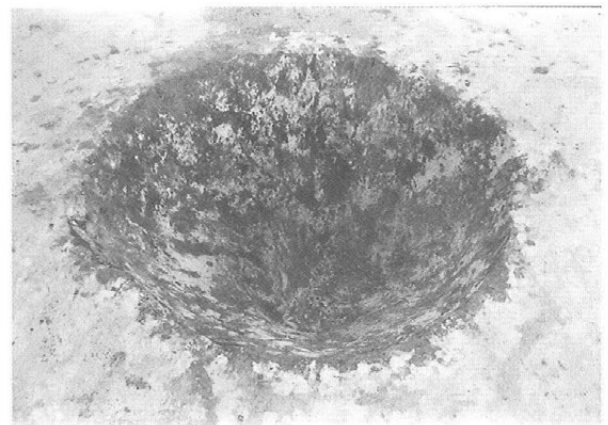
図版48 SI-1 (1)・(2)



図版51 SI-2 ②



図版49 SI-3



図版52 SI-2 ③



图版53 SI-4



图版54 SI-5



图版55 SI-6



图版56 SI-8



图版57 SI-9



图版58 石製腕輪出土狀況

第3節 包含層出土の遺物について

(1) 縄文土器

土器は早期中葉から早期末までのものがほとんどで、5層上位から6層下位にかけて出土している。各時期の遺物が各層から出土するわけではなく、すべてが混在する状況で出土している。これらは大別して貝殻文系土器（A類）、押型文系土器（B類）、平椀式土器（C類）、塞ノ神式土器（D類）、貝殻条痕文土器（E類）の5類に分類可能で、それぞれの特徴は以下のとおりである。

A類（1～24）

A類は貝殻による施文と円筒形を呈する深鉢形の器形を特徴とする。これらはさらにA(1)類からA(5)類に細分化した。

A(1)類は、外面に貝殻条痕文を施し、1～3については口縁部外面に刻み目あるいは刺突文を施している。また1～4・8についてはバケツ状に近い形状となるが、5～7については口縁端部がゆるやかに外反する。

A(2)類は、外面に貝殻条痕文の地文を施しその後貝殻腹縁刺突文を施している。前平式土器と思われる（9）。

A(3)類は、いわゆる辻タイプといわれるもので、器面にハの字型の短沈線文を施す（10～12）。13・14は短沈線文に加えて沈線文を、15～17は短沈線文に加えて貝殻腹縁刺突文を施す。

A(4)類は、外面に貝殻腹縁刺突文を施すもので、下剥峯式土器と思われる（18～24）。

A(3)類とA(4)類については、互いの範疇が不確定な部分が多少あるため、分類に今後さらなる検討を重ねる必要がある。

B類（25～37）

B類は押型文土器で、B(1)類からB(4)類に細分化した。

B(1)類は、口縁部がゆるやかに外反するもので（25～30）、文様は山形押型文、楕円押型文いずれも施文されており、施文はすべて外面が縦方向、内面が横方向、口唇部が横方向である。また、形状についてはそれを考察できるだけの残存度を有する資料がほとんどないため、断定するのは困難である。

B(2)類は、口縁部がわずかに内湾するもので（31）、文様は外面に縦方向の山形押型文を施し、口唇部及び内面はナデ調整が行われている。

B(3)類は、楕円形の小さな突起物を有する棒状工具の回転によると見られるいわゆるネガティブ楕円文を施すもので、胴部1点（32）の出土で形状は不明である。B(4)類は、その他の押型文ですべて胴部である。（33～37）

C類（38～40）

C類は平椀式土器で、口縁部3点のみの出土である。いずれの土器片も形状を考察するに足りうる残存度は有していない。この3点をC(1)類とC(2)類に細分化した。

C(1)類は、口縁部の口唇下に小型の三角形状の突帯を巡らすもので、その突帯には刻目状の沈線を、外面には沈線及び連点文を施している（38・39）。

C(2)類は、口縁部に幅広の薄手の肥厚帯をもつもので（40）、肥厚帯には沈線文

(直線・弧状)と刺突文を施している。

D類 (41~58)

D類は塞ノ神式土器で、撚糸文系と貝殻文系に分けられる。ここでは撚糸文系がD(1)類、貝殻文系がD(2)類、それ以外をD(3)類と細分化した。

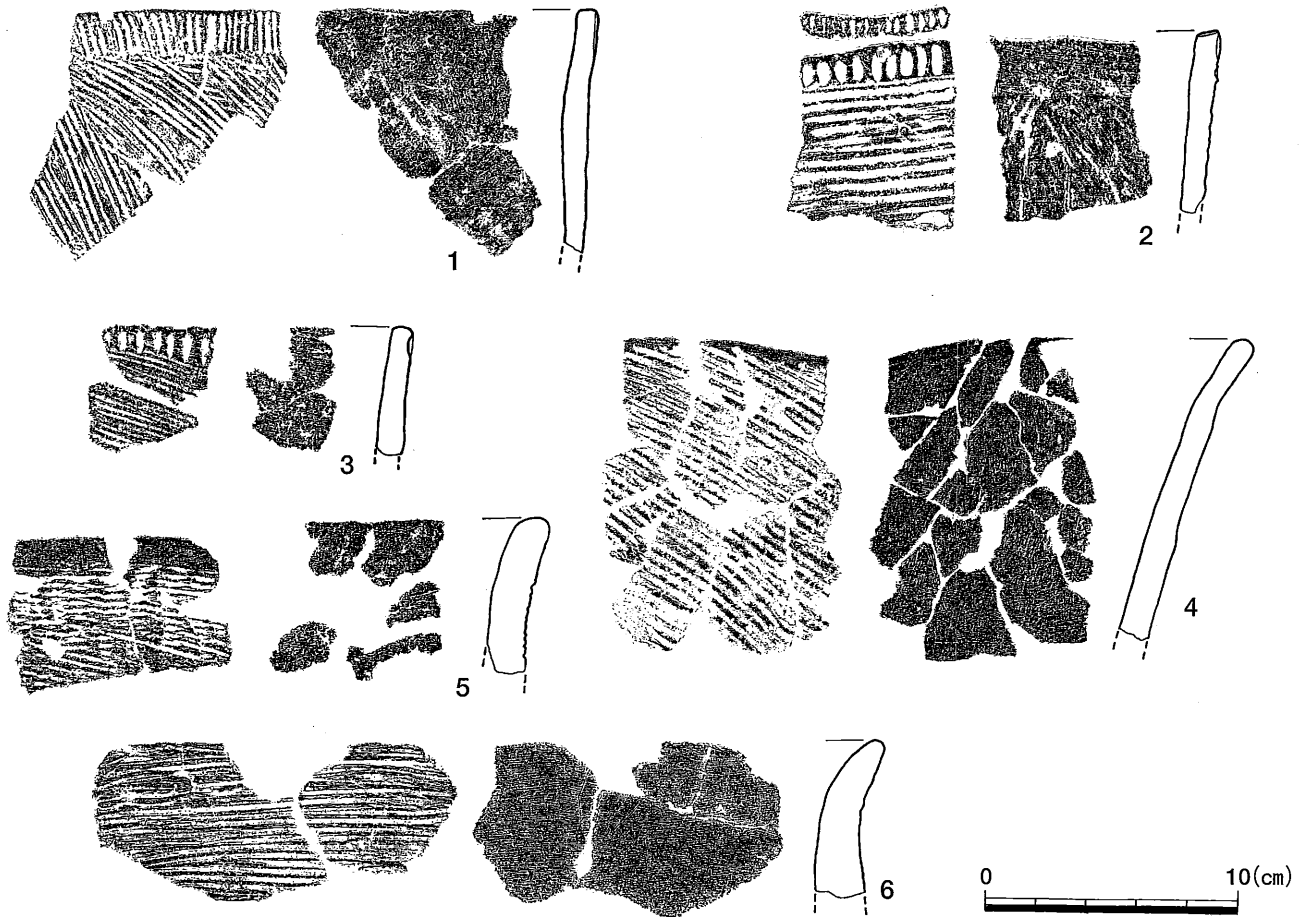
D(1)類は、そのほとんどが円筒形の胴部にラッパ状に開いた口縁部がつくものと推測される。外面には撚糸文に加え沈線文を施し、内面はナデ調整を行っている。

D(2)類は、ラッパ状に外反する口縁部 (49~52) と張りのやや弱い胴部につながる頸部 (53~55) が出土している。49・51・52は外面に貝殻腹縁による刺突文、50はそれに加え棒状工具による沈線文を施しており、50・52は口唇部に貝殻腹縁による刻目状の刺突文を施している。53~55については、外面に貝殻腹縁による刺突文と棒状工具による沈線文を施している。

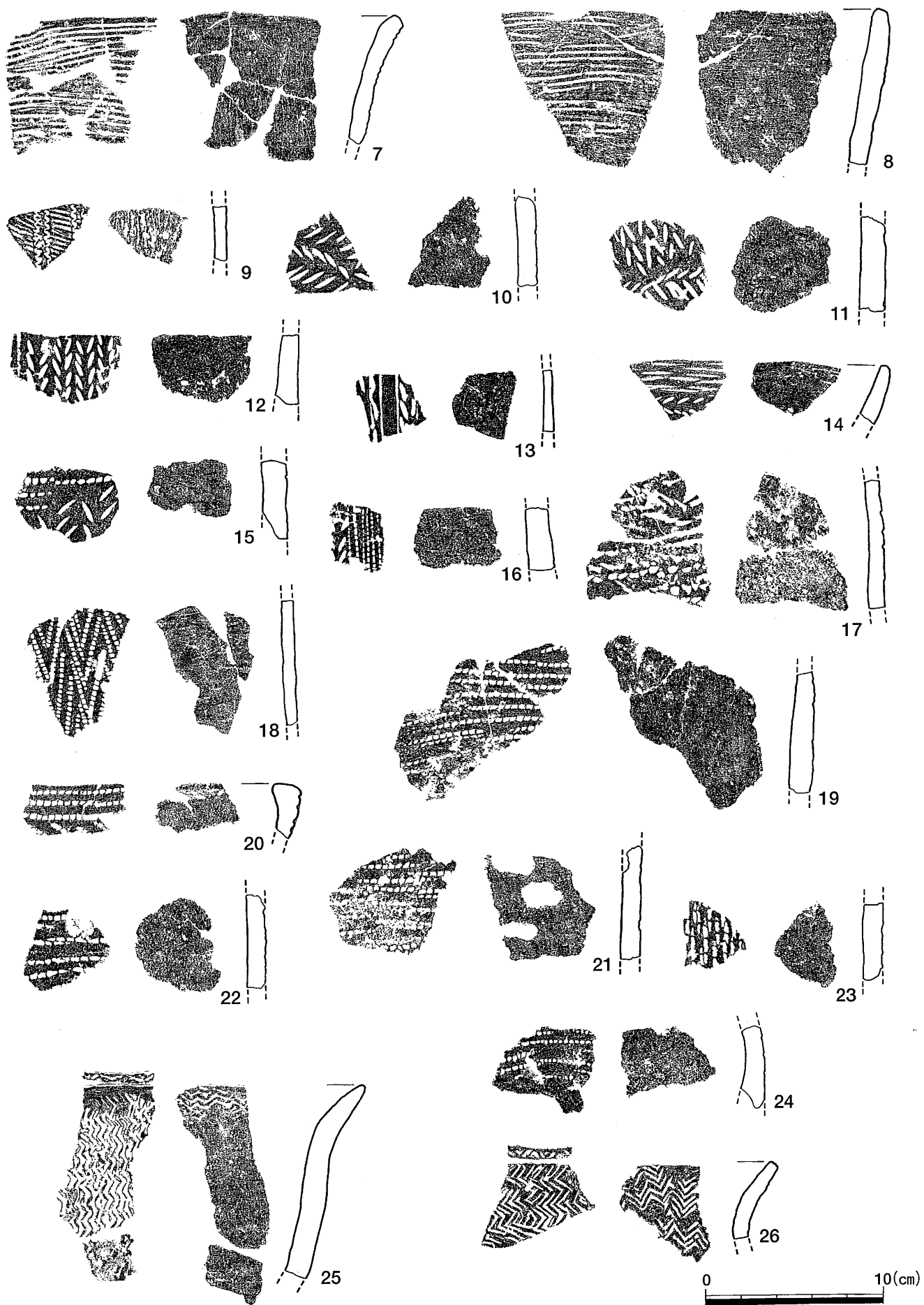
D(3)類は、塞ノ神式土器ではあるがD(1)類・D(2)類のいずれに属するものかが不明なものである。(56~58)。56については唯一の底部であるが、やや上げ底気味の平底である。

E類 (59~66)

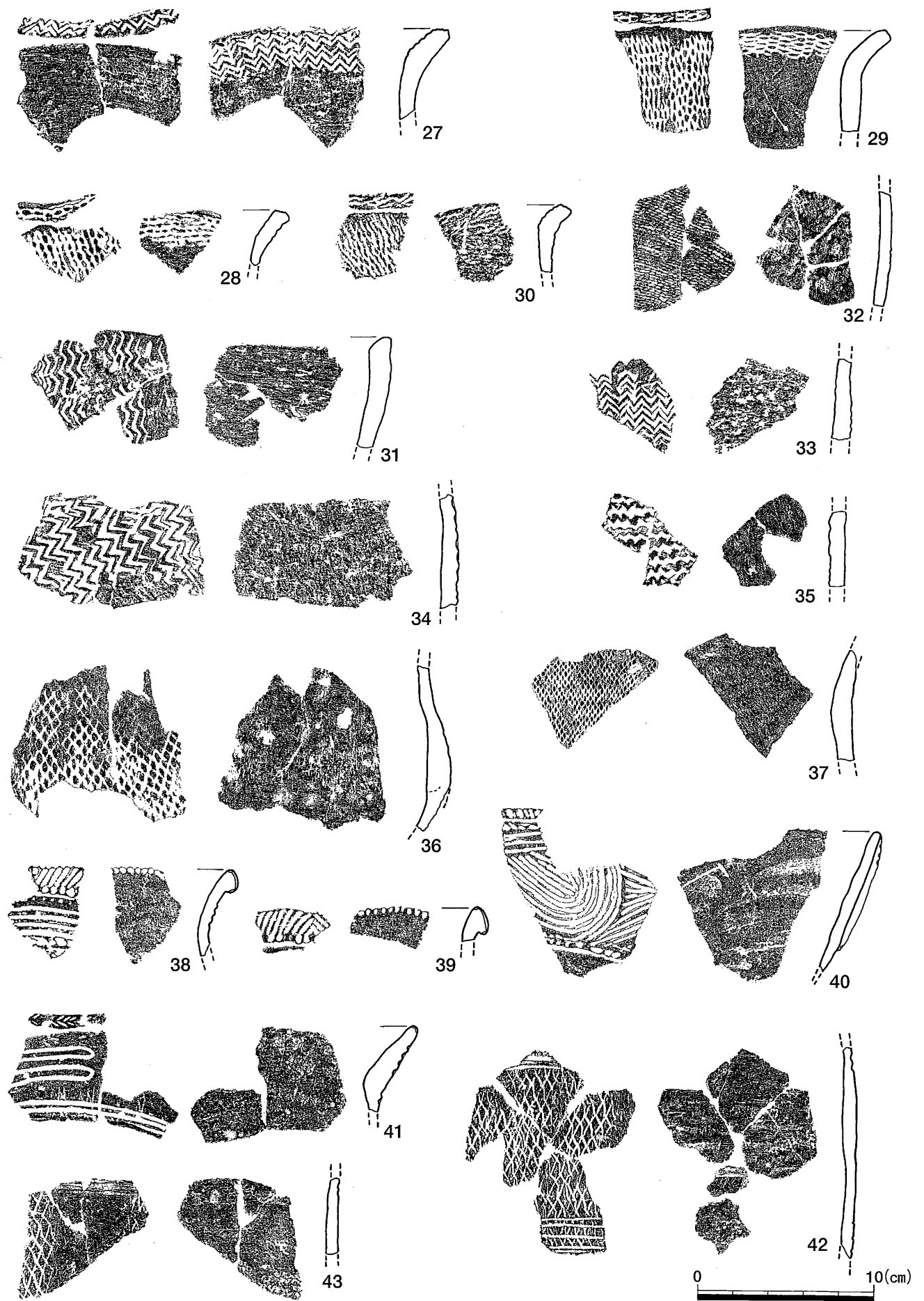
E類は外面に貝殻条痕文を施し、内面は貝殻条痕文のあとナデ調整を施している一群である。



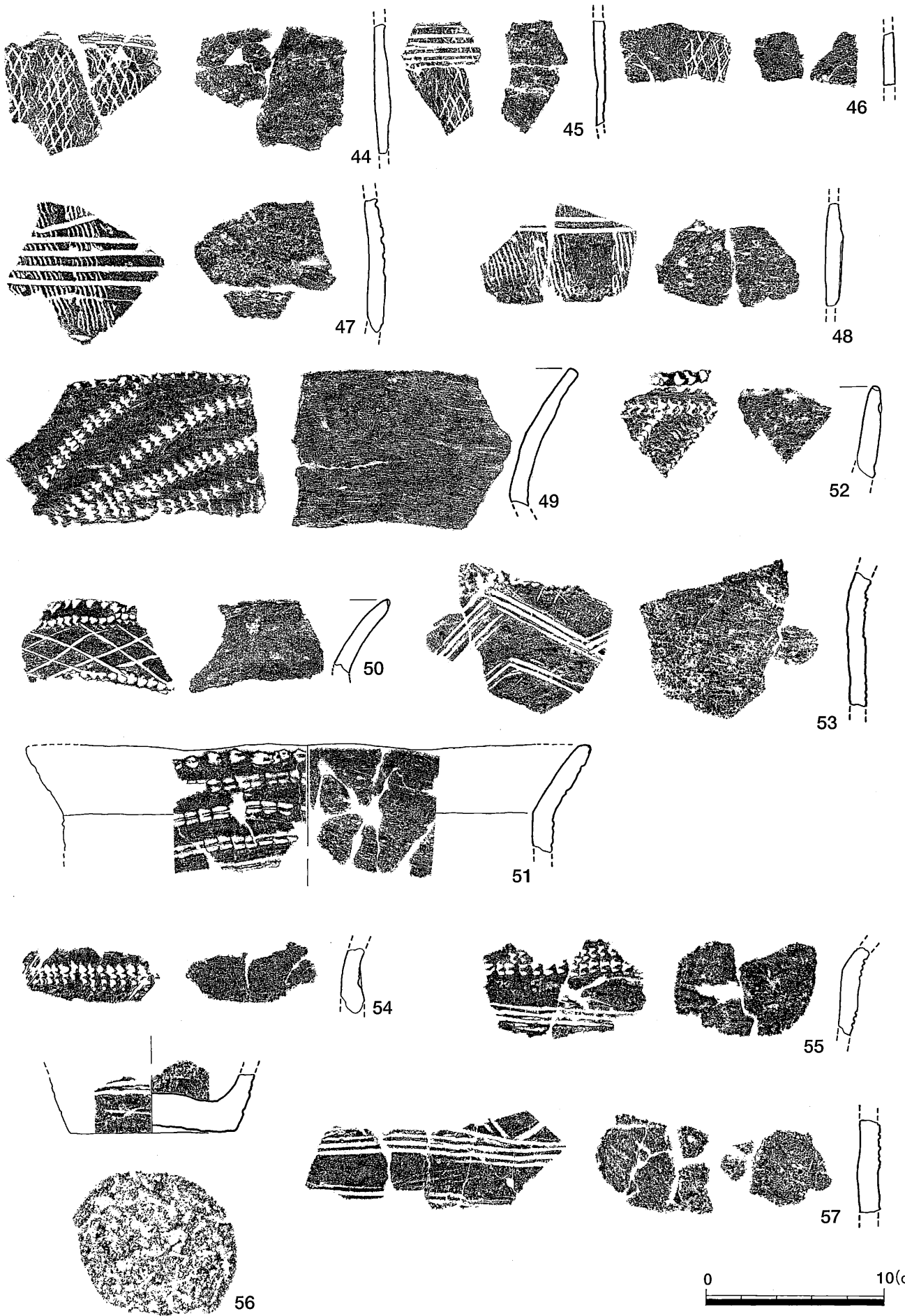
第33図 包含層出土縄文土器実測図 (1) (1/3)



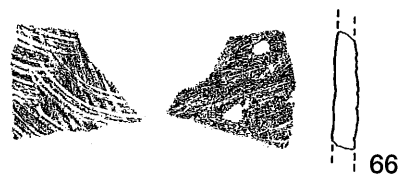
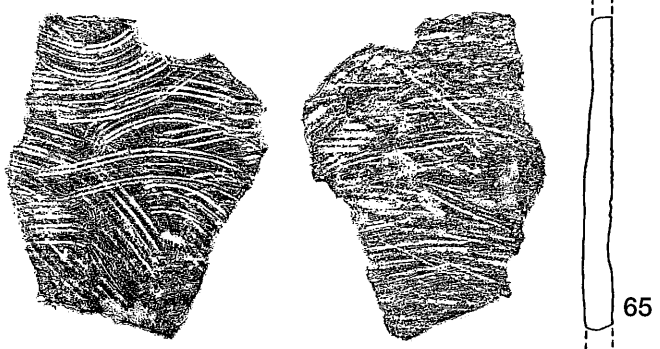
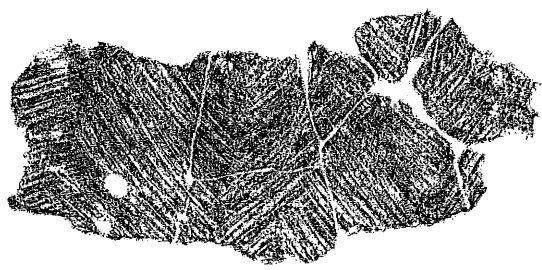
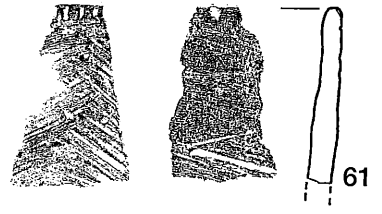
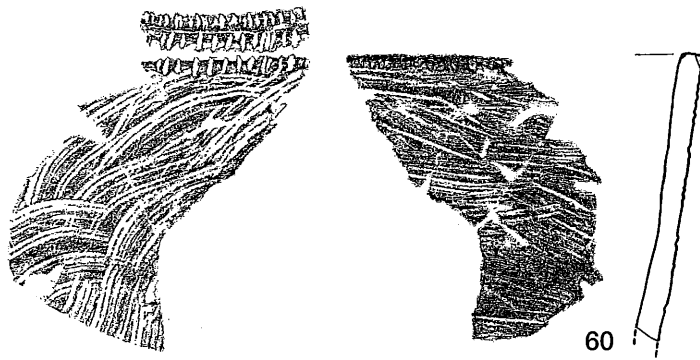
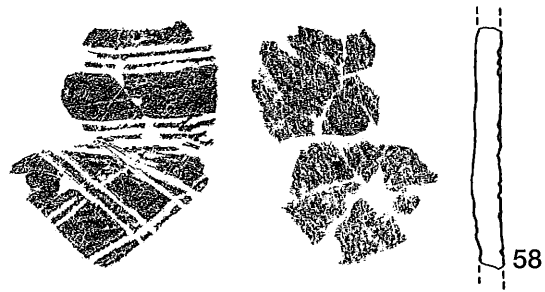
第34図 包含層出土縄文土器実測図 (2) (1/3)



第35図 包含層出土縄文土器実測図(3)(1/3)



第36図 包含層出土縄文土器実測図 (4) (1/3)



第37図 包含層出土縄文土器実測図(5)(1/3)

第14表 包含層出土縄文土器観察表(1)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒	
1	20	⑥	A(1)	口縁	口縁部に刻目 貝殻条痕文	ナデ	5YR7/2 明褐色	2.5YR7/2 明赤灰	○				○ 1mm以下	口唇部がナデ
2	110	⑥	A(1)	口縁	口縁部に刻目 貝殻条痕文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○	○		○	○ 2mm以下	岩本式土器(?) 口唇部が連続刻目
3	117	⑥	A(1)	口縁	口縁部に刺突文 貝殻条痕文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○ 1mm以下	口唇部がナデ
4	19	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR7/1 灰白	○				○ 1mm以下	口唇部がナデ
5	98	⑥	A(1)	口縁	口縁部がナデ 貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 2mm以下	口唇部がナデ
6	128	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○			○	○ 2mm以下	口唇部がナデ
7	133	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○				○ 1mm以下	口唇部がナデ
8	138	⑥	A(1)	口縁	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	○				○ 1mm以下	口唇部が荒いナデ
9	24	⑥	A(2)	胴部	貝殻条痕文 貝殻腹縁刺突	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	5YR7/2 明褐色	○			○	○ 2mm以下	前平式土器
10	62	⑥	A(3)	胴部	短沈線文 (ハの字)	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○				○ 3mm以下	辻タイプ
11	70	⑥	A(3)	胴部	短沈線文 (ハの字)	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○		○		○ 3mm以下	辻タイプ
12	71	⑥	A(3)	胴部	短沈線文 (ハの字)	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR4/2 灰黄褐	○				○ 3mm以下	辻タイプ
13	25	⑥	A(3)	胴部	短沈線文(ハの字) 沈線文	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○ 2mm以下	辻タイプ
14	26	⑥	A(3)	口縁	短沈線文(ハの字) 沈線文	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○			○	○ 1mm以下	辻タイプ 口唇部がナデ
15	69	⑥	A(3)	胴部	短沈線文(ハの字) 貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○		○		○ 3mm以下	辻タイプ
16	72	⑥	A(3)	胴部	短沈線文(ハの字) 貝殻腹縁刺突	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○		○		○ 5mm以下	辻タイプ
17	66	⑥	A(3)	胴部	短沈線文(ハの字) 刺突文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 2mm以下	辻タイプ
18	22	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○ 2mm以下	下剥峯式土器
19	61	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○				○ 3mm以下	下剥峯式土器
20	65	⑥	A(4)	口縁	貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR4/3 褐	○				○ 3mm以下	下剥峯式土器 口唇部がナデ
21	67	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○ 3mm以下	下剥峯式土器
22	68	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○				○ 2mm以下	下剥峯式土器 剥離有り
23	73	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○				○ 2mm以下	下剥峯式土器
24	74	⑥	A(4)	胴部	貝殻腹縁刺突	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR4/2 灰黄褐	○		○	○	○ 3mm以下	下剥峯式土器
25	17	⑥	B(1)	口縁	山形押型文(タテ)	山形押型文(ヨコ)	10YR4/2 灰黄褐	5YR5/4 にぶい赤褐	○			○	○ 3mm以下	口唇部に山形押型文(ヨコ)
26	32	⑥	B(1)	口縁	山形押型文(タテ)	山形押型文(ヨコ)	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○	○	○ 2mm以下	口唇部に山形押型文(ヨコ)
27	35	⑥	B(1)	口縁	ナデ	山形押型文(ヨコ) ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○	○	○ 3mm以下	口唇部に山形押型文(ヨコ)
28	18	⑥	B(1)	口縁	楕円押型文(タテ)	楕円押型文(ヨコ)	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○ 2mm以下	口唇部に楕円押型文(ヨコ)
29	37	⑥	B(1)	口縁	楕円押型文(タテ)	楕円押型文(ヨコ)	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○ 2mm以下	口唇部に楕円押型文(ヨコ) 剥離有り
30	39	⑥	B(1)	口縁	楕円押型文(タテ)	楕円押型文(ヨコ) ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○ 2mm以下	口唇部に楕円押型文(ヨコ)
31	30	⑥	B(2)	口縁	山形押型文(タテ)	ナデ	5YR4/3 にぶい赤褐	7.5YR4/2 灰褐	○			○	○ 3mm以下	口唇部がナデ
32	136	⑥	B(3)	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○	○	○ 2mm以下	
33	31	⑥	B(4)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○			○	○ 2mm以下	
34	34	⑥	B(4)	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○ 5mm以下	

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

第15表 包含層出土縄文土器観察表(2)

NO	遺物整理番号	出土層位	分類	部位	文様及び調整		色 調		胎 土					備 考	
					外 面	内 面	外 面	内 面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	砂 粒		
35	44	⑥	B(4)	胴部	山形押型文	ヘラナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○	1mm以下	
36	38	⑥	B(4)	胴部	楕円押型文 ナデ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○	3mm以下	
37	40	⑥	B(4)	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○		○	○	○	4mm以下	
38	15	⑥	C(1)	口縁	口縁部に三角形状帯 沈線・連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○	2mm以下	平橋式土器 口唇部に沈線文
39	16	⑥	C(2)	口縁	口縁部に三角形状帯 沈線・連点文	ナデ	7.5YR4/2 灰褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○		○	○	2mm以下	平橋式土器 口唇部に沈線文
40	12	⑥	C(2)	口縁	口縁部に幅広厚帯 沈線・連点文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○	2mm以下	平橋式土器
41	59	⑥	D(1)	口縁	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	2.5Y6/3 にぶい黄	○			○	○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系) 口唇部に短沈線文(羽状)
42	13	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	○				○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
43	52	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	10YR6/4 にぶい黄橙	○				○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
44	53	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	2.5Y6/2 灰黄	○				○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
45	54	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	○			○	○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
46	57	⑥	D(1)	胴部	燃糸文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	○	○			○	2mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
47	77	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○				○	1mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系)
48	87	⑥	D(1)	胴部	燃糸文 沈線文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	○			○	○	1mm以下	塞ノ神式土器(燃糸文系) 剥離有り
49	10	⑥	D(2)	口縁	ナデ 貝殻腹縁刺突	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○	○	○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系) 口唇部がナデ
50	11	⑥	D(2)	口縁	ナデ・貝殻腹縁刺突 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR4/3 褐	○		○	○	○	3mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系) 口唇部に貝殻腹縁刺突
51	58	⑥	D(2)	口縁	ナデ・貝殻腹縁刺突 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○	○			○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系) 口径32cm
52	84	⑥	D(2)	口縁	貝殻条痕文・ナデ 貝殻腹縁刺突	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○	○	○		○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系) 口唇部に貝殻腹縁による刺突
53	75	⑥	D(2)	頸部	貝殻腹縁刺突 沈線文	貝殻条痕文 ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系)
54	80	⑥	D(2)	頸部	貝殻腹縁刺突 沈線文	ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○		○		○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系)
55	86	⑥	D(2)	頸部	貝殻腹縁刺突 沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	○				○	2mm以下	塞ノ神式土器(貝殻文系)
56	28	⑥	D(3)	底部	沈線文	ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	10YR5/3 にぶい黄褐	○	○			○	2mm以下	塞ノ神式土器(?)
57	55	⑥	D(3)	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○	○		○	○	2mm以下	塞ノ神式土器(?)
58	56	⑥	D(3)	胴部	沈線文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○	3mm以下	塞ノ神式土器(?)
59	21	⑤	E	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	○			○	○	2mm以下	口唇部に連続刻目
60	64	⑤	E	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR4/2 灰黄褐	○			○	○	2mm以下	口唇部に連続刻目
61	102	⑤	E	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR4/3 にぶい黄褐	7.5YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○	2mm以下	口唇部に連続刻目
62	111	⑤	E	口縁	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR5/3 にぶい褐	○			○	○	3mm以下	口唇部に連続刻目
63	94	⑤	E	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	2.5Y5/2 暗灰黄	○			○	○	2mm以下	
64	99	⑤	E	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	○			○	○	4mm以下	
65	100	⑤	E	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	10YR5/3 にぶい黄褐	○			○	○	2mm以下	
66	101	⑤	E	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文 ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	○				○	1mm以下	

*出土層位については、第3図(P6)の層位番号を参照

(2) 石 器

表土より採集された6の石匙（横匙）の他は、すべてが縄文時代早期の包含層から出土している。

出土した石器は、石鏃・石匙・石錐・石斧・石核・垂飾・腕輪・礫器・剥片などで、使用されている石材は黒曜石（姫島産・針尾産）・チャート・頁岩・砂岩が多い。

石鏃（1～5）は、石材が姫島産の黒曜石のものが多く、その他には流紋岩や頁岩が使用されており、平面形やえぐりの有無については様々なバリエーションが見られる。

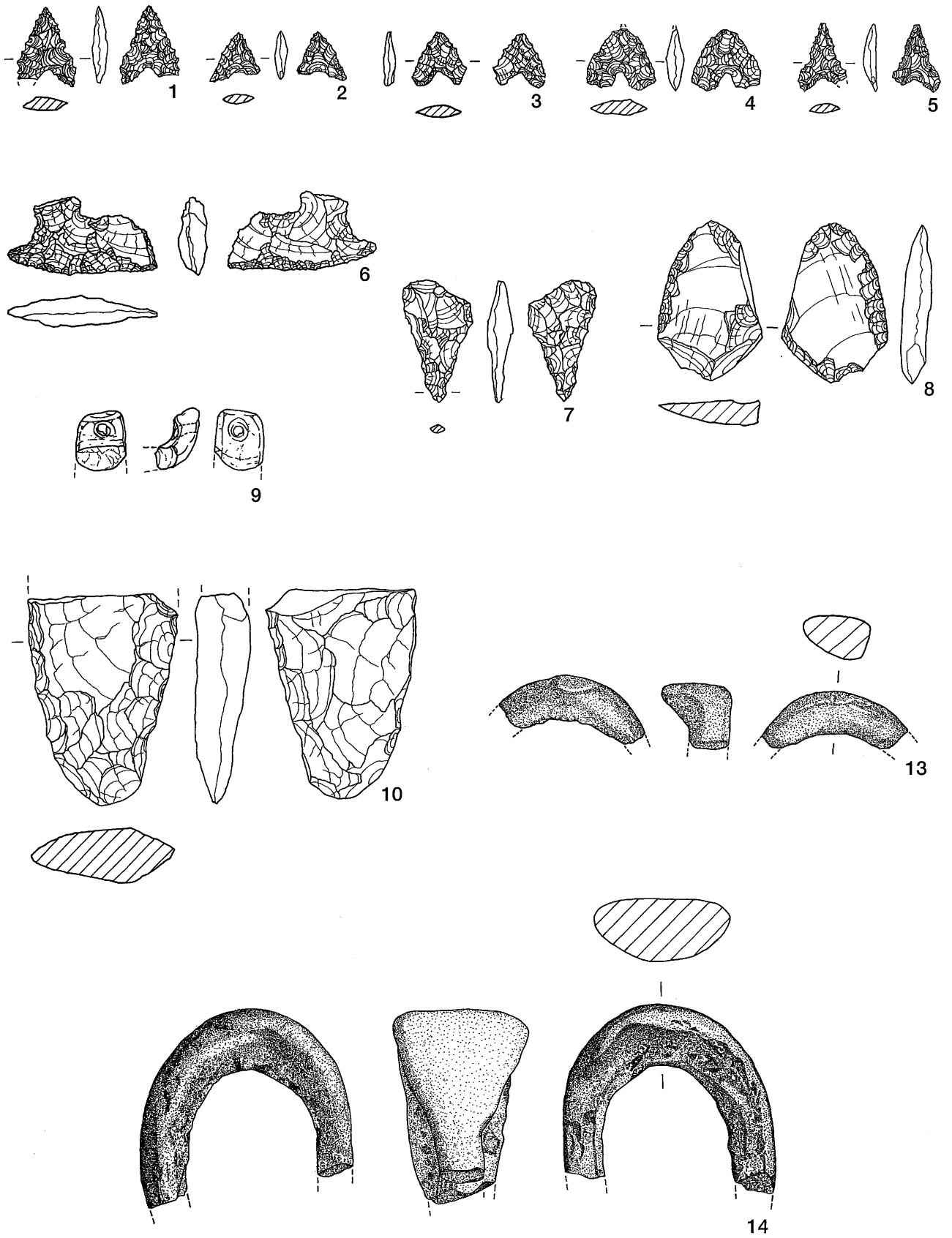
また6の石錐は安山岩、10の石斧はホルンフェルス、石核は砂岩（11）と頁岩（12）が使用されている。

13・14の腕輪については、ノジュールの化石の部分をくり貫いて作られた可能性が高く、9の垂飾は蛇紋岩を加工して作られている。

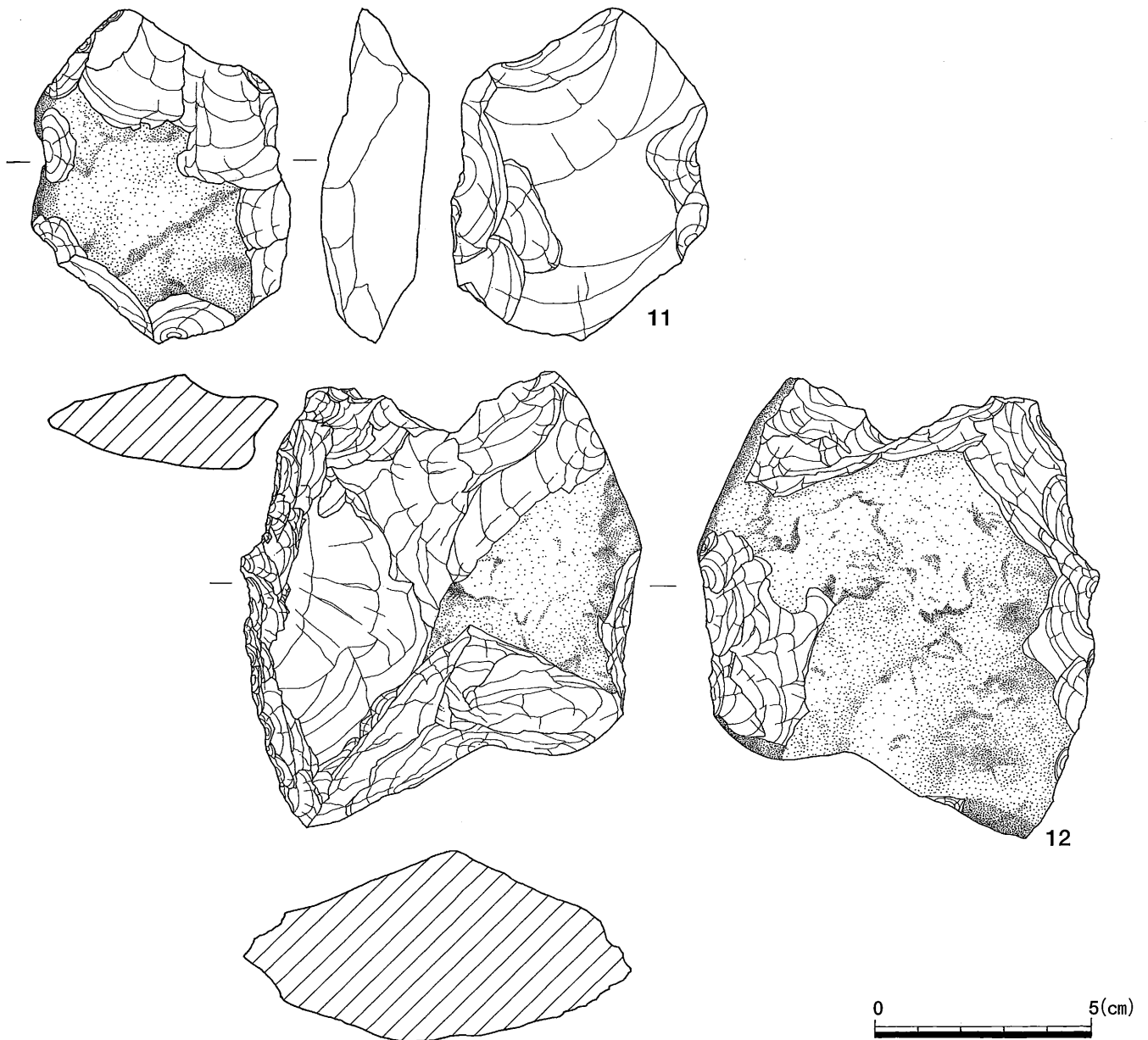
第16表 包含層出土石器計測表

NO	整理番号	器種	出土層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
1	5	石鏃	⑤～⑥	黒曜石	2.2	1.6	0.5	0.8	黒曜石の産地は長崎県針尾
2	7	石鏃	⑤～⑥	流紋岩	1.4	1.4	0.4	0.1	
3	145	石鏃	⑤～⑥	黒曜石	1.5	1.4	0.3	0.1	黒曜石の産地は大分県姫島、先端部・基部欠損
4	142	石鏃	⑤～⑥	黒曜石	1.8	1.9	0.5	0.9	
5	6	石鏃	⑤～⑥	黒曜石	1.9	1.3	0.4	0.4	黒曜石の産地は大分県姫島
6	9	石匙	表探	チャート	2.1	4.1	0.8	5.1	
7	8	石錐	⑤～⑥	安山岩	3.4	1.9	0.7	2.7	
8	144	石鏃(未製品)	⑤～⑥	頁岩	4.4	2.9	0.8	8.5	
9	4	垂飾	⑤～⑥	蛇紋岩	1.6	4.4	1.2	2.5	
10	143	石斧	⑤～⑥	ホルンフェルス	5.8	4.0	1.6	38.2	
11	141	石核	⑤～⑥	砂岩	7.9	6.0	2.6	107.0	
12	140	石核	⑤～⑥	頁岩	10.8	9.4	4.4	422.5	
13	3	腕輪	⑤～⑥	酸性砂岩	1.8	4.1	1.9	8.3	
14	2	腕輪	⑤～⑥	酸性砂岩	5.3	5.8	3.7	60.2	

*出土層位については、第3図（P6）の層位番号を参照



第38图 包含層出土石器实测图 (1) (2/3)

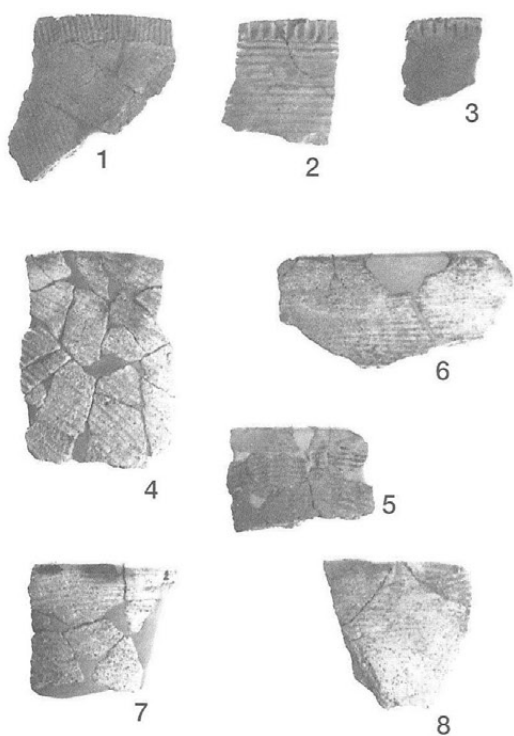


第39図 包含層出土石器実測図（2）（2/3）

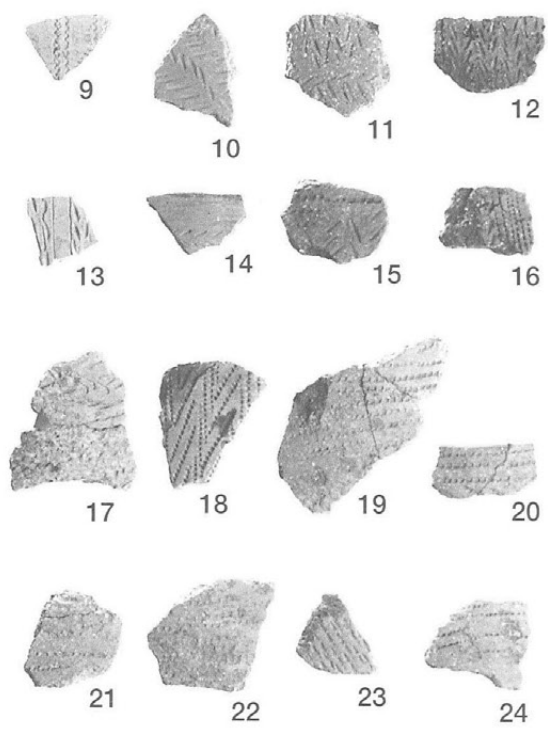
第4節 まとめ

白ヶ野第4遺跡は、現代の耕作によりかなりの削平を受けており、縄文時代早期の包含層のみが残存する状況であった。又、その残存範囲は、当台地でよく見られる水穴により陥没したのではないかと思われる円形の窪んだ地形になっており、その影響からか縄文時代早期中葉から後葉にかけての遺物が混在して出土する状況であった。出土遺物のなかでは、特に垂飾と腕輪が縄文時代早期に当遺跡で暮らす人々の精神生活を知る上での貴重な資料であるが、同台地上の他の遺跡で出土した装身具とあわせてさらなる検討を加えていきたい。

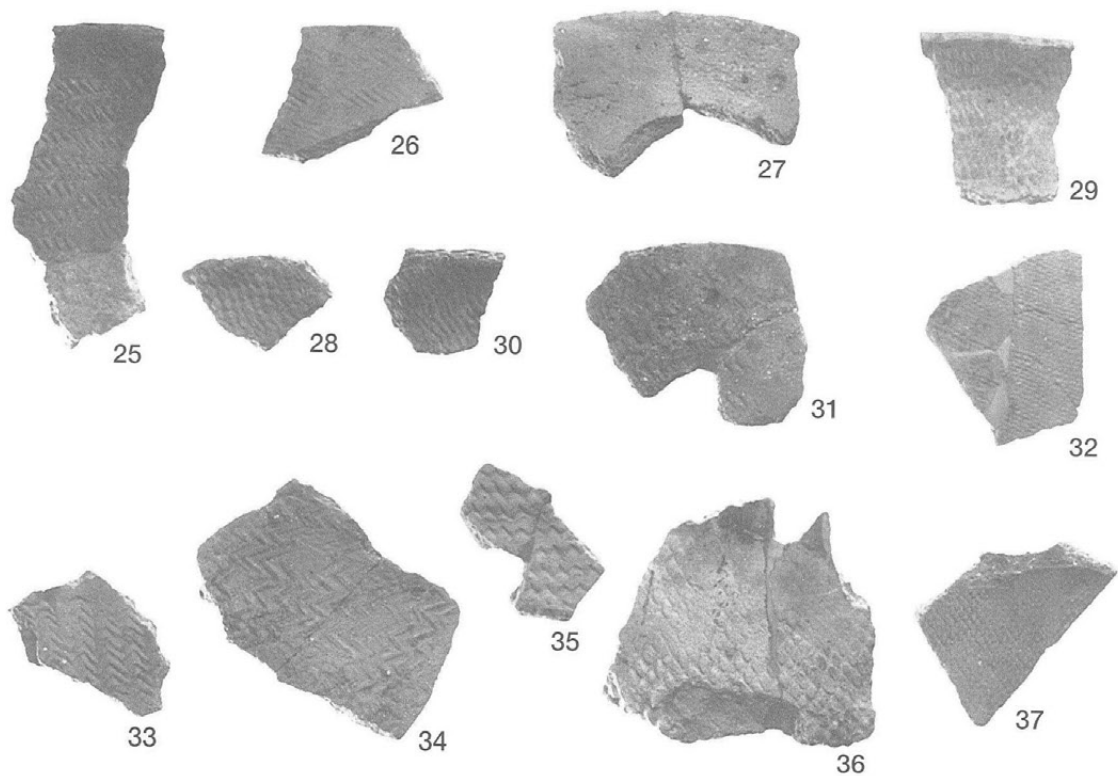
遺構については、縄文時代早期の土坑と集石遺構が確認されており、特に集石遺構については、白ヶ野第1遺跡でもみられた大型のものの周りに小型のものが作られるケースが、白ヶ野第1遺跡を見下ろす当遺跡でもみられたのは非常に興味深い事実である。



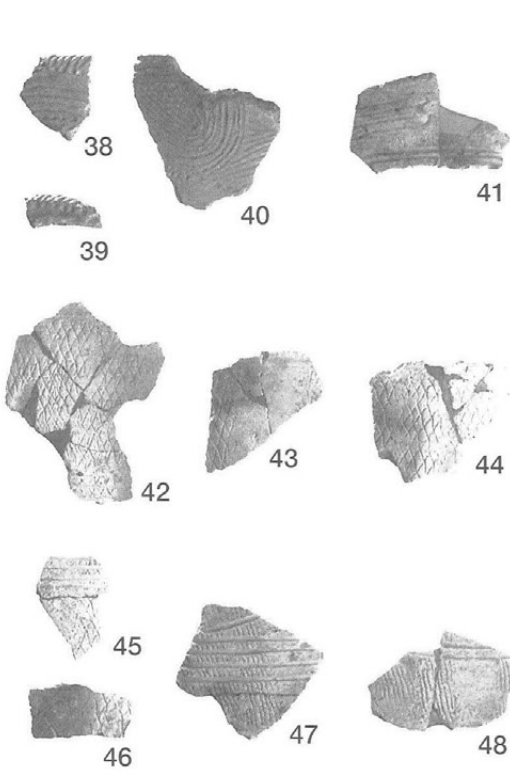
図版59 包含層出土縄文土器 (1)



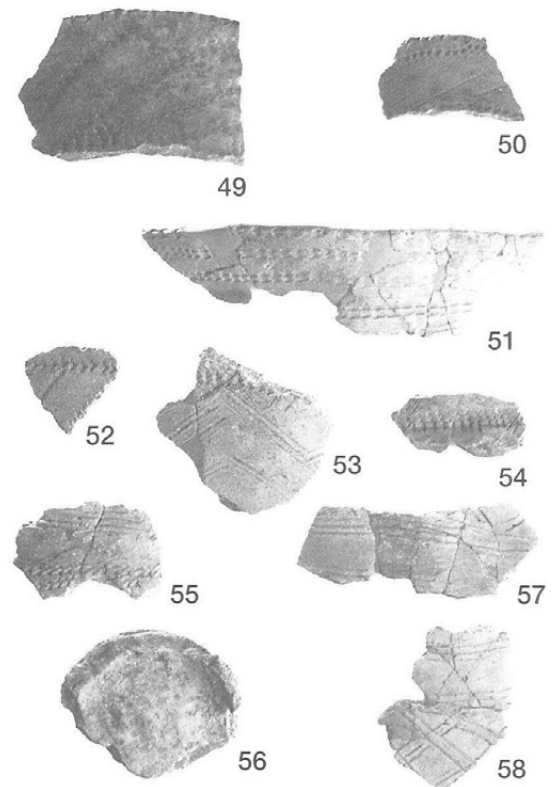
図版60 包含層出土縄文土器 (2)



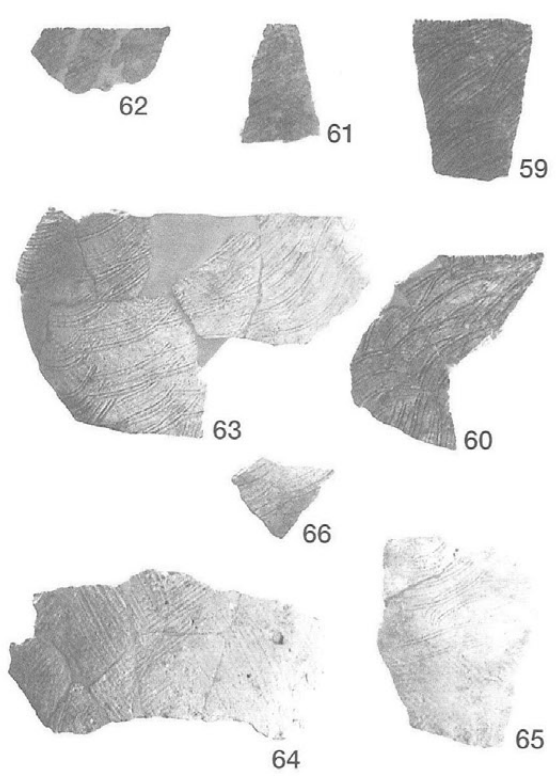
図版61 包含層出土縄文土器 (3)



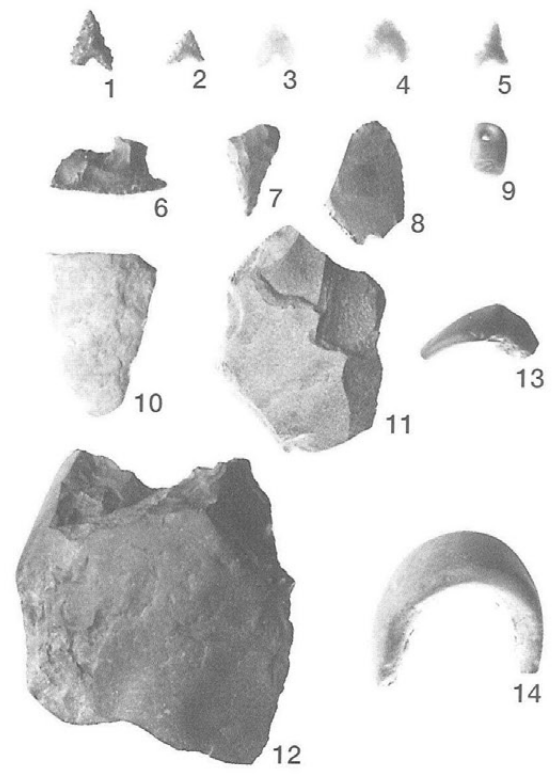
图版62 包含層出土繩文土器 (4)



图版63 包含層出土繩文土器 (5)



图版64 包含層出土繩文土器 (6)



图版65 包含層出土石器 (1)

自然科学分析調査報告書

—清武町、白ヶ野第1遺跡—

株式会社 古環境研究所

I. 白ヶ野第1遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

白ヶ野第1遺跡の発掘調査では、遺跡の位置する台地上に形成されたいわゆる火山灰土の良好な土層断面が作成された。そこで本遺跡において地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、起源が不明なテフラについて、テフラ検出分析と屈折率測定により示標テフラとの同定を行い、土層の堆積年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、深掘トレンチおよび40号土壌である。

2. 土層の層序

(1) 深掘トレンチ

白ヶ野第1遺跡の基本的な土層断面が認められたこの地点では、下位より乳黄白色砂質細粒火砕流堆積物（層厚10cm以上）、暗褐色土（層厚24cm）、乳白色細粒火山灰層（層厚8cm）、暗褐色土（層厚4cm）、白色がかった褐色土（層厚4cm）、灰色がかった暗褐色土（層厚1cm）、黄色軽石層（層厚11cm、軽石の最大径7mm）、褐色土（層厚4cm）、黄色軽石に富む褐灰色砂層（層厚9cm）、灰色がかった暗褐色土（層厚33cm）、橙色細粒火山灰層（層厚4cm）、灰色がかった暗褐色土（層厚7cm）の連続が認められた（図1）。これらのうち、最下位の乳黄白色砂質細粒火砕流堆積物は、層相から約2.2-2.5万年前に始良カルデラから噴出した始良入戸火砕流堆積物（A-Ito, 荒牧, 1969, 町田・新井, 1976）に同定される。

最上位の灰色がかった暗褐色土の上面には、軽微な凹凸が認められ、この層準に不整合の存在する可能性が考えられる。この軽微な凹凸の上位には、さらに下位より褐色土（層厚19cm）、褐色土のブロック混じり暗褐色土（層厚9cm）、黒褐色土（層厚9cm）、黄色粗粒火山灰混じり黒色土（層厚9cm）、黒色土（層厚7cm）、成層したテフラ層（層厚25cm）、暗褐色土（層厚12cm）、褐色土（層厚23cm）、黒灰色表土（層厚15cm）が認められる。

これらの土層のうち、成層したテフラ層は、下部の黄橙色軽石層（層厚3cm、

軽石の最大径 4 mm、石質岩片の最大径 3 mm)、黄橙色細粒火山灰層 (層厚 22cm) から構成されている。このテフラ層は、その層相から約 6,300 年前に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 町田・新井, 1978) に同定される。

(2) 40号土壌

40号土壌の覆土は、下位より暗褐色土 (層厚 57cm) と砂質褐色土 (層厚 13cm) からなる (図 2)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

深掘トレンチおよび 40号土壌において、テフラ粒子が認められた 6 点の試料について、テフラ検出分析を行って示標テフラの検出同定を試みた。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表 1 に示す。深掘トレンチ試料番号 5 および 4 には、平板状のいわゆるバブル型ガラスが多く含まれている。繊維束状の軽石型ガラスも少量認められる。火山ガラスの色調は透明で、淡褐色の火山ガラスも少量含まれる。これらの火山ガラスは、その特徴から、A-Ito あるいはその co-ignimbrite ash である始良 Tn 火山灰 (AT, 町田, 1976) に由来するものと思われる。試料番号 5 および 4 の土層ともに、層理が認められないことから、これらのテフラを起源とする風成再堆積層の可能性が大きい。

試料番号 3 には、黄色軽石 (最大径 7.1mm) が多く認められた。また試料番号 2 は細粒で、軽石やスコリアなどを検出することはできなかった。さらに試料番号 1 には、バブル型ガラスや繊維束状の軽石型ガラスが比較的多く含まれている。火山ガラスの色調は、透明や淡褐色である。これらの火山ガラスは、その特徴から、下位にある A-Ito や AT に由来すると思われる。

40号土壌試料番号 1 には、暗褐色スコリア (最大径 4.8mm) が多く含まれている。

このスコリアは、その岩相から従来788（延暦7）年に霧島火山御鉢火口から噴出したと考えられ、霧島延暦御鉢テフラ（Kr-0hE, 町田・新井, 1992）と命名されてきた霧島高原スコリア（Kr-ThS, 井ノ上, 1988, 早田, 1996印刷中）に由来すると考えられる。このテフラについては、最近加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果などから、10-13世紀の可能性が指摘されている（奥野, 1996）。

4. 屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

深掘トレンチの試料番号1、2、3について、位相差法（新井, 1972）によって屈折率測定を行い、従来噴出年代の知られている示標テフラとの同定精度をさらに向上させることにした。

（2）測定結果

屈折率の測定結果を表2に示す。試料番号3には、重鉱物として、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.705-1.707である。このテフラについては、層相も合わせると、約1.4-1.6万年前に霧島火山から噴出した霧島小林軽石（Kr-Kb, 伊田ほか, 1956, 町田・新井, 1992, 早田, 1996印刷中）に同定される。

試料番号2には、斜方輝石のほかに少量の単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.712である。このテフラは、層相および斜方輝石の屈折率などから、約1.1万年前に桜島火山から噴出した桜島薩摩テフラ（Sz-S, 小林, 1986, 町田・新井, 1992）に同定される。

さらに試料番号1にも、重鉱物として斜方輝石のほかに少量の単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.711である。このテフラは、岩相、層位さらに斜方輝石の屈折率などから、桜島嫁坂軽石（Sz-Ym, 早田, 1996印刷中）に由来すると考えられる。おそらく桜島末吉軽石（Sk-Sb, 森脇, 1994）と呼ばれている約6,500年前のテフラに同定されることが考えられる。

5. 小結

白ヶ野第1遺跡の土層の堆積年代に関する資料を収集するために、地質調査とテフラ検出分析さらに屈折率測定を行った。その結果、下位より始良入戸火砕流堆積物（A-Ito, 約2.2-2.5万年前）、霧島小林軽石（Kr-Kb, 約1.4-1.6万年前）、

桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約1.1万年前)、桜島嫁坂軽石 (Sz-Ym)、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約6,300年前)、霧島高原スコリア (Kr-ThS, 10-13世紀) を検出することができた。とくにKr-ThSとの層位関係から、40号土壌の構築は13世紀以前と推定される。

文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254-269.
- 荒牧重雄 (1969) 鹿児島県国分地域の火砕流堆積物。地質雑, 75, p.425-442.
- 伊田一善・本島公司・安国昇 (1956) 宮崎県小林市付近の天然ガス調査報告。地調報告, 168, p.1-44.
- 井ノ上幸造 (1988) 霧島火山群高千穂複合火山の噴火活動史。岩鉱, 83, p.26-41.
- 小林哲夫 (1986) 桜島火山の形成史と火砕流。文部省科研費自然災害特別研究「火山噴火に伴う乾燥粉体流 (火砕流等) の特質と災害」(研究代表者 荒牧重雄), p.137-163.
- 町田洋・新井房夫 (1976) 広域に分布するテフラ—始良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p.339-347.
- 町田洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ—鬼界アカホヤ火山灰。第四紀研究, 17, p.243-263.
- 町田洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 森脇広 (1994) 桜島テフラ—層序・分布と細粒火山灰層の層位—。文部省科研費研究成果報告書「鹿児島湾周辺における第四紀後期の細粒火山灰層にかんする古環境学的研究」, p.1-20.
- 奥野充 (1996) 南九州の第四紀末テフラの加速器¹⁴C年代 (予報)。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, VII, p.89-116.
- 早田勉 (1996印刷中) 宮崎県のテフラ。宮崎県史。

表1 白ヶ野第1遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
深掘	1	—	—	—	++	bw>pm	透明, 淡褐
	2	—	—	—	—	—	—
	3	+++	黄	7.1	—	—	—
	4	—	—	—	+++	bw>pm	透明, 淡褐
	5	—	—	—	+++	bw>pm	透明, 淡褐

40号土壌	1	+++	暗褐	4.8	—	—	—

++++ : とくに多い, +++ : 多い, ++ : 中程度, + : 少ない, — : 認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 白ヶ野第1遺跡における屈折率測定結果

試料	重鉱物	火山ガラスの屈折率 (n)	斜方輝石の屈折率 (γ)
1	opx>cpx	—	1.706-1.711
2	opx>cpx	—	1.706-1.712
3	opx, cpx	—	1.705-1.707

opx : 斜方輝石, cpx : 単斜輝石, ho : 角閃石. 屈折率の測定は, 位相差法 (新井, 1972) による. () の数字は中央値を示す.

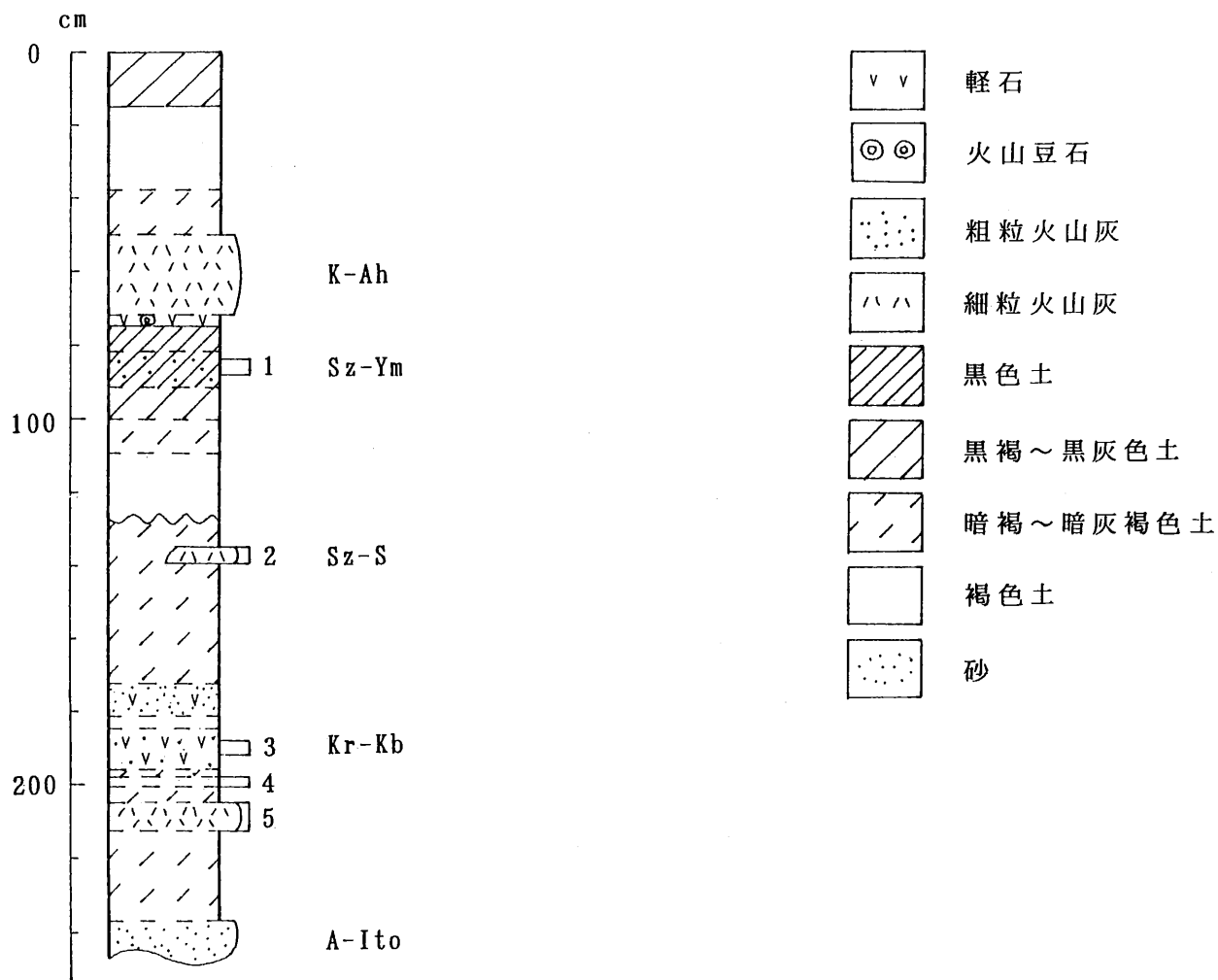


図1 深掘トレンチの土層柱状図
 数字はテフラ分析の試料番号

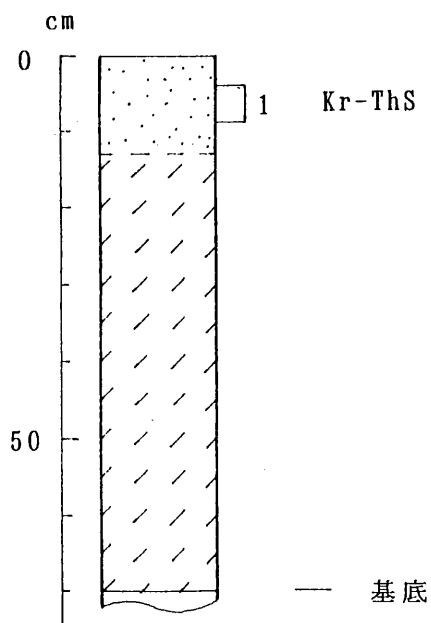


図2 40号土壌の土層柱状図
 数字はテフラ分析の試料番号

II. 白ヶ野第1遺跡における放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	霧島小林軽石 直下層	土壌	酸洗浄 石墨調整	加速器質量 分析(AMS)法
No. 2	始良入戸火砕流 堆積物直上層	土壌	酸洗浄 低濃度処理 ベンゼン合成	β 線法

2. 測定結果

試料名	^{14}C 年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年BP)	暦年代 交点 (1σ)	測定No. (Beta-)
No. 1	13050 \pm 60	-23.8	13070 \pm 60	—	992014
No. 2	14390 \pm 100	-24.9	14390 \pm 100	—	992015

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年BPより古い試料には適用できない。

Ⅲ. 白ヶ野第1遺跡における植物珪酸体分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。

2. 試料

試料は、深掘トレンチのK-Ahの上層からKr-Kbの下層までの層準から採取された計17点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105℃・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約40 μm ・約0.02g)
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法 (550℃・6時間) による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 (300W・42KHz・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 (20 μm 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属 (ヨシ) の換算係数は6.31、スス

キ属型（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

4. 分析結果

(1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

〔イネ科〕

機動細胞由来：キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族、Bタイプ、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、タケ亜科（未分類等）

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、莖部起源、未分類等

〔樹木〕

ブナ科（シイ属）、クスノキ科、クスノキ科（タブノキ?）、マンサク科（イスノキ属）、その他

(2) 植物珪酸体の検出状況

K-Ahの上層（試料1）からKr-Kbの下層（試料17）までの層準について分析を行った。その結果、Kr-Kbより下位層（試料13~17）では、イネ科Bタイプが多量に検出され、キビ族型やウシクサ族、クマザサ属型、棒状珪酸体なども検出された。Kr-Kbの上層（試料11、12）では、各分類群とも大幅に減少している。Sz-Sの下層（試料10）ではウシクサ族、クマザサ属型、棒状珪酸体が増加し、Sz-S直上層（試料9）ではススキ属型やネザサ節型が出現している。Sz-Ym混層（試料5）からK-Ah直下層（試料4）にかけては、クマザサ属型の減少に伴ってネザサ節型が大幅に増加し、メダケ節型なども増加している。K-Ah層（試料3）では植物珪酸体はほとんど検出されなかった。K-Ahの上層（試料2）では、ネザサ節型が比較的多く検出され、ススキ属型、ウシクサ族、メダケ節型なども検出された。また、同層ではブナ科（シイ属）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が出現している。試料1では、マンサク科（イスノキ属）が大幅に増加している。

おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、Sz-Sの下層からSz-Ymの下層にかけてはクマザサ属型が優勢であるが、Sz-Ym混層より上位ではネザサ節型が卓越していることが分かる。

5. 植物珪酸体分析から推定される植生・環境

始良入戸火砕流堆積物（A-Ito, 約2.2-2.5万年前）の上層から霧島小林軽石（Kr-Kb, 約1.4-1.6万年前）の下層にかけては、イネ科Bタイプが多く生育するイネ科植生であり、キビ族やクマザサ属なども見られたものと推定される。イネ科Bタイプは氷期の低湿地堆積物などから一般的に検出されているが、その給源植物は現在のところ不明である。

桜島薩摩テフラ（Sz-S, 約1.1万年前）直下層の堆積当時は、少量ながらクマザサ属やウシクサ族、イネ科Bタイプなどが生育するイネ科植生であったと推定される。タケ亜科のうち、メダケ属ネザサ節とクマザサ属は一般に相反する出現傾向を示し、前者は温暖の、後者は寒冷の指標となっている（杉山・早田, 1996）。ここでは、クマザサ属が卓越していることから、当時は比較的寒冷な気候条件下で推移したものと推定される。その後、桜島薩摩テフラ直上層の時期には、ススキ属やチガヤ属、ネザサ節なども見られるようになったものと考えられる。クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、これらの分類群は日当りの悪い林床では生育が困難である。このことから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく比較的開かれた環境であったものと推定される。

桜島嫁坂軽石（Sz-Ym）混層では、クマザサ属の減少に伴ってネザサ節が急激に増加し、メダケ節なども見られるようになったものと推定される。この植生変化は、後氷期初頭における急激な気候温暖化に対応しているものと考えられる。

その後、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah, 約6,300年前）の堆積によって、当時の植生は一時的に破壊されたと考えられるが、同テフラ直上層では比較的早い時期にネザサ節を主体としてススキ属なども見られるイネ科植生が再生したものと推定される。また、この時期には周辺でマンサク科（イスノキ属）、ブナ科（シイ属）、クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。

花粉分析の結果によると、南九州の沿岸部では鬼界アカホヤ火山灰の堆積以前には、シイ林を中心とする照葉樹林が成立していたとされているが（松下, 1992）、本遺跡では照葉樹林の拡大がやや遅れたものと考えられる。今後、周辺地域で同様の検討を行うことにより、照葉樹林の存在や分布拡大の様相が解明されるもの

と期待される。

6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、桜島薩摩テフラ (Sz-S, 約1.1万年前) の下層から上層にかけては、クマザサ属を主体としたイネ科植生が継続されていたが、桜島嫁坂軽石 (Sz-Ym) 混層を境にネザサ節を主体としたイネ科植生に移行していることが確かめられた。この植生変化は、後氷期初頭における気候温暖化に対応しているものと考えられる。その後、鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah, 約6,300年前) 直上層の時期には、周辺でイスノキ属、シイ属、クスノキ科などの照葉樹林が成立したものと推定される。

参考文献

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究, 第2号, p.27-37.
- 杉山真二 (1987) タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告, 第31号, p.70-83.
- 杉山真二・早田勉 (1994) 植物珪酸体分析による遺跡周辺の古環境推定 (第2報) -九州南部の台地上における照葉樹林の分布拡大の様相-。日本文化財科学会第11回大会研究発表要旨集, p.53-54.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 松下まり子 (1992) 日本列島太平洋岸における完新世の照葉樹林発達史。第四紀研究, 31 (5), p.375-387.

表1 清武町、白ヶ野第1遺跡の植物珪酸体分析結果
 検出密度(単位:×100個/g)

分類群 \ 試料	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イネ科																	
キビ族型					15	15	15	13	14						15	8	
ヨシ属					7	7	6	6		8					23		
ススキ属型	30	45		36	45	29	15	13	35								
ウシクサ族	45	91		123	136	184	229	162	104	42		44			15		
Bタイプ					7	7	22	45	48	85		53	215	244	714	487	333
タケ亜科																	
ネザサ節型	226	287		472	864	95		6	7								
クマザサ属型				22	76	213	140	97	69	99		8	30		8	23	8
メダケ節型	23	83		102	15	22	7										
未分類等	294	348		690	735	338	296	304	145	120		15	74		128	8	
その他のイネ科																	
表皮毛起源				15	22	22	30	65	28	14		30	15		30		
棒状珪酸体	527	643		799	894	793	621	666	568	451	8	38	415	61	413	46	38
差部起源												8	22				
未分類等	512	605	8	726	750	595	554	589	498	430	8	151	408	76	474	93	45
樹木起源																	
ブナ科(シイ属)	90	23															
クスノキ科	15	15															
クスノキ科(タブノキ?)	8																
マンサク科(イスノキ属)	588	227															
その他		15													8		
植物珪酸体総数	2358	2383	8	2971	3532	2320	1929	1966	1516	1241	23	302	1223	382	1827	664	424

おもな分類群の推定生産量(単位:kg/m²・cm)

ヨシ属					0.46		0.41			0.48					1.42		
ススキ属型	0.37	0.56		0.45	0.56	0.36	0.18	0.16	0.43								
ネザサ節型	1.08	1.38		2.27	4.15	0.46	0.03	0.03									
クマザサ属型				0.16	0.57	1.60	1.05	0.73	0.52	0.74	0.06	0.22		0.06	0.17	0.06	

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

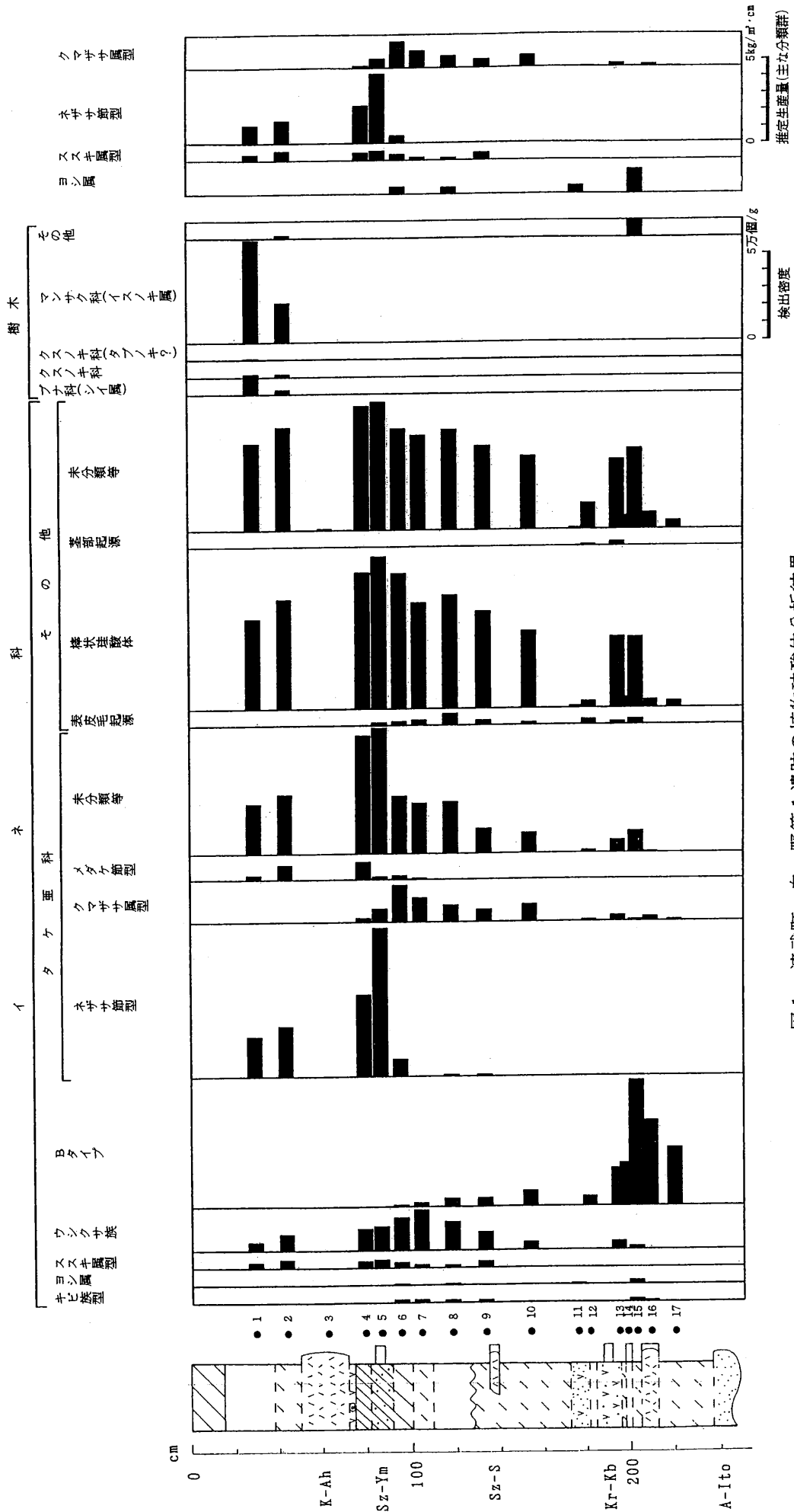


図1 清武町、白ヶ野第1遺跡の植物珪酸体分析結果

調 査 抄 録

ふりがな	ハッカノダイイチ・ダイヨンイセキ					
書 名	白ヶ野第1・第4遺跡					
副書名	県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書					
巻次	第1集					
シリーズ名	清武町文化財調査報告書					
シリーズ番号	第13集					
編集者名	井 田 篤					
編集機関	清武町教育委員会					
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引字白ヶ野					
発行年月日	2004年3月					
所在遺跡名	所在地	市町村:遺跡番号	北緯	東経	調査期間	
白ヶ野第1	清武町大字船引 字白ヶ野	清武町:211	31°52'40	131°22'10	95.11.22~96.3.14	
白ヶ野第4		—	31°52'43	131°22'23	96.7.22~96.12.28	
調査面積	調査面積	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
17,200㎡	農業関連	集落	縄文・中世	土坑、集石遺構	縄文式土器	
1,900㎡			縄文	土坑、集石遺構	石器	

清武町埋蔵文化財調査報告書第13集

白ヶ野第1・第4遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

発行年月日 平成16年3月29日
編集発行 清武町教育委員会
〒889-1696 宮崎県宮崎郡清武町大字船引204
TEL 0985-85-1111
印刷 有限会社いろは企画
〒889-1603 宮崎県宮崎郡清武町正手3丁目19-2
TEL 0985-85-5889
